遺物No.	層位	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	半透明・透明	金雲母		
608	Ⅵ＋Ⅷ	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○	－	○	－	隆帯は逆位で右回り	1069
609	Ⅵ＋Ⅷ	口縁部	隆帯上に押圧文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	○	○	－		1376
610	Ⅵ	胴部	隆帯上に押圧文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	2.5Y5/1(黄灰)	○	○	－	－	○	－		1554
611	Ⅸ	口縁部	隆帯上に爪形文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	－	－	○	－		1524
612	Ⅶ	口縁～胴部	隆帯上に押引文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－	口唇部キザミ ススト付着	1356
613	Ⅷ	口縁部	隆帯上に爪形文	ナデ・指押さえ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－	口唇部爪形文	966
614	Ⅷ	口縁部	隆帯上に爪形文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	－	－	○	－	口唇部爪形文	1522
615	Ⅷ	口縁部	つまみによる隆帯上に爪形文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	－	○	○	○	○	－		1373
616	Ⅸ	口縁～胴部	つまみによる隆帯上に爪形文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR7/1(灰白)	－	○	○	－	○	－		83
617	Ⅷ＋Ⅸ	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	－	○	－	○	－	－		1363
618	Ⅸ	口縁部	つまみによる隆帯文の下部にキザミ	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	○	○	－		1384
619	Ⅷ	口縁部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部キザミ	1369
620	Ⅸ	口縁～胴部	隆帯上にキザミ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	○	－	○	－		91
621	Ⅷ	口縁部	隆帯上にキザミ	ナデ(不明瞭)	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	○	口唇部キザミ	39
622	Ⅵ	口縁部	隆帯上に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－		1492
623	Ⅵ	口縁部	隆帯上に押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－		2015
624	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	7.5YR6/3(にぶい褐)	○	○	－	○	○	－	口唇部貝殻押圧文	1490
625	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	○	○	○	－		94
626	Ⅷ	口縁～胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○	－	○	○	－	ススト付着	1361
627	Ⅴ＋Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	○	－	○	－	口唇部貝殻押圧文	1489
628	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	－	－		1497
629	Ⅷ	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	指押さえ・ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－		1480
630	Ⅷ	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR5/1(褐灰)	7.5YR5/2(灰褐)	－	○	○	－	○	－		853
631	Ⅷ	口縁部	肥厚帯上部に爪形文と貝殻押圧文・下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－		1220
632	Ⅷ＋Ⅸ	胴部	肥厚帯下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	○	－	○	－		1383
633	Ⅷ＋Ⅸ	口縁部	肥厚帯上部に刺突文・下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y6/2(灰黄)	○	○	－	－	○	－		1487
634	Ⅸ	口縁部	肥厚帯上部に刺突文・下部に貝殻押圧文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	－	－	○	－		1360
635	Ⅸ	口縁部	肥厚帯上部に条痕文・下部に押圧文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	○	○	－		1357
636	Ⅷ	口縁部	肥厚帯上部に条痕文・下部に押圧文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	－	－	○	－		970
637	Ⅵ	口縁部	肥厚帯上部に条痕文・下部に押圧文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/2(灰黄褐)	○	○	－	○	－	－		323
638	Ⅴ＋Ⅷ＋Ⅸ	口縁～胴部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	○	○	－	口唇部押引文	95
639	Ⅵ＋Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部に押引文	ナデ・指押さえ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	－	○	○	－	口唇部貝殻押圧文	1491
640	Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部に隆帯及び押引文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○	○	－	○	－	口唇部貝殻押圧文	38
641	Ⅵ＋Ⅷ	口縁～胴部	肥厚帯下部に隆帯及び押引文	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	○	○	○	○	○	－	口唇部貝殻押圧文 穿孔2ヶ所有	92
642	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に沈線文	ナデ・指押さえ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	－	○	－	○	○	－		804
643	Ⅵ	胴部	肥厚帯下部に沈線文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－		1546
644	Ⅷ	口縁～胴部	肥厚帯下部に刺突文	指押さえ・ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	－	○	○	－	－	－		507
645	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	－	－		1501
646	Ⅷ	胴部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR4/1(褐灰)	－	○	○	－	○	－	ススト付着	1485
647	Ⅷ	胴部	肥厚帯下部に刺突文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	－	○	○	－		1552
648	Ⅵ	口縁～胴部	肥厚帯下部に押圧文	ナデ	10YR6/2(灰黄褐)	7.5YR6/4(にぶい褐)	○	○	○	－	○	－		1358
649	Ⅷ	胴部	肥厚帯下部に押圧文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－		1508
650	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に隆帯及び爪形文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－		1483
651	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部に隆帯及び爪形文	ナデ	10YR4/1(褐灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	－	－	口唇部に突起有	1479
652	Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部に爪形文	ナデ	2.5Y4/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	－	○	－	－	○	－		1372
653	Ⅸ	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ・指押さえ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	－	○	－	口唇部に刺突文	1481
654	Ⅵ＋Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	○	－	○	－		1486
655	Ⅵ＋Ⅷ	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	－		1509
656	Ⅷ＋Ⅸ	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	－		1506
657	Ⅵ	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	－	－	○	－	圧痕有？	1493
658	Ⅵ	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	－	○	－	○	○	－		1359
659	Ⅵ＋Ⅷ＋Ⅸ＋Ⅹ	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文	ナデ	5YR6/4(にぶい橙)	2.5Y4/1(黄灰)	○	○	－	－	○	－		1507
660	Ⅵ＋Ⅷ	口縁～胴部	肥厚帯上部に沈線文・下部に押圧文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR4/1(褐灰)	○	○	－	－	○	－		943
661	Ⅵ＋Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部に押圧文	粗いナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	－	○	○	○	○	－		1505
662	Ⅸ	胴部	肥厚帯下部につまみによる隆帯後ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－	ススト付着	1488
663	Ⅵ	口縁部	肥厚帯上部に刺突文・下部に爪形文	風化により不明瞭	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	－	○	－	○	－	○		41
664	Ⅵ	口縁部	肥厚帯上部に爪形文その下に刺突文	ナデ	5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	－	－	○	－		1548
665	Ⅷ	口縁部	つまみによる隆帯後ナデによる肥厚帯	ナデ・指押さえ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR7/3(にぶい黄橙)	○	○	○	○	○	－		1503
666	Ⅸ	口縁部	つまみによる隆帯後ナデによる肥厚帯	粗いナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	－	－	○	－		971
667	Ⅸ	口縁部	つまみによる隆帯後ナデによる肥厚帯	粗いナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	－	－	○	－		1504
668	Ⅷ	口縁部	肥厚帯上部に貝殻押圧文・下部に爪形文と貝殻押圧文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	－	○	○	－	口唇部貝殻押圧文	1362

遺物No.	層位	部位	文様及び調整		色調		胎土						備考	実測No.
			外面	内面	外面	内面	黒	白	灰	褐色	半透明・透明	金雲母		
669	Ⅷ	口縁部	肥厚帯下部につまみによる隆帯文と貝殻押圧文	ナデ	5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	－	○	○	－		1498
670	Ⅸ	口縁～胴部	口縁部下にやや肥厚させた上に爪形文	隆帯文(無文)	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	○	○	－	口唇部に爪形文	86
671	Ⅷ	口縁部	口縁部下にやや肥厚させた上に爪形文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	－	○	－	○	○	－		1367
672	Ⅷ	口縁部	口縁部下にやや肥厚させた上に爪形文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	○	○	－	口唇部キザミ	1539
673	Ⅸ	口縁部	口縁部下にやや肥厚させた上に爪形文	爪形文・ナデ・指押さえ	10YR5/1(褐灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－		967
674	Ⅵ	口縁部	口縁部下にやや肥厚させた上に爪形文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	－	－	口唇部キザミ	1368
675	Ⅷ	口縁部	口縁部下にやや肥厚させた上に爪形文	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－		1549
676	Ⅵ	胴部	爪形文・隆帯上に押圧文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	－	－	○	－		1553
677	Ⅵ	胴部	押圧文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y6/2(灰黄)	○	○	－	－	○	－		1568
678	Ⅸb	胴部	隆帯上に貝殻押圧文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	○	○	－		1484
679	Ⅵ＋Ⅸ	胴部	隆帯上にキザミ	ナデ	2.5Y5/1(黄灰)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－	浅鉢形	1518
680	Ⅷ	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－	浅鉢形	1517
681	Ⅵ＋Ⅸ	胴部	つまみによる隆帯文	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	－	－	○	－	浅鉢形	1519
682	Ⅵ	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－		1979
683	Ⅵ	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－		1976
684	Ⅷ＋Ⅸ	底部	ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	○	○	－		90
685	Ⅵ＋Ⅷ＋Ⅸ	底部	ナデ	ナデ	10YR7/4(にぶい黄橙)	2.5Y6/3(にぶい黄)	○	○	－	－	○	－	穿孔有	2386
686	Ⅵ＋Ⅸ	口縁部	つまみによる隆帯文の後に刺突文	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	○	－	○	－		87
687	Ⅸ	口縁部	つまみによる隆帯文の後に刺突文	縦方向の隆帯上に刺突文・ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	○	○	－	縦方向の隆帯有	1378
688	Ⅸ	口縁部付近	縦方向の隆帯上に刺突文	縦方向の隆帯上に刺突文・ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	－	－	○	－		1567
689	Ⅸ	胴部	ナデ・刺突文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	－	○	○	－		1566
690	Ⅷ	口縁部	縦・横方向の隆帯文の剥落痕	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	－	○	－	－	○	－	口唇部キザミ	1982
691	Ⅵ	口縁部	縦方向の短沈線文	刺突文・ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部短沈線文　刺突文	974
692	Ⅸ	口縁～胴部	つまみによる隆帯上に貝殻刺突文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	－	○	○	－	赤色顔料　スス付着	1075
693	Ⅵ	底部	ナデ	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	－	○	－	－	○	－	赤色顔料	85
694	Ⅷ	胴部	爪形文	丁寧なナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR8/3(浅黄橙)	－	○	－	－	－	－	赤色顔料	74
695	Ⅷ	胴部	楕円形の刺突文・ナデ	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	5YR4/2(灰褐)	○	○	－	－	○	－	スス付着	1588
696	Ⅵ	胴部	刺突文・ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	－	○	○	－		1573
697	Ⅵ	口縁部	爪形文・ナデ	ナデ	10YR4/2(灰黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部円形の刺突文	1974
698	Ⅵ	口縁部	楕円形の刺突文・ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部キザミ	1570
699	Ⅵ	口縁部	刺突文・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部指頭押圧	1975
700	Ⅵ	口縁部	楕円形の刺突文・ナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部キザミ	1571
701	Ⅷ	口縁部	円形の刺突文・ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	－	－	○	○	－	口唇部キザミ	972
702	Ⅷ	口縁部	円形の刺突文・ナデ	ナデ(不明瞭)	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	－	○	－	－	○	－		1375
703	Ⅸ	胴部	肥厚帯に円形の刺突文	ナデ	7.5YR6/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	○	○	－	－	○	－		1572
704	Ⅵ	胴部	円形の刺突文・ナデ	ナデ・指押さえ	7.5YR5/2(灰褐)	7.5YR4/1(褐灰)	○	○	－	○	○	－	口唇部円形の刺突文	973
705	Ⅸ	口縁部	肥厚帯に円形の刺突文	ナデ	2.5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	○	○	－	－	○	－		1547
706	Ⅵ	胴部	つまみによる隆帯上に円形の刺突文	ナデ	7.5YR4/1(褐灰)	5YR5/3(にぶい赤褐)	－	○	－	－	○	－		1569
707	Ⅵ	胴部	爪形文・ナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	○	－	スス付着	1540
708	Ⅵ＋Ⅷ	口縁～胴部	爪形文の下につまみによる爪形文・ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	○	○	－	－	○	－	口唇部キザミ	989
709	Ⅵ	口縁部	工具によるナデ	工具によるナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	2.5Y5/2(暗灰黄)	○	○	－	－	－	－		2018
710	Ⅵ	口縁部	工具によるナデ	工具によるナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	－	－		1984
711	Ⅵ	口縁部	条痕の後にナデ	ナデ	7.5YR5/2(灰褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－	スス付着	1980
712	Ⅵ	口縁部	工具によるナデ	工具によるナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	－	－	－	－		1983
713	Ⅷ	口縁～胴部	ナデ	ナデ	10R6/3(にぶい赤橙)	10YR5/2(灰黄褐)	○	○	○	○	○	－		2115
714	Ⅷ	口縁部	貝殻条痕の後にナデ	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	－	○	○	○	－	○	口唇部刺突文　スス付着	336
715	Ⅵ	口縁部	刺突文・貝殻条痕	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/4(にぶい黄褐)	○	○	○	○	○	－		342
716	Ⅵ	口縁部	刺突文・貝殻条痕	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	○	○	○	－		338
717	Ⅸ	口縁～底部	ナデ	ナデ	2.5Y5/3(黄褐)	2.5Y4/1(黄灰)	－	○	－	－	－	－	ミニチュアの深鉢	55
718	SC157＋Ⅷ	口縁～底部	ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/2(灰褐)	○	○	－	○	○	－	皿形土器	765
719	Ⅵ	底部	ナデ(不明瞭)	ナデ(不明瞭)	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR6/4(にぶい橙)	○	○	－	－	○	－	皿形土器	2237
720	Ⅵ	底部	ナデ	ナデ	2.5Y5/2(暗灰黄)	2.5Y4/1(黄灰)	－	○	○	－	－	－	ミニチュアの深鉢	1822
721	Ⅵ	土製品	つまみによる隆帯文	ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－	土製円盤	2008
722	Ⅷ	土製品	ナデ	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR6/3(にぶい黄橙)	○	○	－	－	○	－	土製円盤 下半部欠損	2229
723	Ⅷ	土製品	ナデ	ナデ	5YR4/1(褐灰)	5YR4/1(褐灰)	－	○	○	－	○	－	土製か？	2398

第６表　縄文草創期遺物包含層出土石器計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
724	1247	石鏃	A3	Ⅵ	頁岩	1.7	1.6	0.4	0.5	A類
725	1292	石鏃	B1	Ⅷ	頁岩	1.5	(1.2)	0.4	(0.4)	A類　脚部欠損
726	69	石鏃	A3	Ⅵ	頁岩	1.2	1.4	0.3	0.3	A類
727	73	石鏃	B3	Ⅸ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	1.45	0.45	0.4	A類
728	1270	石鏃	D4	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.2)	(1.4)	(0.4)	(0.3)	A類　先端～脚部欠損　試料No.KIH1-149
729	1261	石鏃	B2	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.3	(1.1)	0.4	(0.3)	A類　先端部・基部欠損　試料No.KIH1-151

蛍光Ｘ線分析による原産地推定結果あり（※ は原産地が判別できなかったもの）　　（　）の値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
730	1254	石鏃	D2	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	1.2	0.4	0.4	A類　試料No.KIH1-084
731	1264	石鏃	A3	Ⅷ	※黒曜石(鹿児島県産)	(1.2)	(1.4)	0.3	(0.2)	B類　脚部欠損　試料NO.KIH1-156
732	1224	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	1.5	(1.6)	0.4	(0.4)	B類　脚部欠損
733	1240	石鏃	A3	Ⅵ～Ⅷ	安山岩	1.5	1.6	0.2	0.4	B類
734	1241	石鏃	B3	Ⅸ	チャート	(1.4)	1.2	0.3	(0.4)	C類　先端部欠損
735	1244	石鏃	B3	Ⅸ	チャート	(1.7)	1.1	0.3	(0.4)	C類　先端部・脚部欠損
736	1243	石鏃	B2	Ⅷ	チャート	2.1	1.2	0.5	0.9	C類
737	71	石鏃	B3	Ⅸ	チャート	1.9	1.2	0.5	0.9	C類
738	1288	石鏃	B3	Ⅷ	チャート	1.7	(1.3)	0.4	(0.4)	C類　脚部欠損
739	1285	石鏃	B3	Ⅷ	チャート	2.0	1.2	0.4	0.6	C類
740	64	石鏃	B3	Ⅸ	チャート	1.9	1.2	0.4	0.6	C類
741	1245	石鏃	B3	Ⅷ	頁岩	1.9	(1.7)	0.4	(0.6)	C類　基部欠損
742	1221	石鏃	A3	Ⅷ	頁岩	(1.3)	1.5	0.3	(0.5)	C類　先端部欠損
743	1246	石鏃	A4	Ⅷ	頁岩	1.6	1	0.5	0.5	C類
744	1251	石鏃	B3	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.7)	(1.1)	0.5	(0.5)	C類　先端部・基部欠損　試料No.KIH1-087
745	713	石鏃	B3	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.3)	1	0.4	(0.3)	C類　先端部欠損　試料No.KIH1-104
746	1275	石鏃	A4	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.8)	1.3	0.4	(0.4)	C類　先端部欠損
747	52	石鏃	A4	Ⅸ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	1.4	0.3	0.7	C類
748	1280	石鏃	B3	Ⅸ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	(1.1)	0.4	(0.4)	C類　先端部・脚部欠損
749	1253	石鏃	B2	Ⅵ	黒曜石(鹿児島県産：三船)	(1.9)	(1.2)	(0.5)	(0.8)	C類　脚部欠損　試料No.KIH1-086
750	1286	石鏃	B3	Ⅷ	チャート	1.8	1.3	0.4	0.7	D類
751	1287	石鏃	B3	Ⅷ	チャート	1.8	1.5	0.4	0.6	D類
752	1242	石鏃	B1	Ⅵ	チャート	1.9	1.7	0.4	0.6	D類
753	1289	石鏃	B3	Ⅷ	頁岩	(1.6)	(0.9)	0.3	(0.3)	D類　先端部・脚部欠損
754	1248	石鏃	A3	Ⅷ	頁岩	2.8	1.5	0.5	1.5	D類
755	1291	石鏃	B3	Ⅷ	頁岩	(2.2)	(1.4)	(0.4)	(1.1)	D類　先端部・脚部欠損
756	1249	石鏃	A3	Ⅷ	頁岩	(1.9)	(1.6)	0.3	(0.5)	D類　脚部欠損
757	51	石鏃	B3	Ⅸ	頁岩	1.65	1	0.3	0.4	D類
758	1256	石鏃	A4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.8)	(1.1)	0.4	(0.4)	D類　脚部欠損　試料No.KIH1-092
759	1272	石鏃	D4	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.2	0.9	0.3	0.2	D類
760	1268	石鏃	B2	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.5)	(1.1)	0.4	(0.5)	D類　先端部・脚部欠損
761	1277	石鏃	D4	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.3)	1.1	0.4	(0.3)	D類　先端～側縁部欠損
762	1278	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	1.1	0.4	(0.3)	D類　先端部欠損
763	1258	石鏃	B3	Ⅷ	※黒曜石(桑ノ木津留)	1.9	1.2	0.6	0.8	D類　試料No.KIH1-152
764	1282	石鏃	B3	Ⅸ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.2)	7.0	0.4	(0.1)	D類　先端部欠損
765	1271	石鏃	A4	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.9	(1.3)	0.4	(0.6)	D類　脚部欠損
766	1252	石鏃	D2	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.3	0.5	0.8	D類
767	1281	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.2	(1.4)	0.5	(0.9)	D類　脚部欠損　被熱か
768	72	石鏃	A4	Ⅸ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	1.4	0.5	0.8	D類
769	1279	石鏃	B3	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.9	1.2	0.4	(0.5)	D類　側縁部欠損
770	1276	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	1.1	0.4	(0.4)	D類　先端部欠損
771	1263	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.1	0.4	0.4	D類　試料No.KIH1-157
772	1257	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.6)	1.1	0.3	(0.3)	D類　先端部欠損　試料No.KIH1-155
773	1259	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.2	0.4	0.3	D類　試料No.KIH1-148
774	1260	石鏃	B3	Ⅸ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.9	1.2	0.4	0.6	D類　試料No.KIH1-150
775	1255	石鏃	B3	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.0	(1.5)	0.5	(0.8)	D類　脚部欠損　試料No.KIH1-117
776	1239	石鏃	A3	Ⅵ～Ⅷ	安山岩	1.5	1.2	0.2	0.1	D類
777	1284	石鏃	A3	Ⅷ	チャート	(1.9)	1	0.4	(0.6)	E類　先端部欠損
778	1290	石鏃	B1	Ⅷ	頁岩	1.7	1.2	0.4	0.5	E類
779	1223	石鏃	B3	Ⅷ	頁岩	1.9	(1.4)	0.4	(0.5)	E類　脚部欠損
780	1266	石鏃	A3	Ⅵ	頁岩	(1.8)	(1.5)	0.4	(0.6)	E類　先端部・脚部欠損
781	1293	石鏃	B1	Ⅷ	頁岩	2.3	1.6	0.4	1.3	E類
782	1267	石鏃	B2	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.5)	(1.2)	0.4	(0.4)	E類　先端部・脚部欠損　試料No.KIH1-089
783	1273	石鏃	A4	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.8)	1	0.6	(0.5)	E類　先端部欠損
784	1262	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.8	(1.1)	0.3	(0.4)	E類　脚部欠損　試料No.KIH1-154
785	1274	石鏃	B3	Ⅷ	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.3	0.4	0.5	E類
786	1302	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	2.3	1.3	0.4	0.9	E類
787	1250	石鏃	B3	Ⅸ	ホルンフェルス	(1.9)	1.2	0.5	(0.6)	E類　先端部欠損
788	65	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	(2.1)	1.8	0.35	(1.1)	F類　先端部欠損
789	58	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	2.5	1.9	0.35	1	F類
790	1295	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.0	1.8	0.4	(1)	F類　脚部欠損
791	1299	石鏃	D1	Ⅵ	安山岩	2.5	1.8	0.4	1	F類
792	1298	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	2.6	1.9	0.3	1.1	F類
793	1303	石鏃	A2	Ⅷ	安山岩	2.0	1.7	0.4	(0.8)	F類　脚部欠損
794	1283	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	2.7	2.3	0.6	2.2	F類
795	1296	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.7	1.6	0.5	1	F類
796	1301	石鏃	A2	Ⅵ	安山岩	(2.0)	1.7	0.3	(0.7)	F類　脚部欠損
797	1300	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.1	(1.6)	0.3	(0.7)	F類　脚部欠損
798	1294	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.0	1.8	0.4	1	F類
799	1231	石鏃	A3	Ⅴ	安山岩	(2.3)	2.1	0.5	(1.4)	F類　先端部欠損
800	1234	石鏃	A3	Ⅴ	安山岩	(2.5)	(2.0)	0.6	(1.5)	F類　先端部・脚部欠損
801	1232	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	3.7	2.4	0.5	1.9	F類　先端部再加工
802	1227	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.7	(1.8)	(0.4)	(1.3)	F類　側縁部・脚部欠損
803	1225	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	2.4	(2.2)	0.3	(0.9)	F類　側縁部欠損
804	1233	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	(2.6)	2.2	0.4	(1.8)	F類　先端部欠損
805	1236	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.7	(2.1)	0.3	(1.2)	F類　脚部欠損
806	1226	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.6	(2.0)	0.4	(1.1)	F類　脚部欠損
807	1238	石鏃	A3	Ⅵ	安山岩	2.0	1.9	0.4	1.3	F類
808	1228	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	3.3	(1.8)	0.5	(2.2)	F類　脚部欠損
809	1229	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	(3.9)	(2.1)	0.7	(3.3)	F類　先端部・脚部欠損
810	1237	石鏃	A4	Ⅷ	安山岩	2.2	1.7	0.4	0.7	F類
811	1297	石鏃	A3	Ⅷ	安山岩	2.2	2.0	0.4	1.1	F類
812	1306	石鏃	A3	Ⅷ	頁岩	2.7	(2.1)	0.4	(1.3)	F類　脚部欠損
813	54	石鏃	A3	Ⅵ	緑色堆積岩	(2.2)	2.3	0.35	(1.8)	G類　先端部・基部欠損
814	1309	石鏃	B3	Ⅵ～Ⅷ	頁岩	2.7	(1.6)	0.4	(1.3)	G類　基部欠損　研磨有

蛍光X線分析による原産地推定結果あり（※ は原産地が判別できなかったもの）　　（　）の値は残存値を示す

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
815	1235	石鏃	A3	Ⅷ	ホルンフェルス	4.0	(2.5)	(0.5)	(3.1)	H類　脚部欠損
816	1310	石鏃未製品	A3	Ⅷ	チャート	2.3	1.9	0.7	3.1	
817	1269	石鏃未製品	B3	Ⅵ	チャート	1.6	1.2	0.3	0.4	先端部光沢有　側面摩耗か
818	68	石鏃未製品	A3	Ⅷ	流紋岩	2.4	2.1	0.6	3.1	
819	1222	石鏃未製品	A3	Ⅷ	頁岩	2.3	1.8	0.5	0.6	
820	1308	石鏃未製品	B3	Ⅵ	頁岩	3.3	2.6	0.3	3.7	
821	687	石鏃未製品	B3	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.4	1	0.4	0.4	試料No.KIH1-105
822	1307	石鏃未製品	A3	Ⅷ	※黒曜石(西北九州)	2.7	2.2	0.7	3.4	試料No.KIH1-153
823	1304	石鏃未製品	A3	Ⅷ	安山岩	(3.1)	2.0	0.7	(2.1)	先端部欠損
824	70	石鏃未製品	A3	Ⅷ	安山岩	2.7	2.0	1	3.8	
825	1305	石鏃未製品	A3	Ⅵ～Ⅷ	安山岩	(3.4)	(2.0)	0.5	(2.5)	脚部欠損
826	1230	石鏃未製品	A3	Ⅵ	安山岩	3.7	2.9	0.8	6.1	
827	1311	石鏃未製品	A3	Ⅷ	頁岩	2.8	2.6	0.9	6.7	
828	1312	石鏃未製品	A3	Ⅷ	頁岩	4.0	3.0	0.8	9.3	
829	66	尖頭器	A3	Ⅴ	頁岩	(9.2)	2.3	1.2	(20.2)	先端部・基部欠損
830	67	尖頭器	A2	Ⅵ	頁岩	(6.4)	2.4	1.1	(13.1)	先端部・側縁部欠損
831	50	尖頭器	A3	Ⅵ	頁岩	(7.8)	2.2	1.1	(18.6)	先端部欠損
832	209	尖頭器	D4	Ⅷ	頁岩	7.1	2.9	0.8	17.7	光沢有
833	208	尖頭器	D4	Ⅵ	頁岩	(3.4)	(2.7)	(1.1)	(10.5)	下半部欠損　先端部光沢有
834	2345	尖頭器	B3	Ⅵ	頁岩	(2.7)	3.15	0.8	6.3	下部欠損
835	56	局部磨製尖頭器	B3	Ⅸ	緑色堆積岩	5.4	2.8	0.85	14	
836	1265	尖頭器	A2	Ⅵ	※黒曜石(西北九州)	2.8	3.0	0.7	3.6	試料No.KIH1-044
837	57	尖頭器	A2	Ⅵ	安山岩	9.1	2.1	0.7	11	
838	1314	尖頭器	A3	Ⅷ	安山岩	(2.4)	(2.3)	(1.2)	(6.8)	基部のみ残存
839	36	尖頭器	A1	Ⅵ	安山岩	(2.3)	(2.4)	(0.65)	(2.4)	先端部のみ残存
840	44	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	砂岩	(5.7)	(4.5)	(2.15)	(67.0)	下半部欠損
841	49	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	砂岩	(6.0)	3.5	2.1	(61.5)	下半部欠損
842	46	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	砂岩	(7.4)	4.5	2.3	(85.1)	下半部欠損
843	48	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	砂岩	(5.55)	4.0	2.25	(75.8)	下半部欠損
844	45	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	砂岩	(5.55)	4.4	2.0	(64.7)	両端部欠損
845	43	矢柄研磨器	A3	Ⅵ	砂岩	(6.2)	4.1	1.6	(42.2)	左側縁部・下半部欠損
846	20	矢柄研磨器	A1	Ⅵ	砂岩	(4.4)	4.45	1.85	(35.9)	上半部欠損
847	47	矢柄研磨器	A3	Ⅷ	砂岩	5.65	4.3	2.0	66.6	
848	1317	石錐	B3	Ⅷ	チャート	2.9	1.9	0.8	4.2	
849	1322	石錐	A3	Ⅷ	頁岩	(3.5)	2.8	1.1	(11.4)	錐部欠損
850	1316	石錐	A3	Ⅷ	安山岩	(2.5)	2.0	0.8	(2.8)	錐部欠損
851	1319	石錐	A3	Ⅵ	安山岩	4.0	1.6	0.3	(1.5)	基部欠損
852	1321	石錐	A2	Ⅷ	安山岩	(5.2)	2.9	0.7	(9.3)	錐部・基部欠損
853	59	石錐	A3	Ⅷ	安山岩	2.6	1	0.5	1.8	
854	1320	石錐	A3	Ⅵ	安山岩	3.1	1.9	0.5	(2.5)	側縁部欠損
855	1315	石錐	A3	Ⅷ	安山岩	(2.7)	2.1	0.9	(3.3)	錐部欠損
856	1318	石錐	A1	Ⅵ	安山岩	(2.4)	(2.1)	0.6	(1.8)	基部欠損
857	236	石錐	A3	Ⅵ	安山岩	(4.5)	(2.5)	0.7	(5.7)	錐部・側縁部欠損
858	1323	石匙	B3	Ⅵ	頁岩	2.7	4.3	0.7	6.1	
859	1325	石匙	B3	Ⅷ	堆積岩	6.9	4.6	0.6	16.1	
860	1333	スクレイパー	A3	Ⅷ	頁岩	8.4	5.9	1.7	56.0	
861	1328	スクレイパー	D4	Ⅷ	頁岩	6.9	4.8	2.3	59.0	
862	1324	スクレイパー	B3	Ⅷ	頁岩	6.9	5.2	1.9	63.5	
863	1330	スクレイパー	A3	Ⅷ	頁岩	(5.8)	(3.7)	1.6	(27.3)	両端部欠損
864	1326	スクレイパー	A3	Ⅷ	頁岩	7.5	4.8	2.7	92.5	
865	1332	スクレイパー	A3	Ⅷ	安山岩	6.5	5.7	1.1	32.7	
866	1331	スクレイパー	A3	Ⅵ	安山岩	6.6	4.2	1.2	23.7	
867	1341	スクレイパー	A3	Ⅷ	安山岩	4.3	2.5	0.7	9.3	
868	1327	スクレイパー	A3	Ⅷ	安山岩	(4.7)	(3.1)	(0.8)	(7.7)	右側縁部欠損
869	1340	スクレイパー	A3	Ⅷ	安山岩	(3.5)	2.7	0.7	(7.2)	下端部欠損
870	1339	スクレイパー	A3	Ⅷ	安山岩	4.3	2.2	0.8	6.8	
871	1338	スクレイパー	A3	Ⅷ	安山岩	3.9	1.6	0.9	4.9	
872	1336	スクレイパー	A3	Ⅷ	砂岩	11.7	7.8	2.1	212.3	
873	1335	スクレイパー	A3	Ⅷ	砂岩	10.2	6.1	2.2	127.5	
874	1343	スクレイパー	B3	Ⅸ	砂岩	9.4	6.2	1.4	88.3	
875	1334	スクレイパー	A3	Ⅷ	砂岩	9.6	5.1	2.1	66.5	
876	1345	スクレイパー	B3	Ⅸ	砂岩	6.3	5.1	1.3	34.7	
877	1346	スクレイパー	B3	Ⅷ	砂岩	9.5	4.9	1.5	78.3	
878	1342	スクレイパー	B3	Ⅷ	ホルンフェルス	7.3	6.2	0.9	42.5	付着物・磨面有
879	1344	スクレイパー	A4	Ⅸ	ホルンフェルス	5.6	5.2	1.3	35.8	光沢有
880	1329	スクレイパー	B3	Ⅷ	緑色堆積岩	8.0	4.3	0.8	28.9	
881	1347	スクレイパー	D4	Ⅷ	頁岩	8.4	4.3	1.5	(62.9)	側縁部欠損
882	1337	スクレイパー	B2	Ⅷ	頁岩	9.7	5.1	2.2	112.6	
883	2238	丸ノミ型石斧	B3	Ⅷ	緑色堆積岩	12.9	5.15	3.3	359.5	光沢有
884	260	丸ノミ型石斧	A3	Ⅵ	砂岩	(10.9)	(3.6)	(2.7)	(133.4)	左半部欠損　未製品か
885	76	丸ノミ型石斧	A3	Ⅵ	砂岩	15	4.8	2.9	216.3	
886	1351	石斧	B2	Ⅷ	頁岩	10.5	4.2	1.3	79.6	
887	1352	石斧	D4	Ⅷ	頁岩	(6.3)	(4.7)	(1.7)	(49.9)	刃部欠損
888	1349	石斧	B1	Ⅷ	頁岩	10.3	5.7	2.1	159	
889	1354	石斧	A3	Ⅵ	砂岩	(6.6)	7.1	2.5	(184.9)	基部欠損
890	75	石斧	B3	Ⅷ	緑色堆積岩	9.5	4.5	2.3	120.5	
891	1355	敲石	D4	Ⅵ	頁岩	8.0	7.2	2.8	203.7	光沢有
892	1820	敲石	B3	Ⅷ	砂岩	(8.25)	4.4	2.9	(163.4)	下部欠損
893	1818	敲石	A3	Ⅷ	砂岩	15.4	4.5	3.9	414.6	
894	1817	敲石	A3	Ⅷ	砂岩	18.7	6.0	2.8	(605.3)	側縁部欠損
895	1819	磨石・敲石	A3	Ⅷ	砂岩	9.0	5.6	2.0	178.7	
896	1815	磨石・敲石	A3	Ⅷ	砂岩	11	9.9	5.4	779.8	
897	1816	敲石	A2	Ⅷ	砂岩	10.9	5.15	4.05	282.4	
898	2117	石皿	A3	Ⅵ	砂岩	32.2	24.5	9.3	8200	
899	2118	砥石・台石	A2	Ⅷ	砂岩	29.25	18.7	12.4	9000	

蛍光Ｘ線分析による原産地推定結果あり（※ は原産地が判別できなかったもの）　　（　）の値は残存値を示す

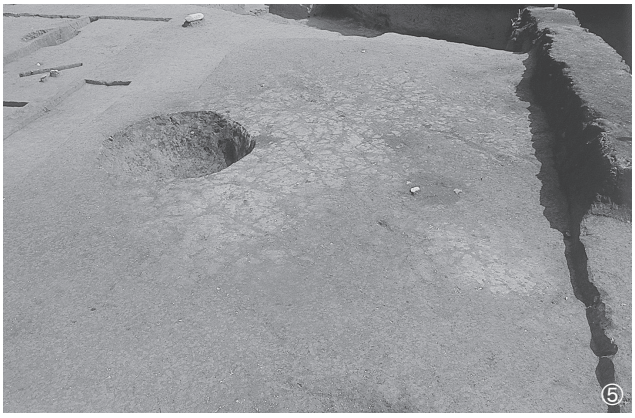
① 草創期住居群と作業員さん
② １号住居 検出
③ １号住居
④ ２号住居 遺物出土状況
⑤ ２号住居 作業風景
⑥ ２号住居
⑦ ２号住居と作業員さん

図版９　縄文草創期遺構①

①　２号住居 配石炉　　②　２号住居 配石遺構検出　　③　２号住居 柱穴６　土層断面
④　３号住居　　⑤　３号住居 遺物（№265）出土状況　　⑥　４号住居　　⑦　４号住居 炉跡
⑧　４号住居 遺物（№292・293）出土状況

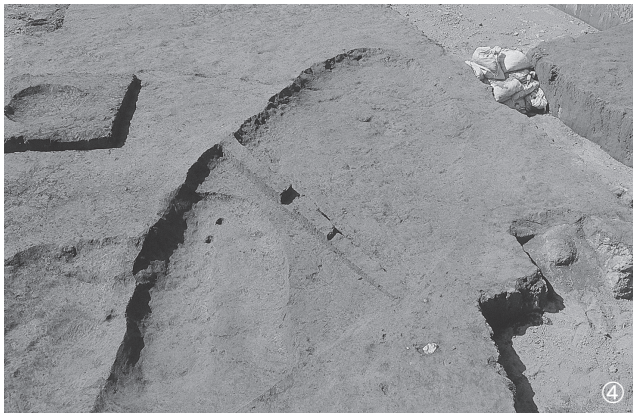
図版10　縄文草創期遺構②

① ４号住居
② ５号住居 検出
③ ５号住居
④ ６号住居
⑤ サツマ火山灰検出範囲
⑥ ７号住居 遺物出土状況
⑦ ７号住居 遺物（№354）
出土状況

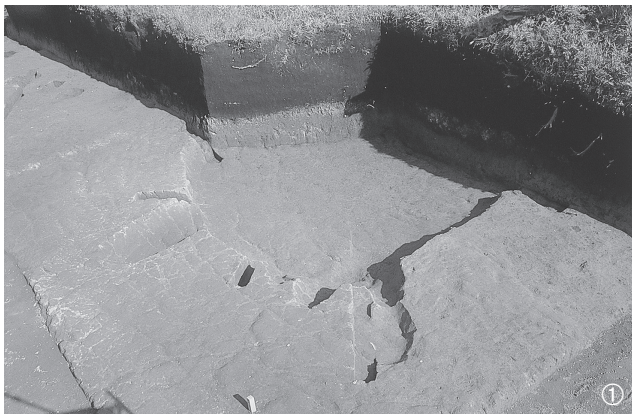


図版11　縄文草創期遺構③

① ８号住居 遺物（№378）出土状況
② ８号住居 遺物出土状況
③ ７・８・９号住居
④ 10号住居
⑤ 12号住居
⑥ 13号住居
⑦ 14号住居 検出

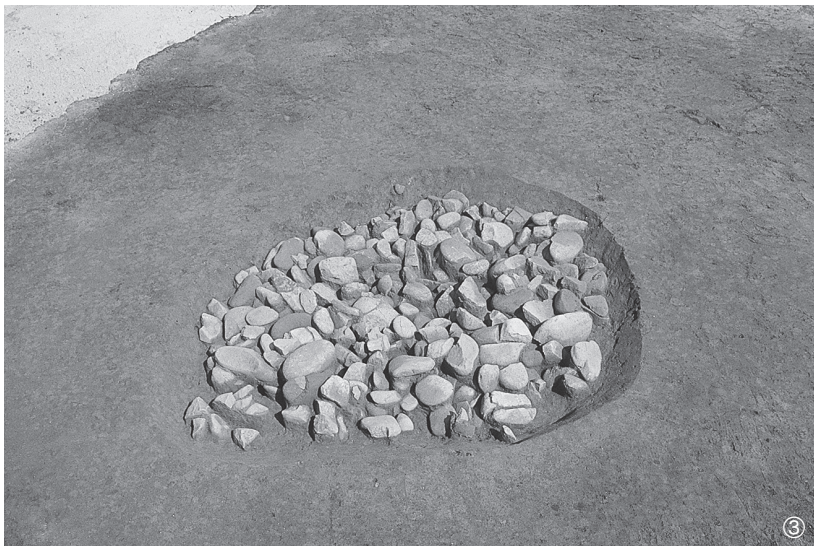


図版12　縄文草創期遺構④

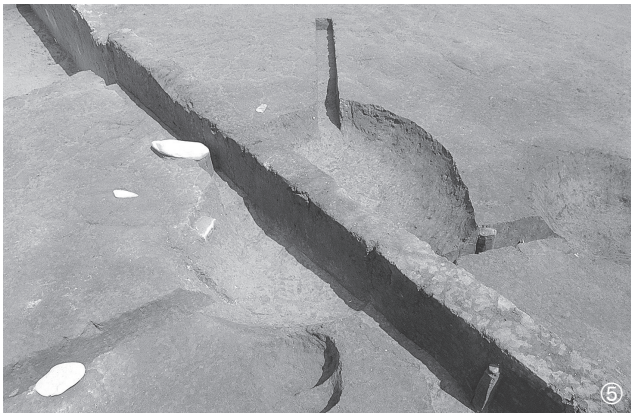


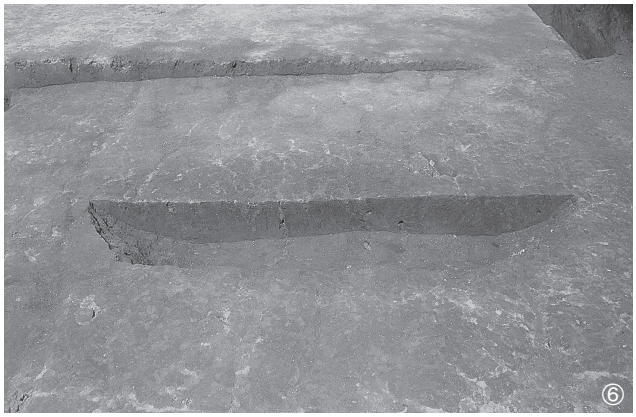
① 14号住居
② 14号住居 柱穴土層断面
③ 14号住居 遺物（№475）
　出土状況
④ SC－327 半截
⑤ SC－329 遺物出土状況
⑥ SC－321 土層断面
⑦ SC－338

図版13　縄文草創期遺構⑤



① SI－55
② SI－56
③ SI－85
④ SI－279
⑤ SC－323
⑥ SC－325 土層断面
⑦ SC－342 土層断面





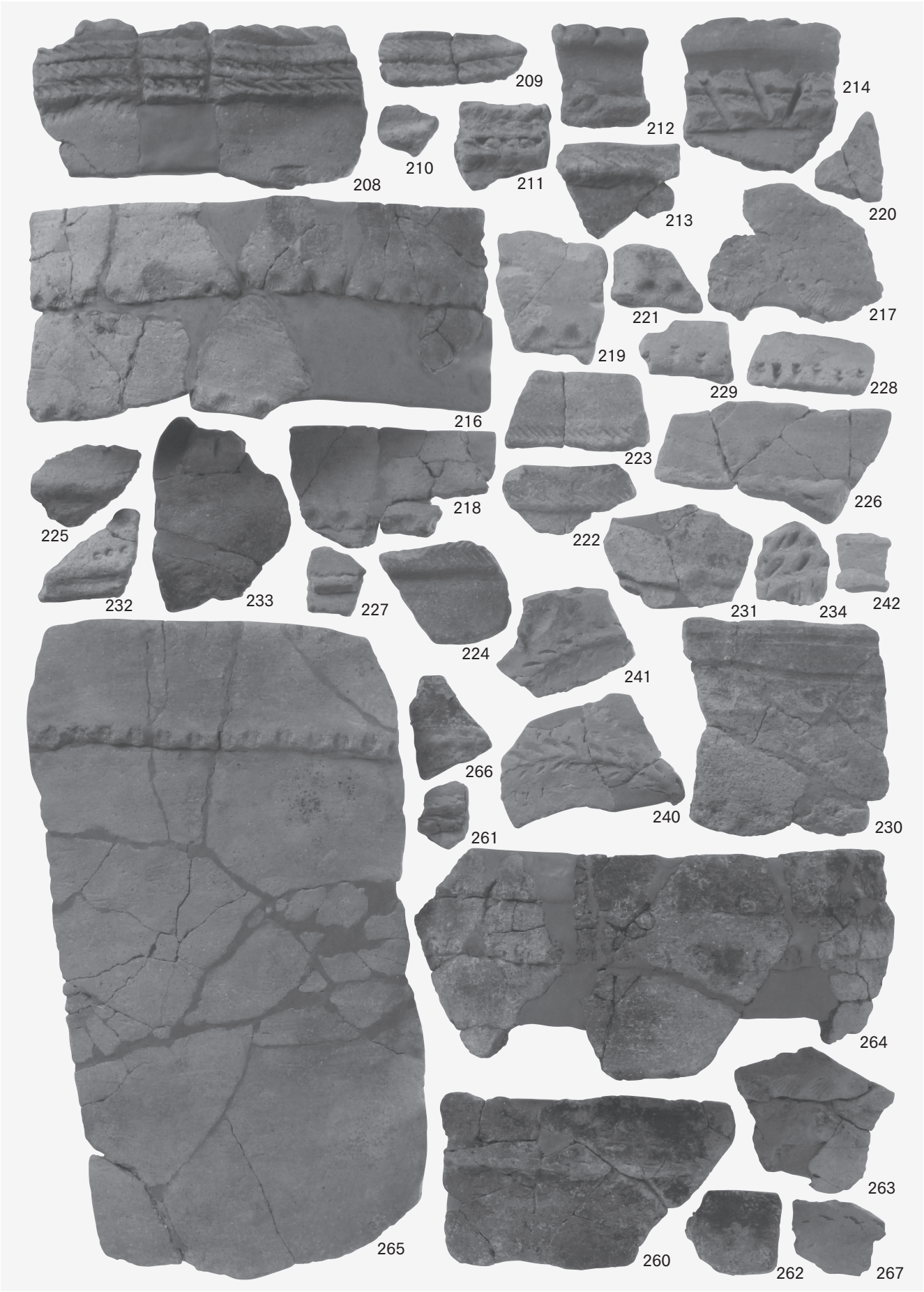
図版14　縄文草創期遺構⑥

① SZ－273　② SC－29　③ SC－116　④ SC－129　⑤ SC－130　⑥ SC－190
⑦ SC－202　⑧ SC－232

図版15　縄文草創期遺構⑦

① SC－313 遺物出土状況
② 矢柄研磨器（№840）出土状況
③ 矢柄研磨器（№847）出土状況
④ 尖頭器（№837）出土状況
⑤ ミニチュア土器（№717）
　出土状況
⑥ 丸ノミ型石斧（№883）
　出土状況
⑦ 石斧（№886）出土状況

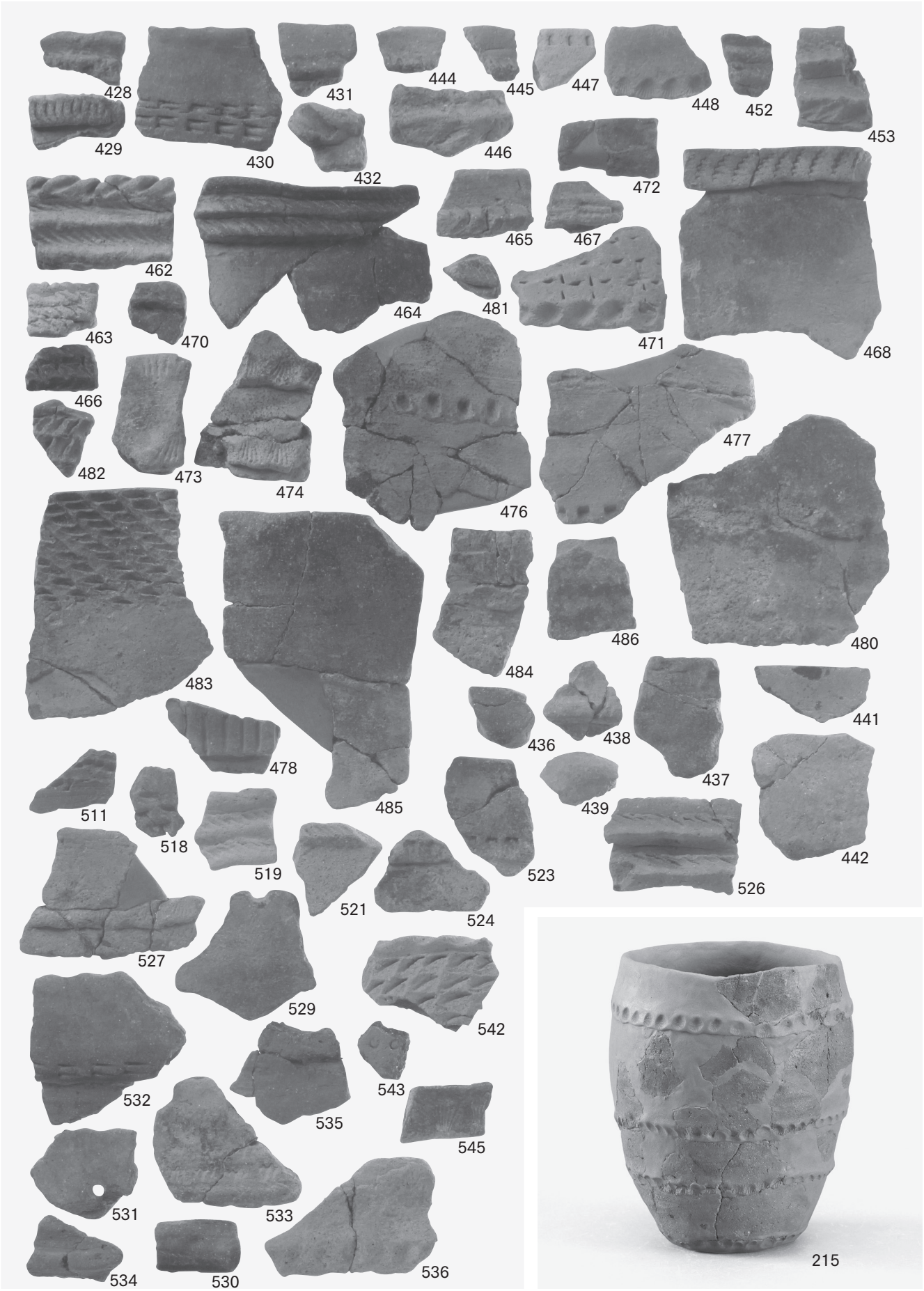
図版16　縄文草創期遺物出土状況



図版17　縄文草創期遺構内出土遺物①

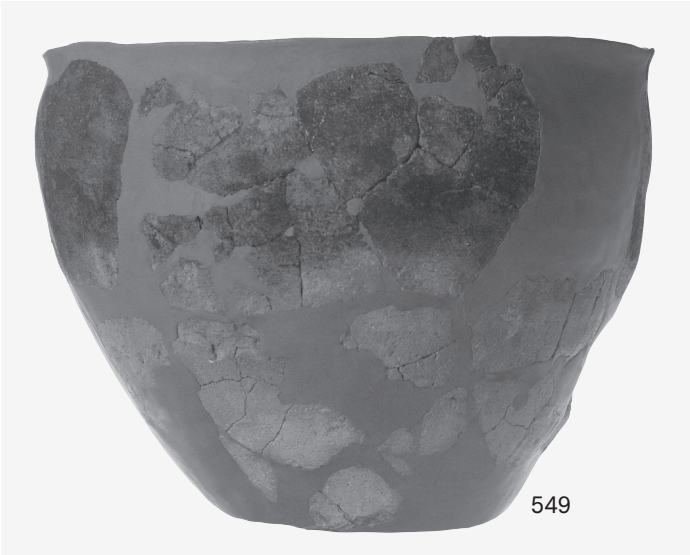
図版18　縄文草創期遺構内出土遺物②

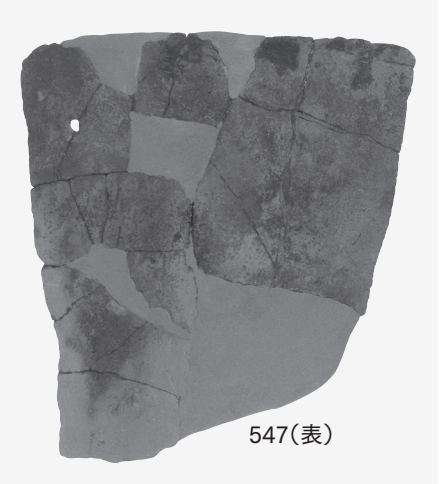
図版19　縄文草創期遺構内出土遺物③

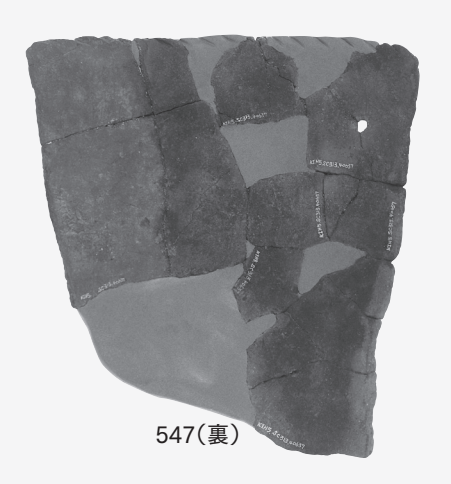


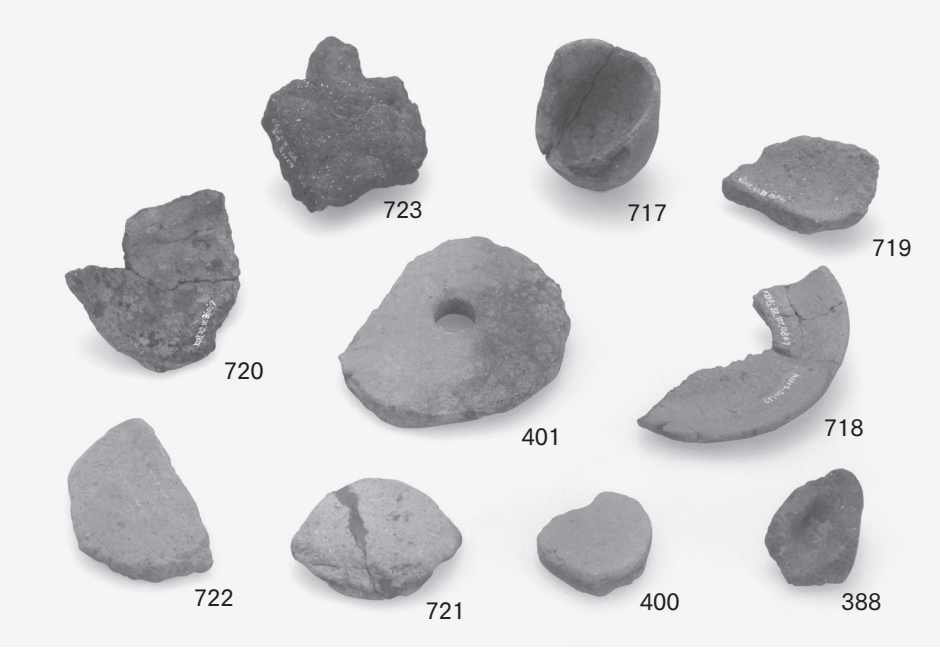
図版20　縄文草創期遺構内出土遺物④

図版21　縄文草創期遺構内出土遺物⑤

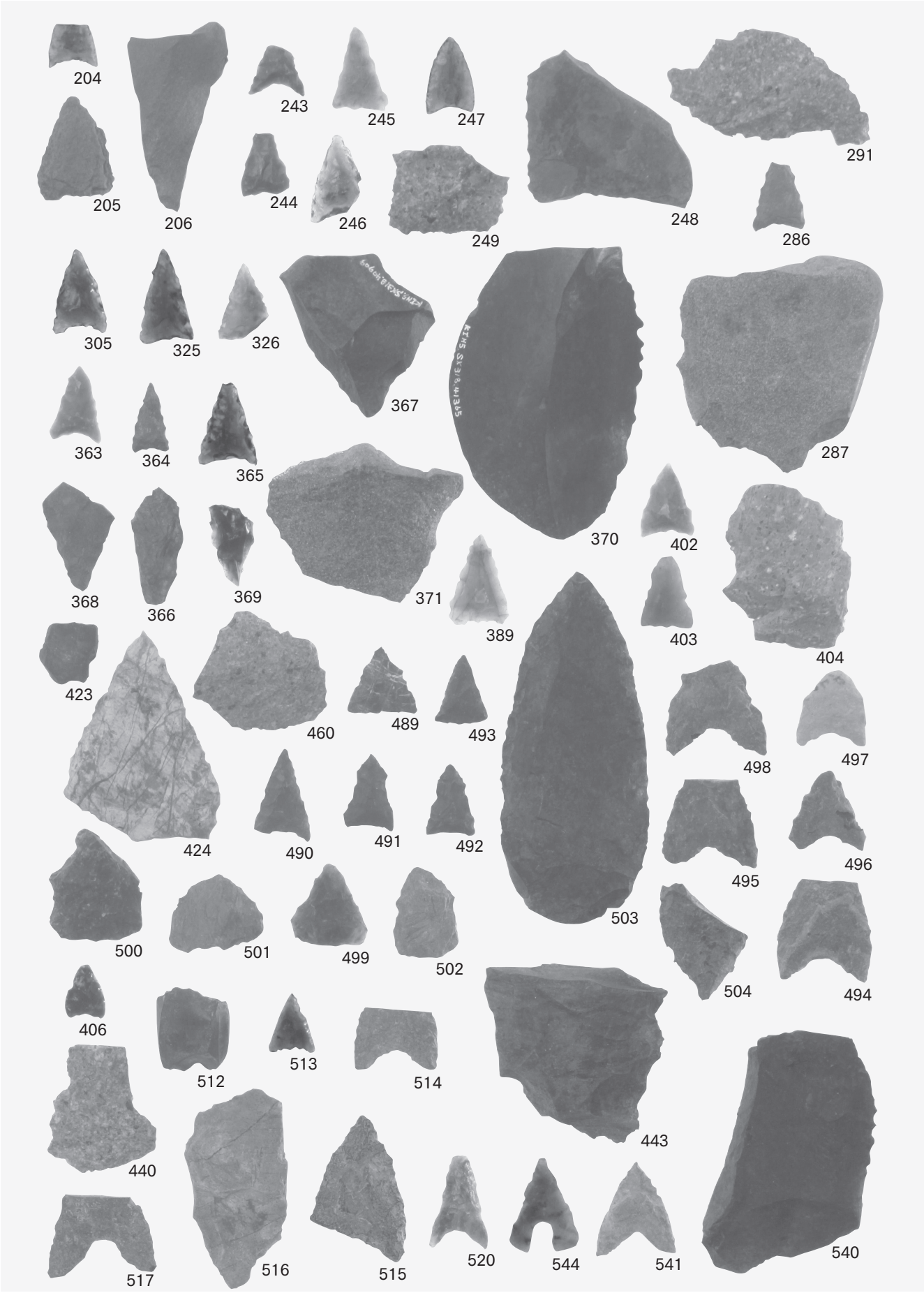




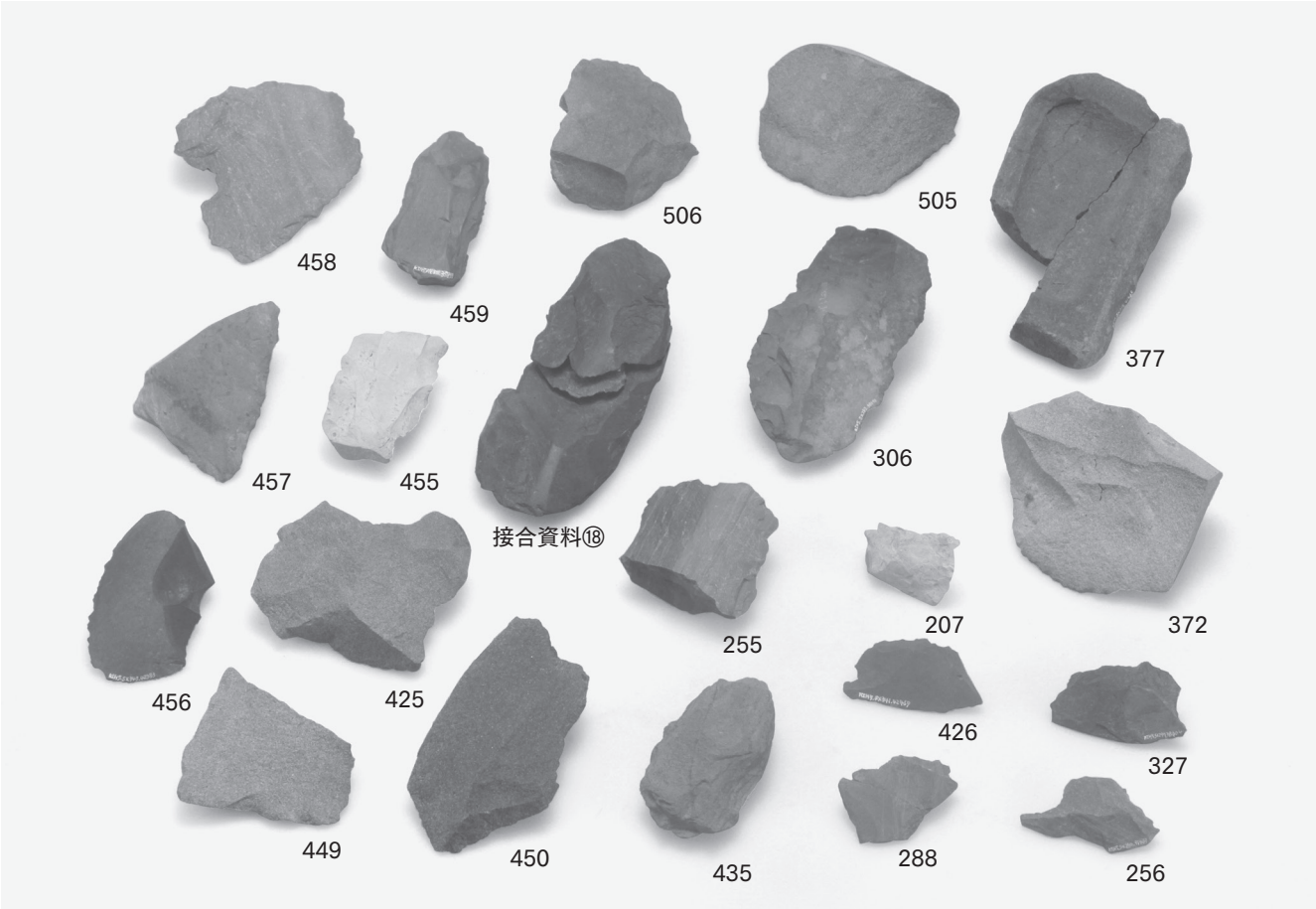


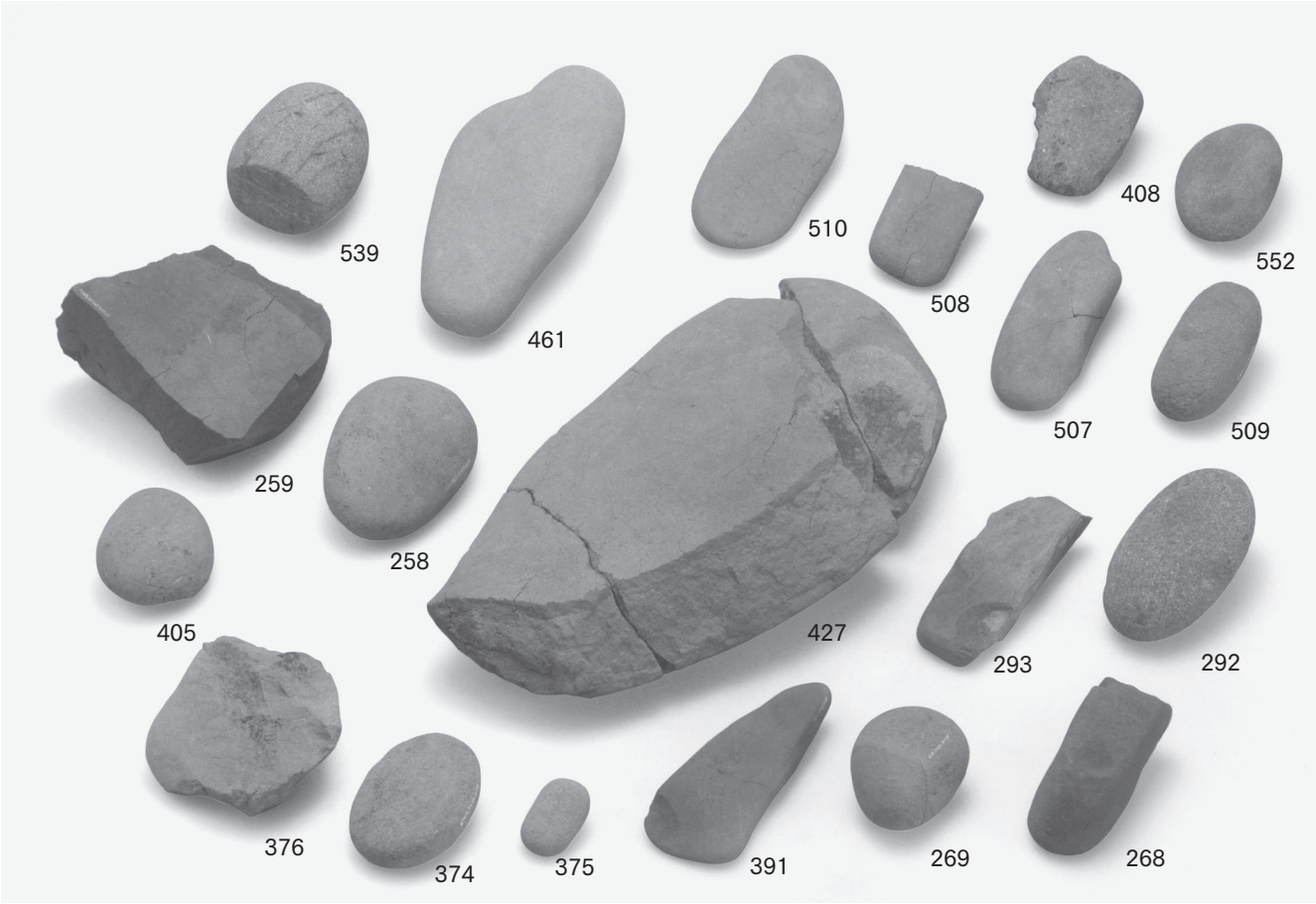


図版22　縄文草創期遺構内出土遺物⑥



図版23　縄文草創期遺構内出土遺物⑦



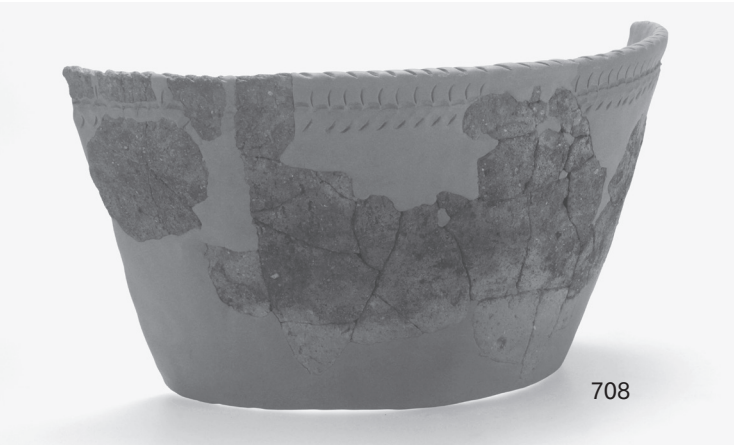


図版24　縄文草創期遺構内出土遺物⑧

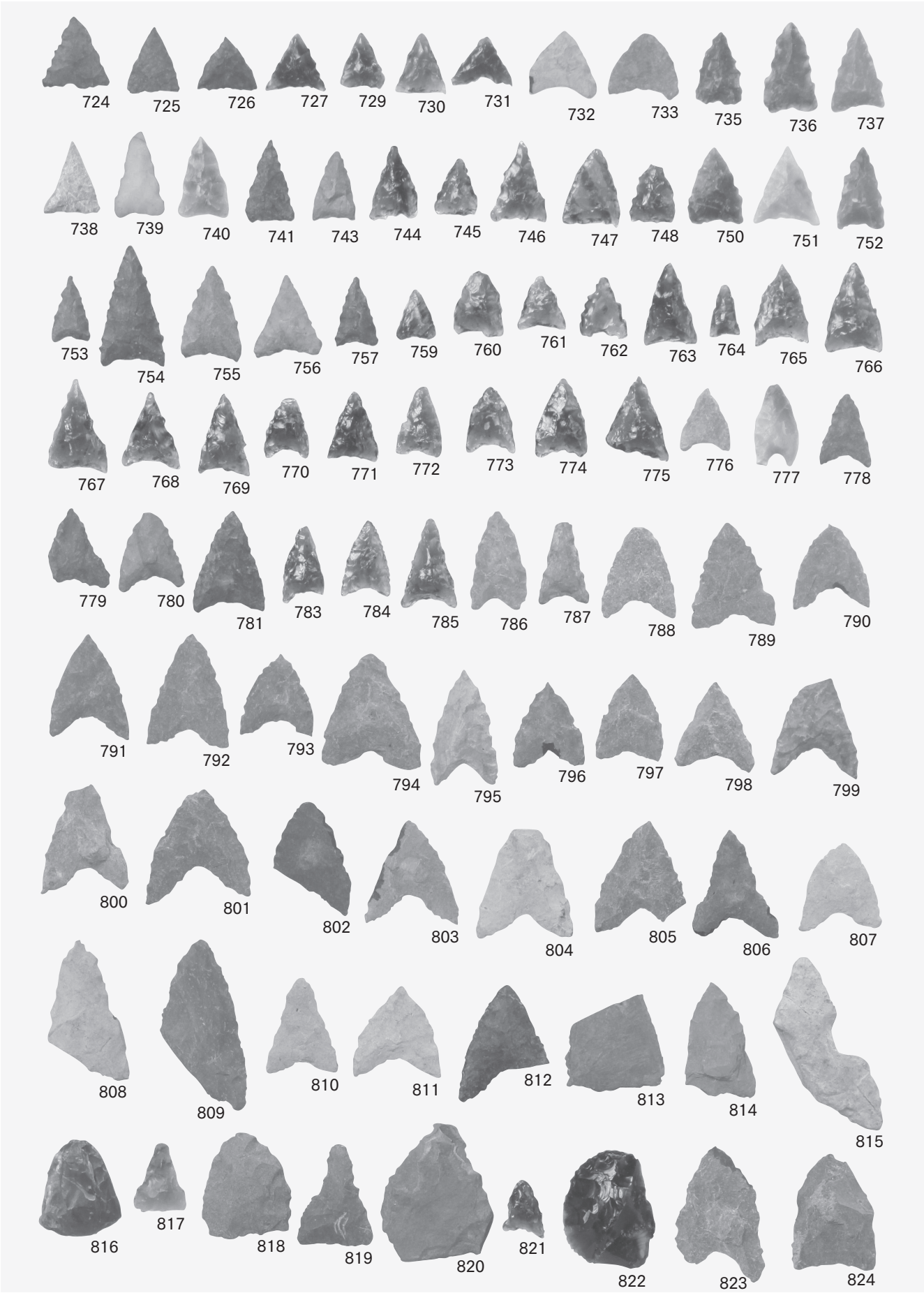
図版25　縄文草創期遺構内出土遺物⑨

図版26　縄文草創期遺構内出土遺物⑩

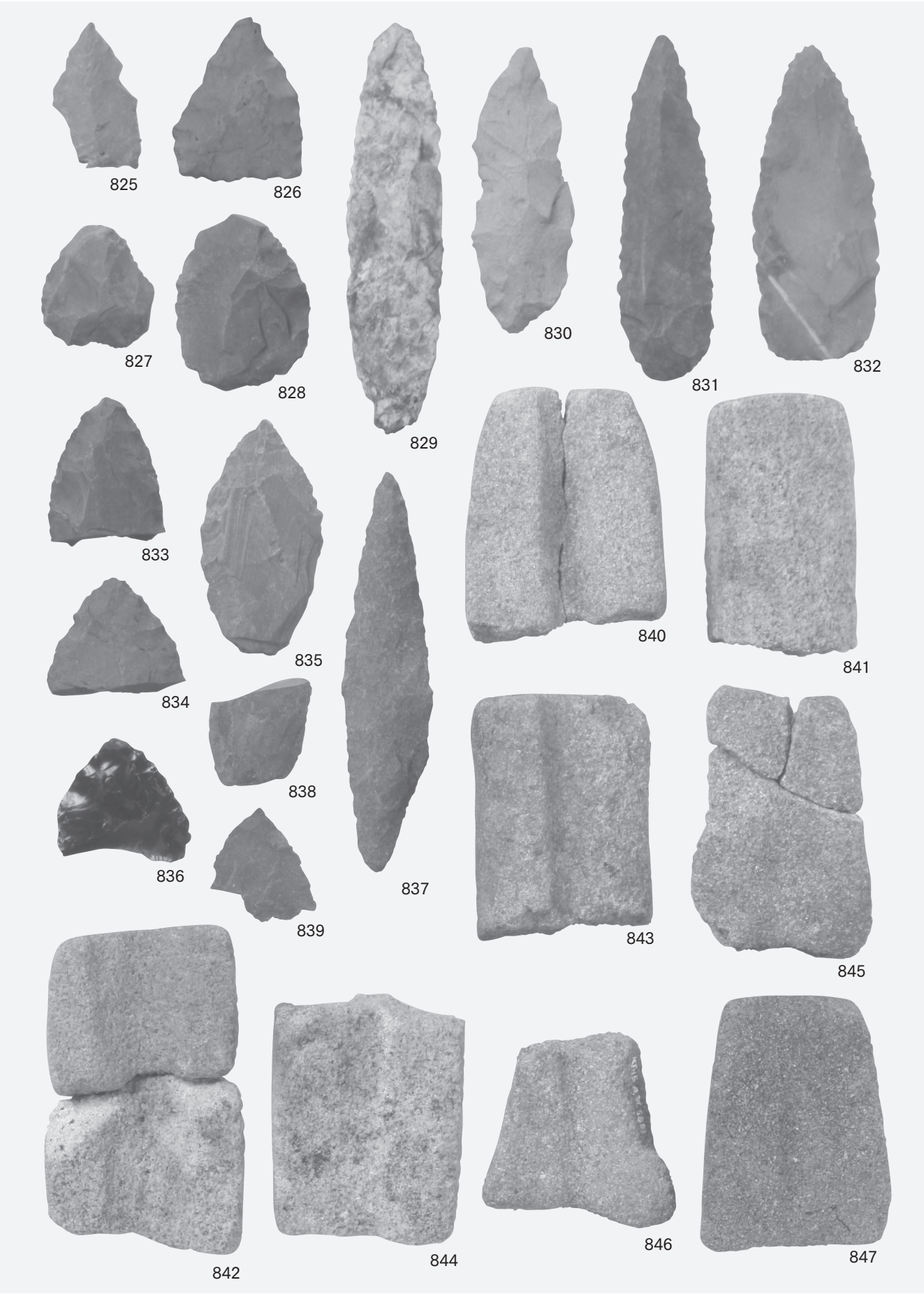
図版27　縄文草創期遺構内出土遺物⑪



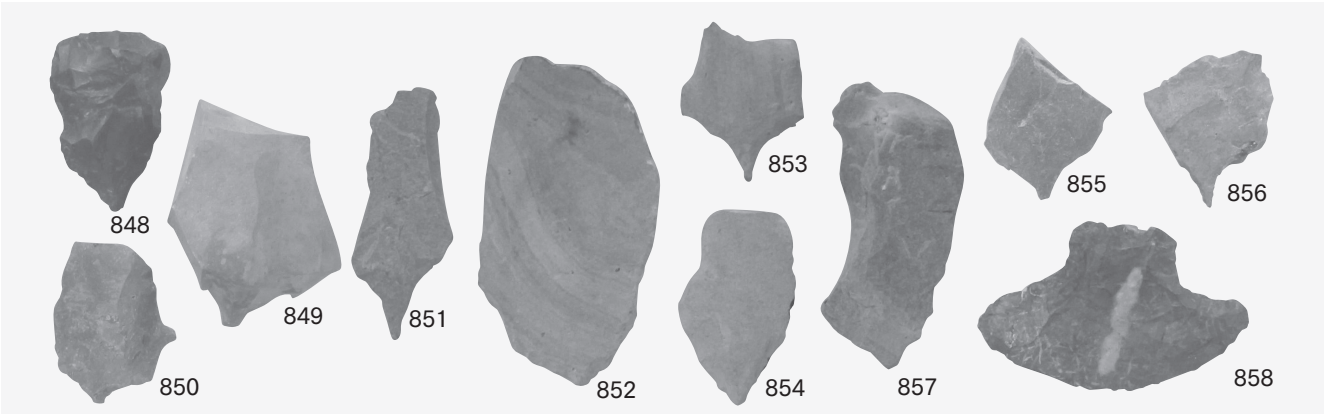
図版28　縄文草創期遺構内出土遺物⑫

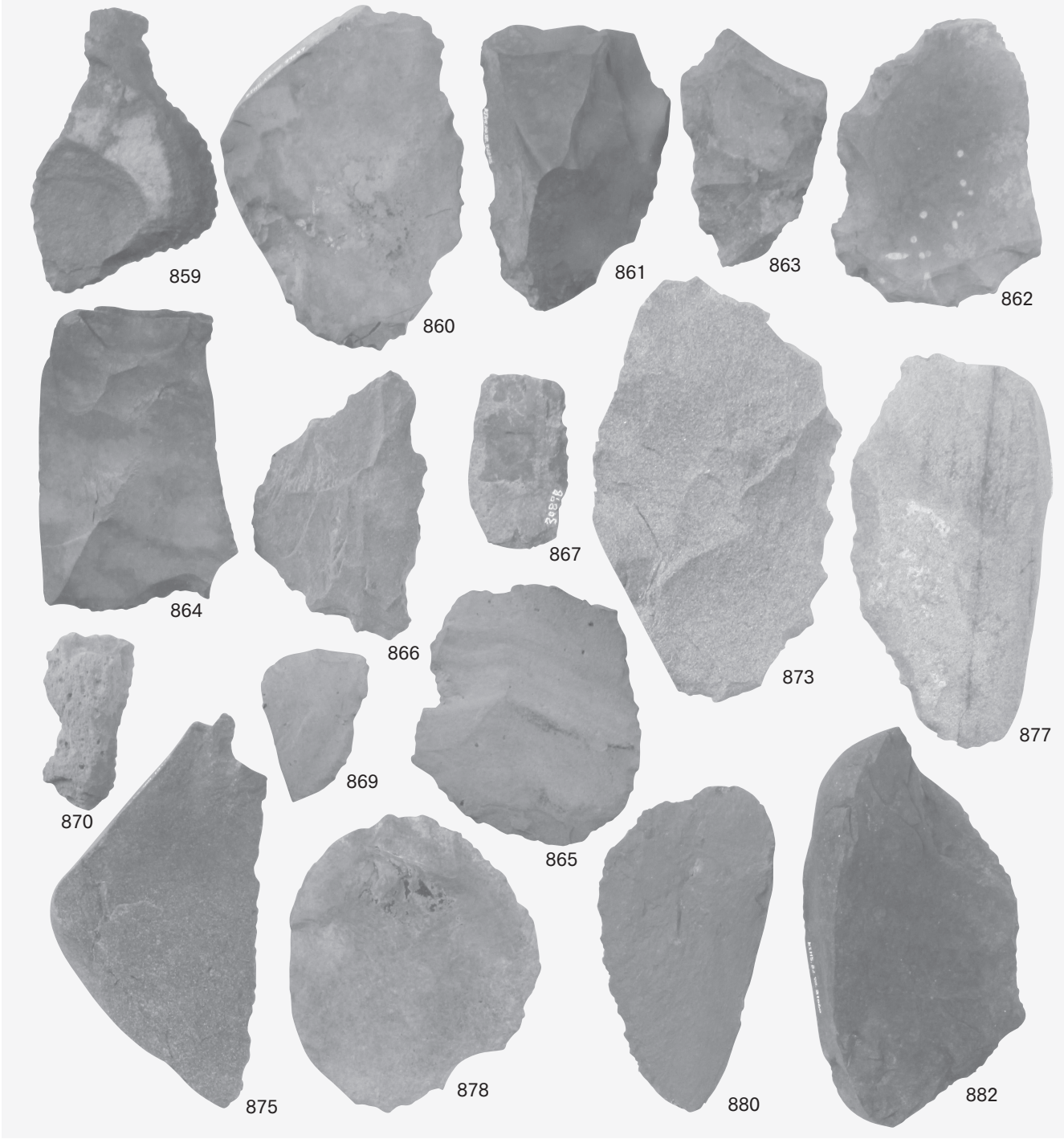


図版29　縄文草創期遺物包含層出土石器①

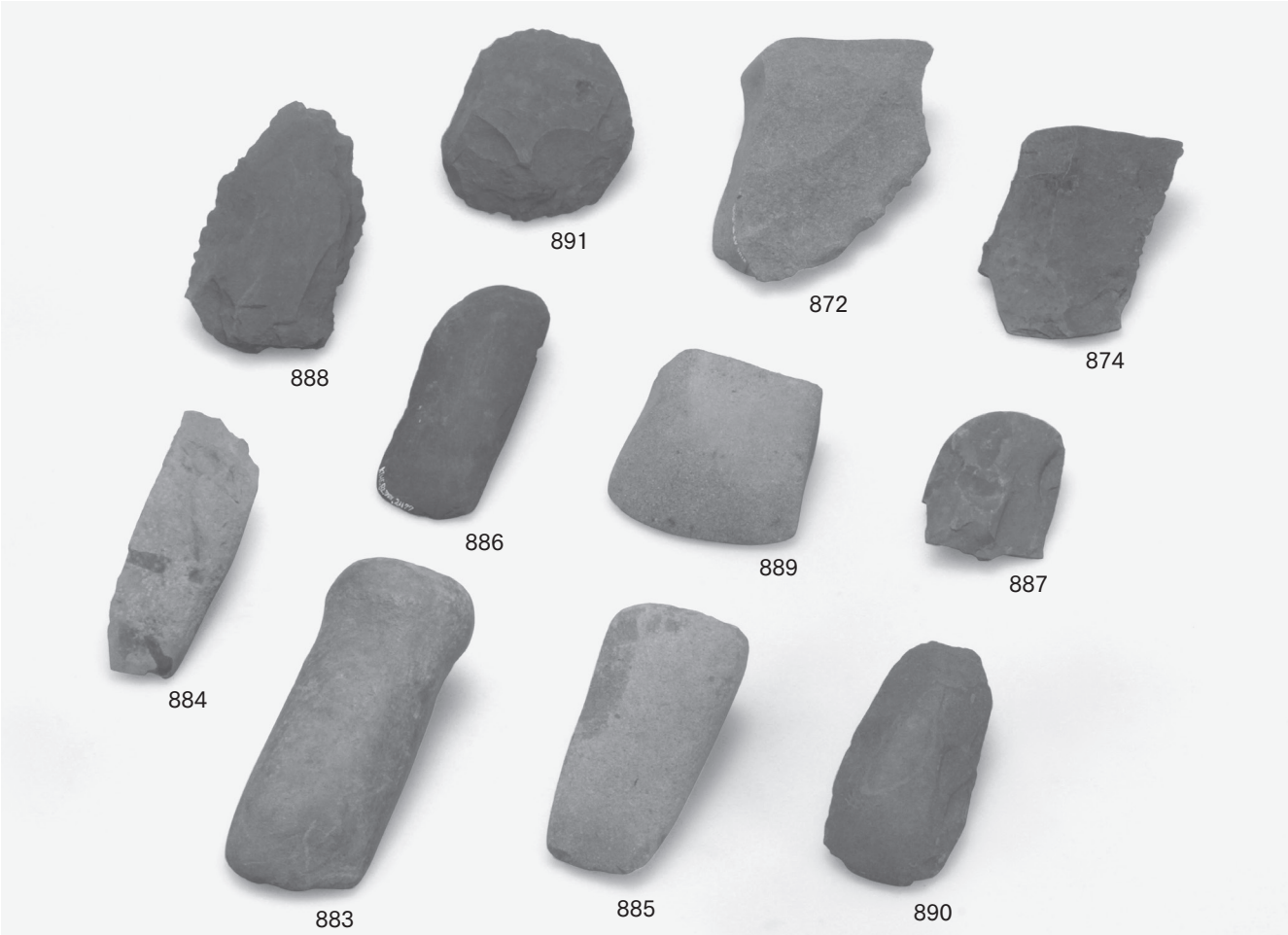


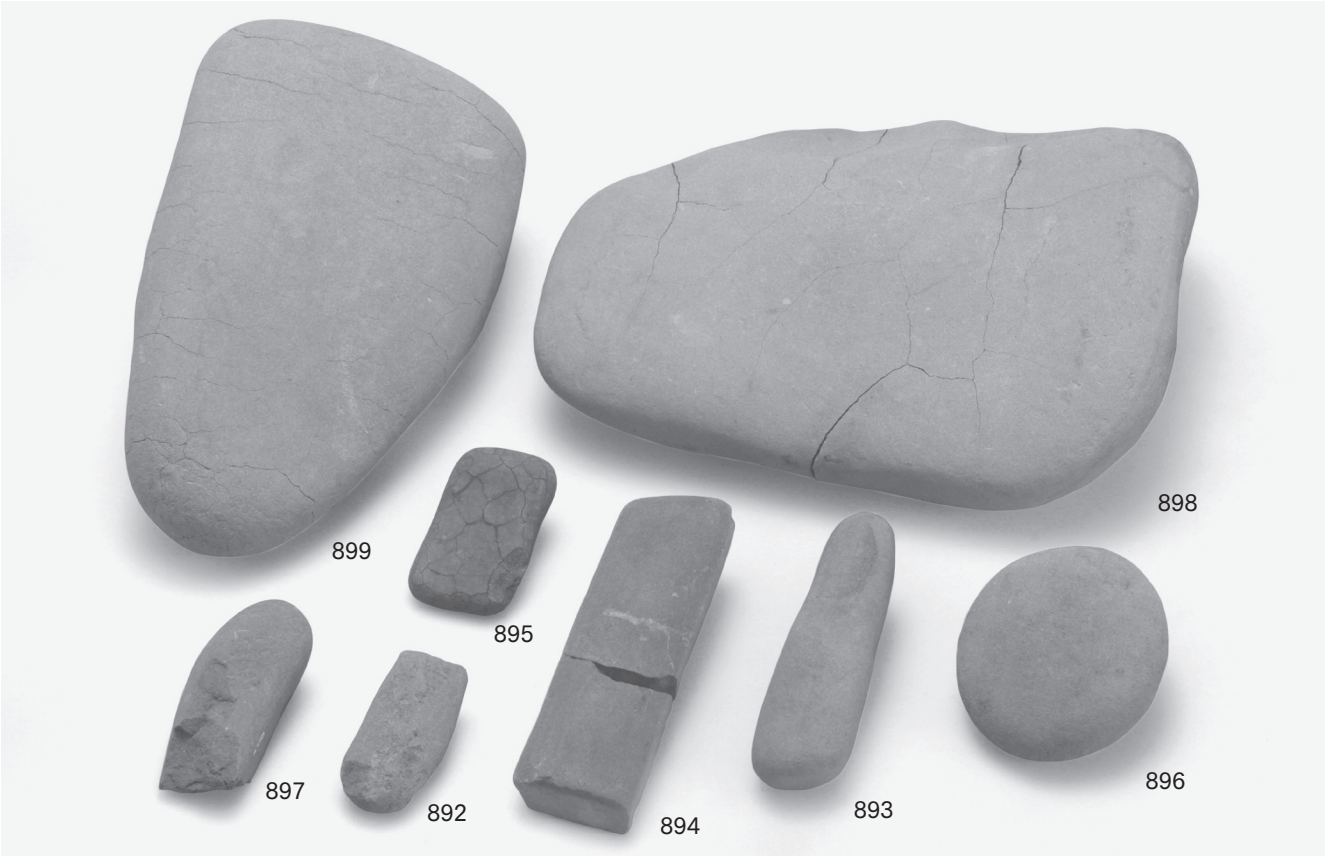
図版30　縄文草創期遺物包含層出土石器②





図版31　縄文草創期遺物包含層出土石器③





図版32　縄文草創期包含層出土石器④

第Ⅳ章　縄文時代早期の調査

第１節　遺構の分布状況と遺物包含層の出土状況について

本調査区は南東部から東側に向けて緩やかに下る斜面地であるが、調査区中央付近はほぼ平坦な地形を呈している。縄文時代早期の遺構は基本土層Ⅴ層からⅧ層上部にかけて集石遺構 153 基(切り合い関係にある不明瞭なものは除く)・炉穴 29 基(燃焼部を数える)・陥し穴状遺構 4 基・ハイヒール状土坑 9 基・土坑 23 基が検出されている。これらは遺物包含層の掘削作業中に随時検出されるもので、各遺構で検出面が異なっている。集石遺構と炉穴については調査区のほぼ全域に広がるが、調査区北部の谷地形になっている部分と縄文草創期の 2 号竪穴住居跡から 7 ～ 9 号竪穴住居跡が検出された調査区中央の南東部付近には存在しなかった。なお、これらの火を使用したと考えられる遺構から炭化物が多く出土しており、その一部については放射性炭素年代測定を行っている。その他の遺構は調査区の中央よりやや北側付近に多く分布している。前章で述べたとおり、本調査区における縄文早期の確実な文化層としては基本土層Ⅴ層からⅥ層までと考えられ、これらの層からは大量の焼礫が出土していて、その点数は 19 万点を超えている。また遺物も調査区が覆われるように縄文早期初頭から末葉までのものが出土した。出土土器については基本土層Ⅴ層とⅥ層で出土する土器の様式が明瞭に分かれるような出土状況ではなかった。しかし、貝殻文の塞ノ神式土器や早期末条痕文土器は比較的Ⅵ層よりもⅤ層で多く出土しており、前平式土器や帯状施文の押型文土器・条痕文土器などはⅥ層で多く出土するという傾向は確認できた。

第２節　遺構について

１．集石遺構

集石遺構は基本土層Ⅴ層からⅥ層にかけて検出されている。本調査区ではおおむね掘り込みを持ち、その中に焼礫が多く見られる遺構である。遺構の中で最も数が多く、切り合い関係も多数見られ、明確に検出面にレベル差を持つものも存在した。このことは時期差を持つ土器が遺物包含層から出土しており、視覚的にはとらえることが難しい何枚かの生活面が存在したということ示していると言えよう。前述したように多数の礫や遺物が混入する遺物包含層の掘削作業中に検出されるため、SI－27・71・81・107・175・207・209・243・235・272・274・315 は掘り込みが認識される前に遺物包含層として一部を掘削してしまうというトラブルも発生してしまった。

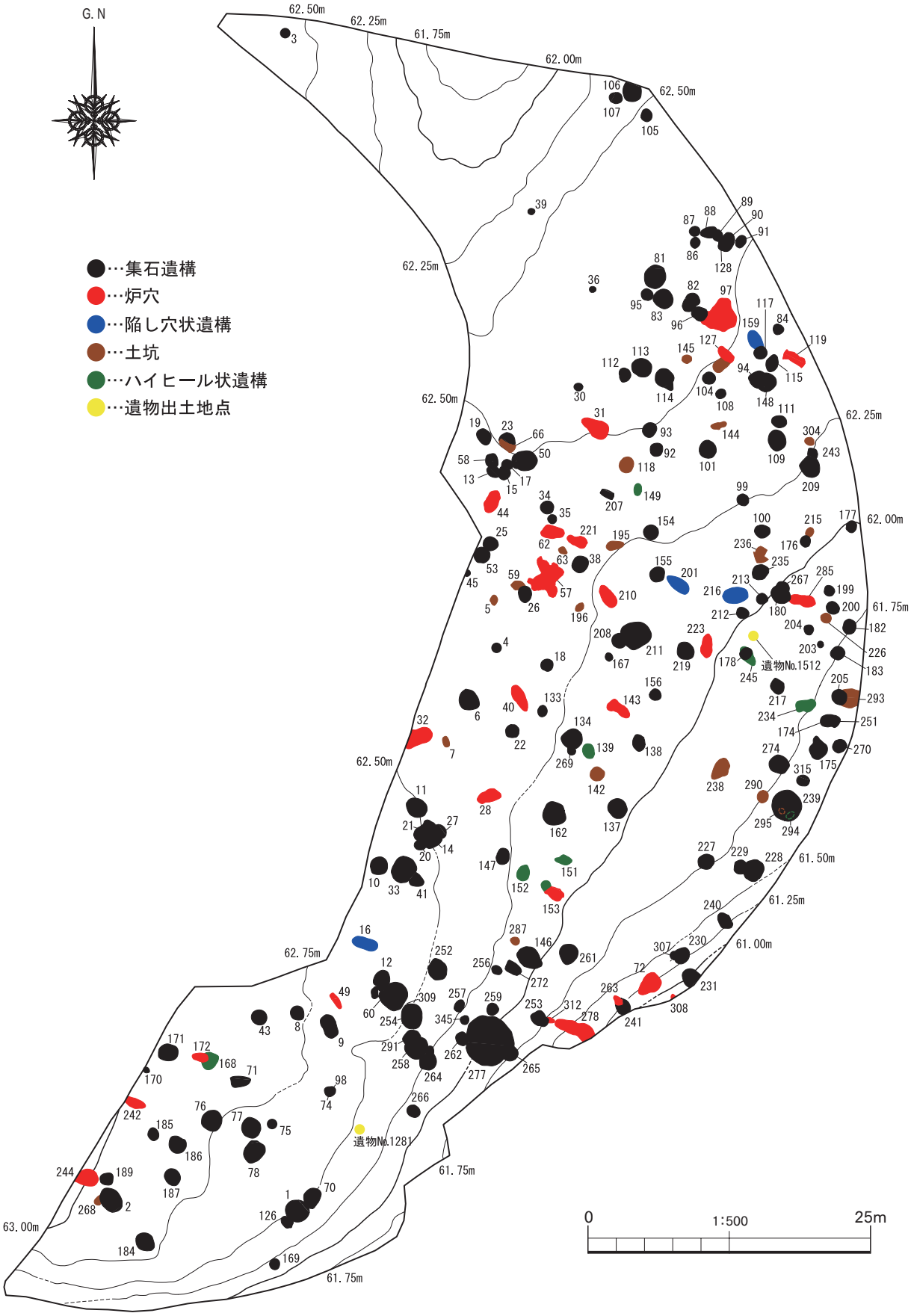
集石遺構は掘り込みを持つものと持たないもの、礫が密集するものと疎らなもの、底石を持つものと持たないもの、掘り込みの平面プランや断面形状等、これまでの研究で様々な分類基準が設けられている。また、構成礫が掘り込みの床面に接するものと礫と床面との間に厚く埋土が堆積するものとが見られる。これについても分類基準になるかもしれない。いずれにせよ遺跡で検出される集石遺構は廃棄された状態であり、使用状況そのものを示すものではない可能性があることは念頭に置いておく必要があるだろう。特に礫の疎らな集石遺構は最初から使用礫が少ないわけではなく、使用礫を他の場所に移動させた結果や底石を取り除いた結果を示している可能性も考えられる。また、構成礫の下の埋土の厚さは使用頻度の高さを表しているかもしれない。

以下に特徴的な集石遺構について所見を報告する。なお、出土遺物については土器を中心に報告し、石器については製品類に言及している。遺物や放射性炭素年代測定結果だけを報告する集石遺構は後方にまとめている。なお、個別の詳細については第 7 表を参照していただきたい。

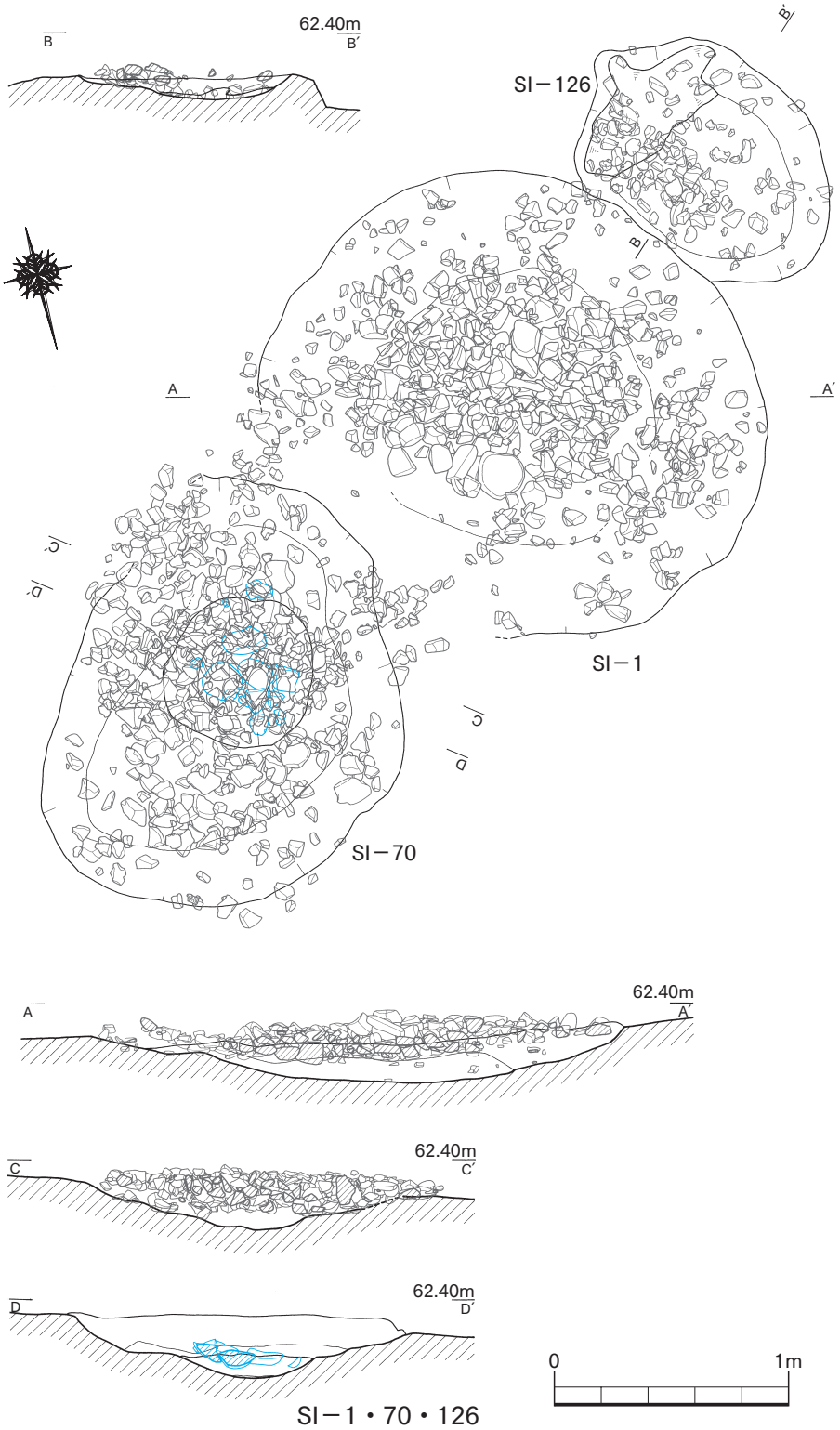
【特徴的な集石遺構】

SI－1・70・126 は切り合い関係にあり、SI－1 が最も新しい。SI－1 からは土器片 16 点(別府原式 1 、不明 15：隆帯文の無文部位を含むか)、尾鈴山酸性岩製磨石片 1 点等が出土している。SI－70 からは土器片 12 点(下剥峯式 1 、押型文 1：950 、不明 10：無文土器と隆線文土器を含むか)、石鏃 4 点(チャート 3：951・952 、安山岩 1:953)、西北九州産黒曜石製細石刃 1 点(954)等が出土している。SI－126 からは土器片 2 点(下剥峯式 1：984 、不明 1)等が出土している。なお、この 3 基は周辺の多くの石器を含む草創期の遺物包含層を掘りぬいているため、多くの剥片類が混入していた。また SI－1 の掘り込みの下位からは草創期の矢柄研磨器片(№.842 の上部)が出土している。

SI－3 は比較的礫の出土数が少ない調査区北側で検出された。やや大振りの礫が密集する様子が見られたので集石遺構として図化を行った。掘り込みが検出されなかったので礫の除去後、トレンチを設定して土層断面によ



第120図　縄文時代早期遺構配置図（S=1/500）



第121図　縄文早期集石遺構実測図①（S=1/30）

る掘り込みの確認も行ったが、遺構の立ち上がりを示すような土層は確認されなかった。

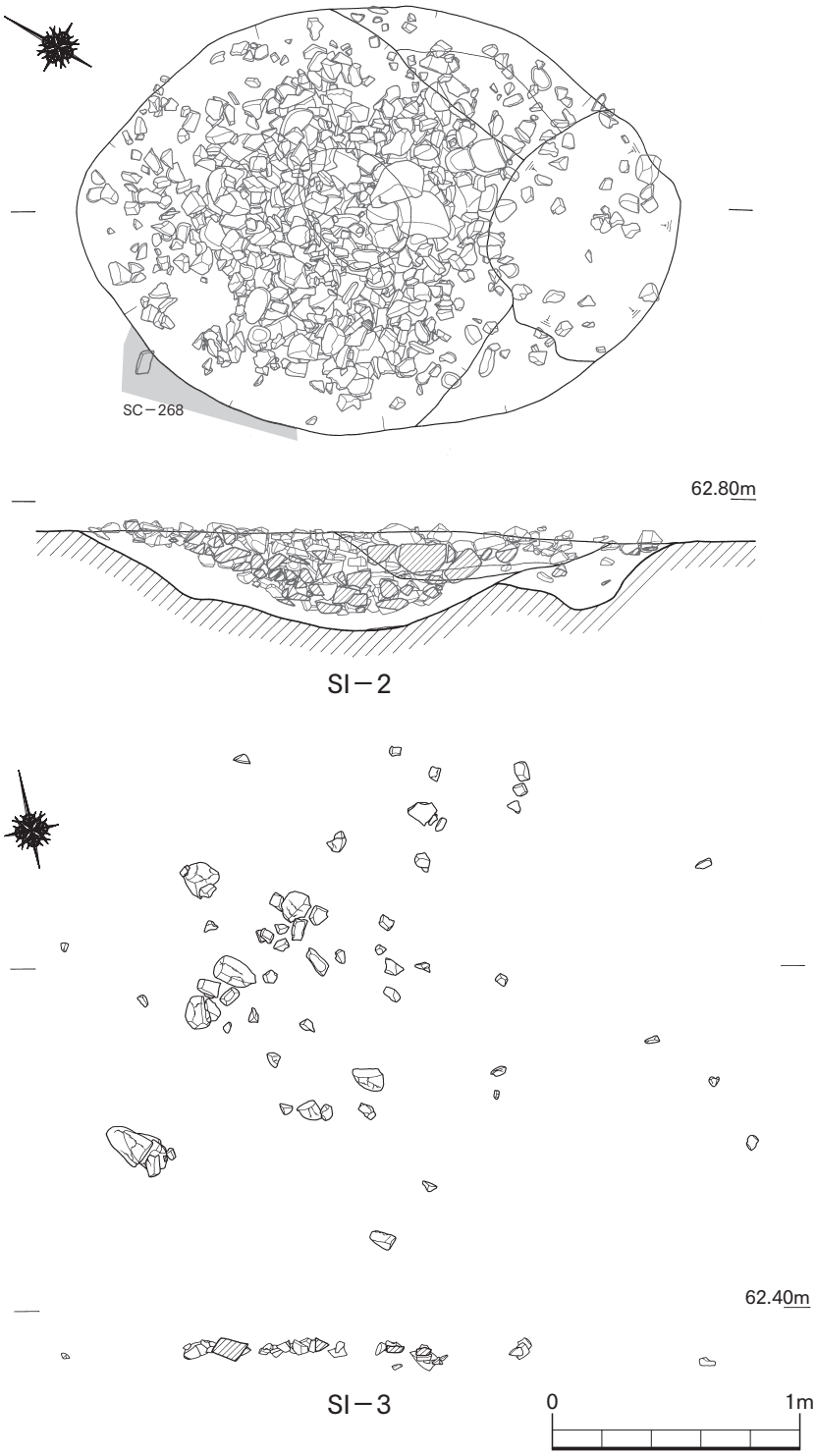
SI －4 も掘り込みが確認されなかった。礫周辺から不明土器片3点(無文土器か)等が出土している。また炭化物の放射性炭素年代 測定の結果、補正年代で7900±30BPという年代が得られた。

SI－9は2 基の集石遺構の切り合うもので、東側の礫が密集する方が先に検出され、その上部礫を除去し、掘り込みの掘削中に西側にも礫の疎らな集石遺構があることを認識することとなった。東側は二段掘りの掘り込みである。土器片(押型文 1：908 、無文土器：909 、不明 3：無文土器を含むか)、頁岩製石錐 1 点(910)等が出土している。

SI－14 ･20 ･21 ･27 は当初2m を超える集石遺構(SI－14)が 1 基だけ存在しているものと認識しており、掘り込みの埋土の掘削中にSI－14の周囲に複数の集石遺構が存在することが判明した。その時には既にSI－27の東側の大部分を遺物包含層として掘削してしまっていた。SI－14 の北側にある径 0.66m の掘り込みも別の集石遺構の可能性がある。SI－14 からは土器片 17 点(下剥峯式 2：912・913 、桑ノ丸式 1：914 、押型文 2：915 、条痕文土器 2 類 1 、隆帯文：2 類 3・4 類 1：916 、不明 7：無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。また炭化物は補正年代で 8770 ± 40BP であった。SI－20 からは土器片 4 点(押型文 2：917・918 、不明 2：隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃未製品 1 点(919)等が出土している。SI－21 からは土器片 11 点(別府原式 1 、桑ノ丸式 2:920 、押型文 5:921 ～ 924 、不明 3)、西北九州産黒曜石製石鏃 1 点(925)等が出土している。SI－27 からは下剥峯式土器片 1 点(932)が出土している。

SI－15･17 は切り合い関係にあり、礫の充填状況から SI－15 が最も新しく、SI－17 は SI－50 を切っている。SI－15 は掘り込みの床と礫との間に埋土が厚く堆積しており、掘り込みの形状と礫の断面形状が異なっており、炭化物は補正年代で 8350±30BP であった。

SI－23 は SC－66 に切られていた。当初は SI－23 だけの遺構と認識しており、その掘り込みを完掘したとこ



第122図　縄文早期集石遺構実測図②（S=1/30）

ろで、床面にSC－66のプランが検出されたため２つの遺構が切り合っていたことが分かった。そこで、SI－23の礫の充填状況をみるとSC－66にかかる部分にだけ礫が少なくなっていることから、両者の新旧関係を前述のように把握することとなった。押型文土器片１点(928)等が出土している。

SI－26はSC－59を切っている。押型文土器片１点(931)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃(930)等が出土している。なお931はSC－28と接合関係にある。

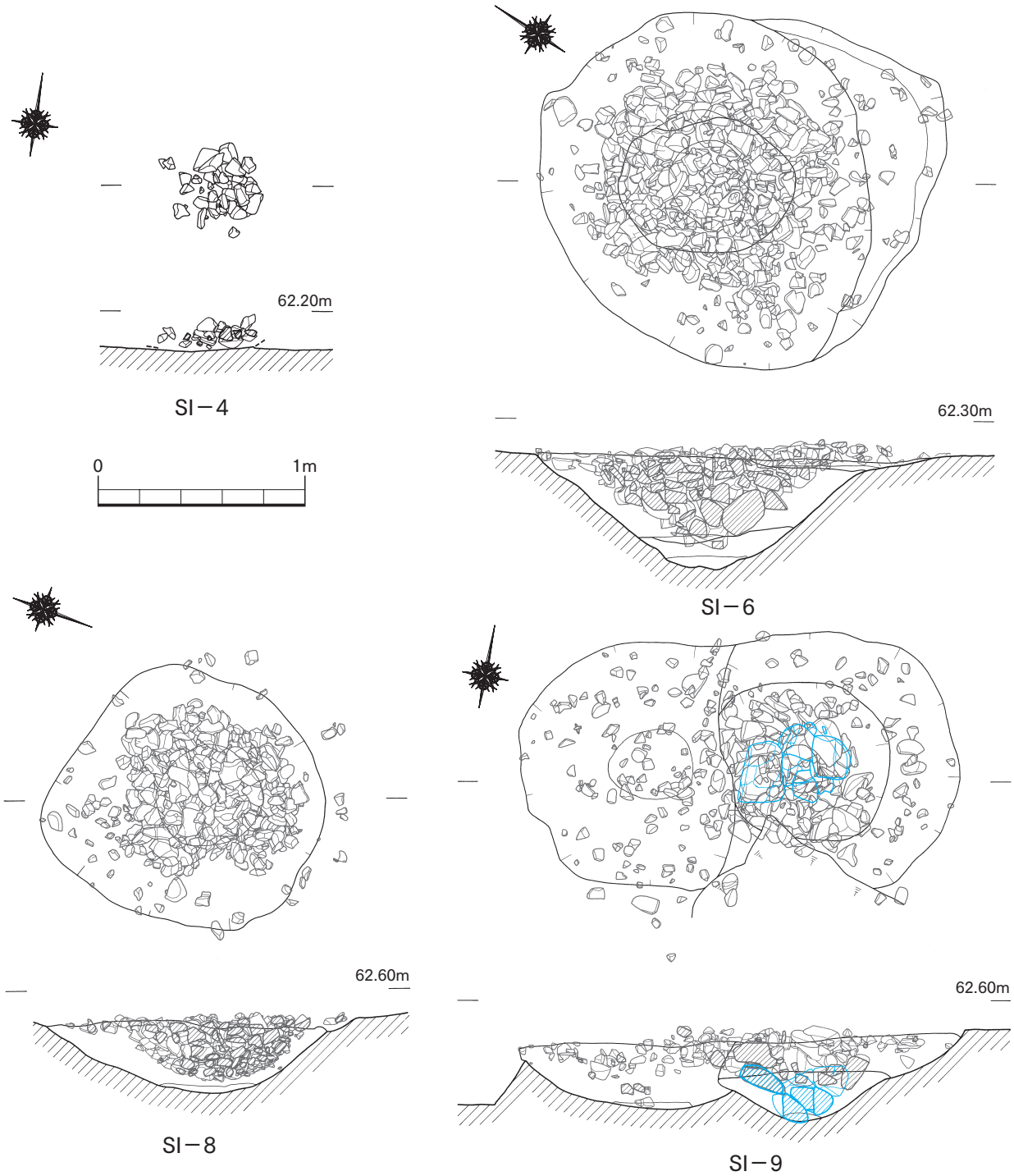
SI－33は二段の掘り込みを呈し、下部掘り込みの上面付近に底石が有り、その下位には小礫が数点だけ見られる。土器片７点(下剥峯式1:933、桑ノ丸式1:934、条痕文土器１類1:935、不明4:無文土器を含むか)等が出土している。

SI－60はSI－12に切られており、西側にSI－140が近接するが、その間には２基の掘り込みが存在した。SI－60の掘り込みの完掘した後でこの２つの掘り込みに気が付いたので、これらはSI－60に伴う施設の可能性もあるが、周囲の礫の重鎮状況をみるとこの部分だけ礫が少なくなっている。その状況からこれらはSI－60を切る集石遺構か土坑であった可能性が考えられる。SI－60からは土器片26点(下剥峯式３：943・944、桑ノ丸式１、押型文２：945・946、隆帯文：４類３：947、不明17：無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製石鏃(948)と石錐(949)各１点等が出土している。946の反転復元による底部径は5.4cmを測る。

SI－82は東側にあるSI－96を切っている。北東側にテラスが見られるが、別の集石遺構との切り合い関係にある可能性も考えられる。別府原式土器片１点が出土している。

SI－86～91・128は調査区北東部端で密集して検出された。SI－128はSI－90の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI－128以外は礫が疎らな集石遺構である。SI－88～90は切り合い関係にあったが新旧関係を把握することはできなかった。SI－89からは不明土器片１点(別府原式か)、SI－90からは下剥峯式土器片１点(969)が出土している。

SI－94・148は切り合い関係にある。SI－148はSI－94の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI－94からは土器片２点(別府原式１：971、押型文１：972)が、SI－148からは土器片(前平式１：1000、塞ノ神式１：1001)、砂岩製石皿１点が出土している。1000は前平式土器の口縁部片で基本土層Ⅵ層中の遺物と接合した。反転復元による口縁部径は19.1cmを測る。



第123図　縄文早期集石遺構実測図③（S=1/30）

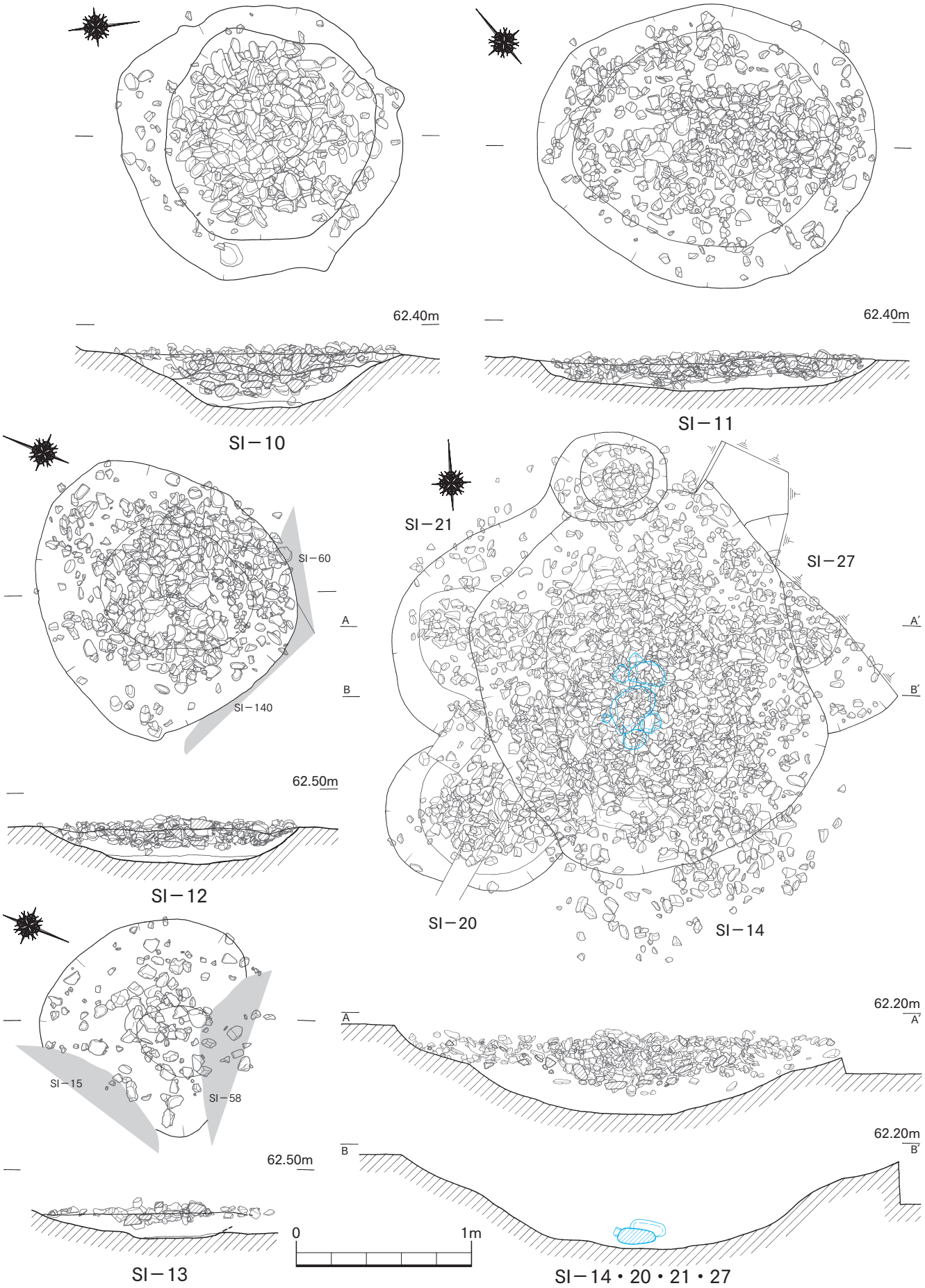
SI－96 は炉穴(SC－97)の西側で、その上位にて検出されており、両者の検出面には明確なレベル差がある。また SI－82 には切られている。下剥峯式土器片 1 点(973)が出土している。

SI－99 は西側に押型文土器の破片(974・975)を大量に含んでいた。その他に土器片 2 点(条痕文土器 2 類 1 、不明 1)等が出土している。974 と 975 は接合しなかったが同一個体と考えられる。反転復元による 974 の口縁部径が 28cm 、975 の底部径は 8.6cm を測る。

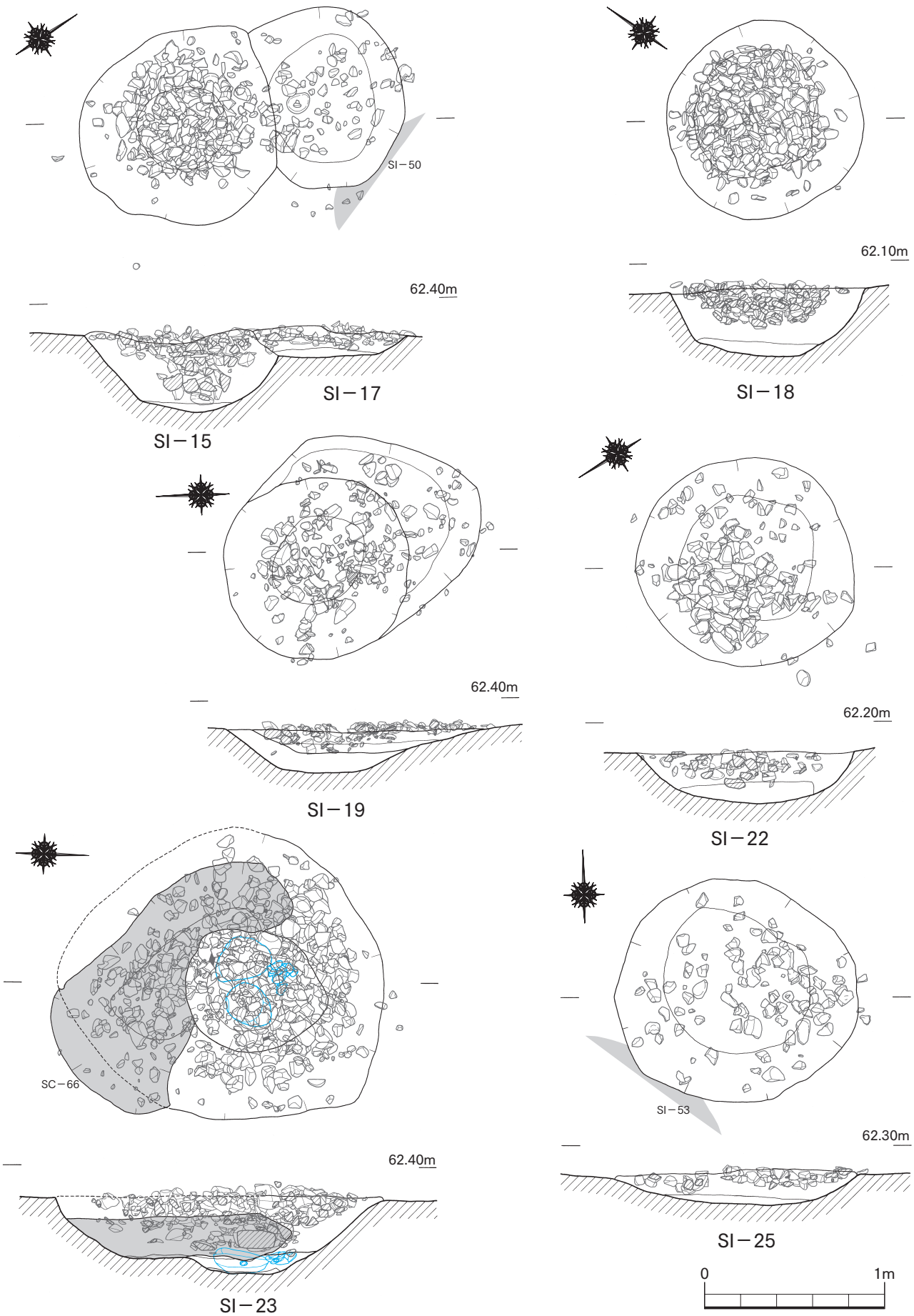
SI－147 は北側にテラス状の平坦面が見られるが、別の集石遺構との切り合いであった可能性も考えられる。不明土器片 3 点、チャート製石鏃 1 点(999)が出土している。

SI－171 は掘り込みの外縁に大振りの礫が 8 点見られた。不明土器片 1 点、砂岩製スクレイパー 1 点(1005)、砂岩製敲石 3 点(1006・1007)等が出土している。

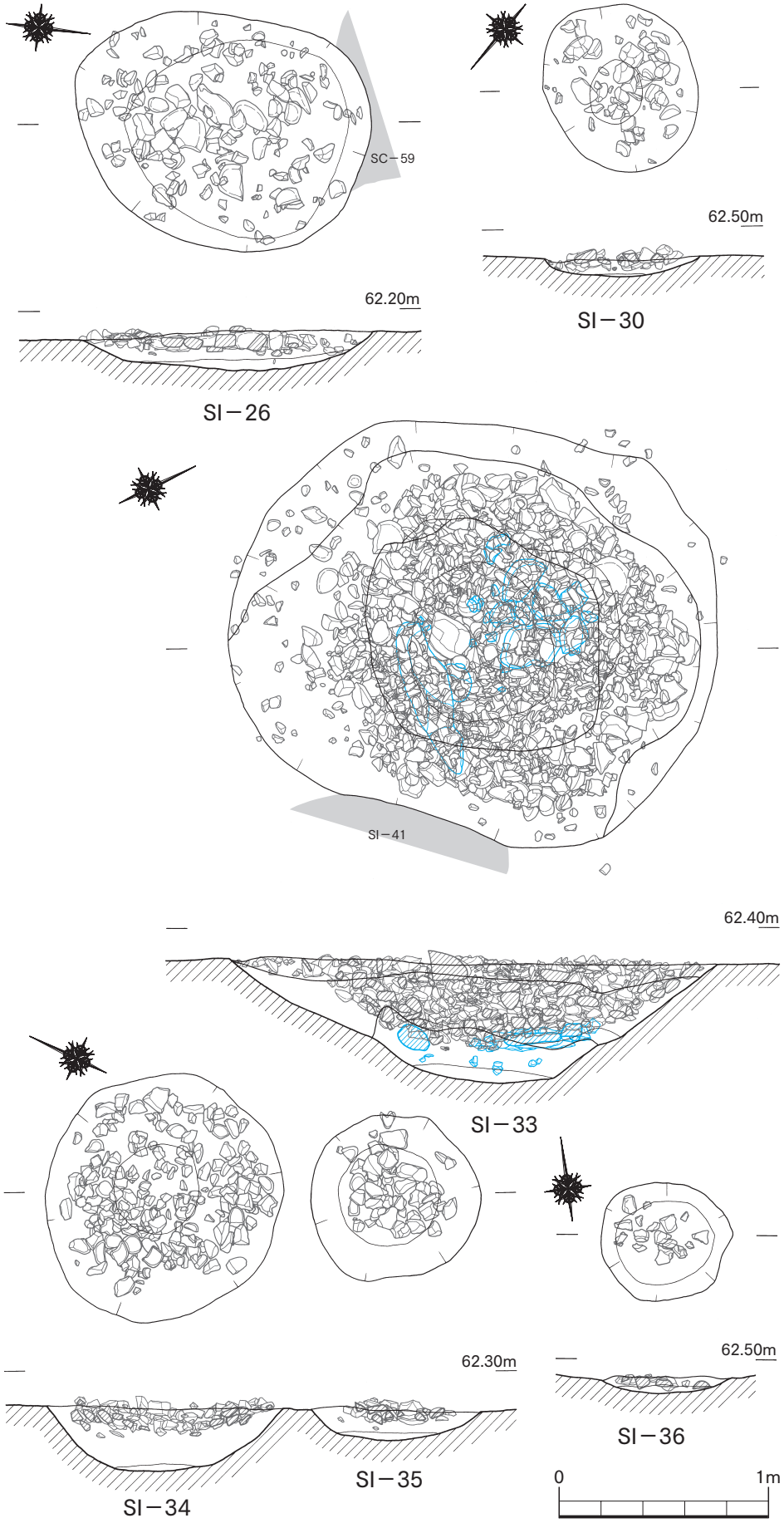
SI－174・251 は切り合い関係にある。検出時には新旧関係を把握できなかったが、礫の充填状況をみると SI－



第124図　縄文早期集石遺構実測図④（S=1/30）



第125図　縄文早期集石遺構実測図⑤（S=1/30）



第126図　縄文早期集石遺構実測図⑥（S=1/30）

174の方が新しいと考えられる。SI－174からは不明土器片1点が出土している。SI－251からは土器片6点（押型文3：1045・1046、不明3：隆帯文の無文部位か）、頁岩製磨製石鏃1点（1047）等が出土している。

SI－175は不整形な柄鏡状のプランを呈するが、礫の充填状況をみると2基の集石遺構の切り合いの可能性も考えられる。北側は遺物包含層として一部を掘削してしまっていた。土器片8点（押型文3：1008・1009、隆帯文2類2、不明4：隆帯文の無文部位を含むか）、チャート製石鏃1点等を出土している。

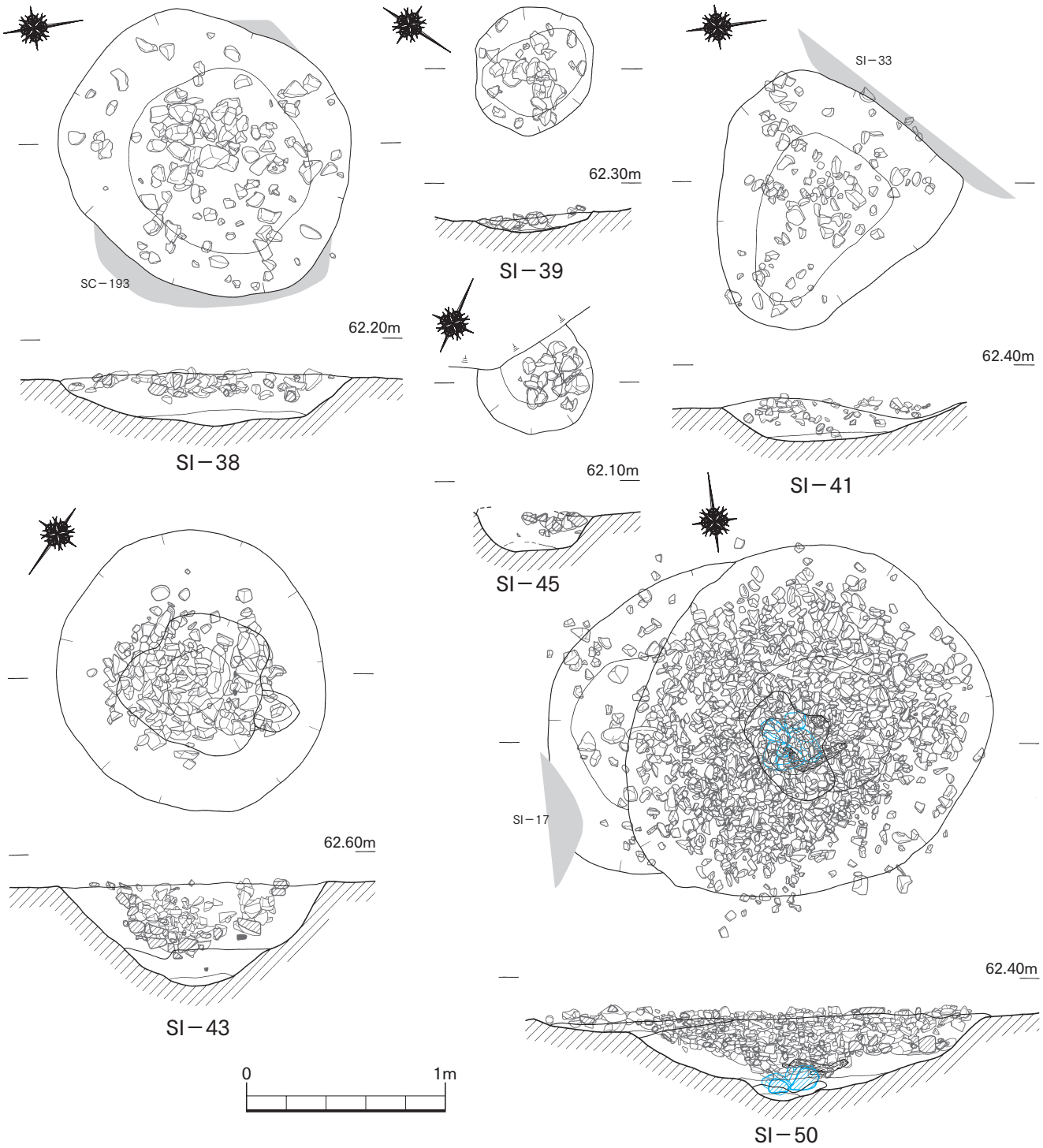
SI－177は中央部に底石のような扁平な礫があり、その周囲に少量の礫が存在するもので集石遺構の底の部分とも見えるものである。押型文土器片1点等が出土している。

SI－180・267は切り合い関係にある。SI－267はSI－180の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI－180からは土器片2点（押型文1：1012、不明1）、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃未製品1点等が、SI－267からは不明土器片1点（隆帯文の無文部位か）が出土している。1012の反転復元による底部は15.6cmを測る。

SI－199は大振りな凝灰岩の角礫と砂岩の円礫を構成礫の中心とする集石遺構である。

SI－230・307は切り合い関係にある。SI－307はSI－230の調査終了後にその下位から発見されたもので両者の検出面には明確なレベル差がある。SI－230からは不明土器片1点等が出土している。

SI－240は不整楕円形プランを呈する。礫は南側に密集

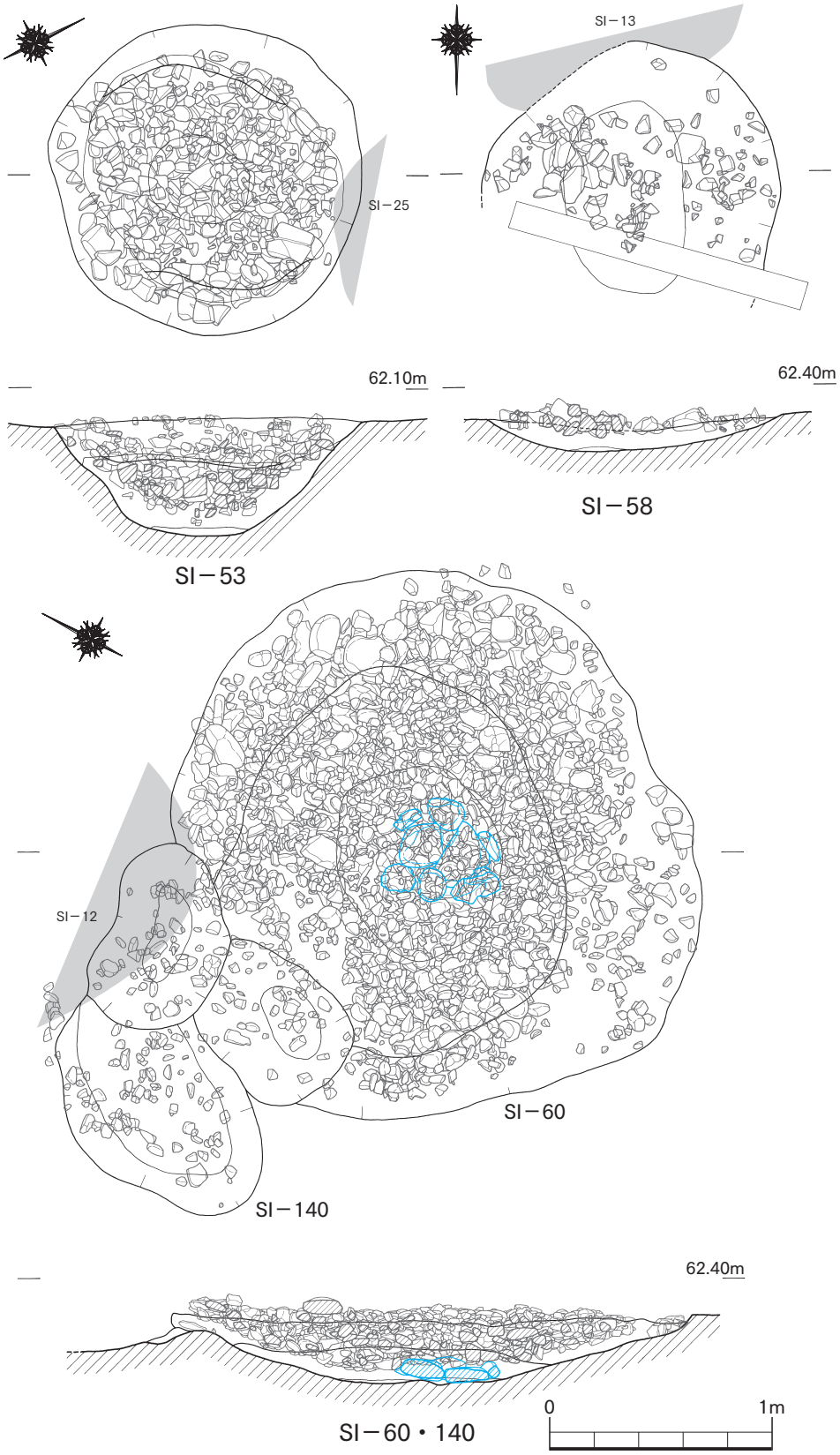


第127図　縄文早期集石遺構実測図⑦（S=1/30）

して床面は南側に下がっていることから２基の遺構の切り合いの可能性も考えられる。土器片２点(塞ノ神式１:1043、不明１：隆帯文の無文部位か)等が出土している。

SI－241 は炉穴(SC－263)の西側にあり、その足場部分を切っていた。そのため、SC－263 の平面プランは不明瞭であったが、１箇所設定されていた燃焼部の残存状況は良く、その検出面からの深さは 50cm を測る。SI－241 の底石は SC－263 の燃焼部より 18cm も浮いた状態になることから、その掘り込みを再利用したものではなく、SC－263 が廃棄されて埋没した後に構築されたものと考えられる。なお、SI－241 の炭化物は補正年代で 8340±50BP であった。SI－241 からは不明土器片４点等が出土しており、SC－263 からは不明土器片１点、チャート製剥片１点が出土している。

SI－253 は草創期の SI－279 と SC－312 を切っていた。不整形な楕円形プランで西側が一段低くなることか



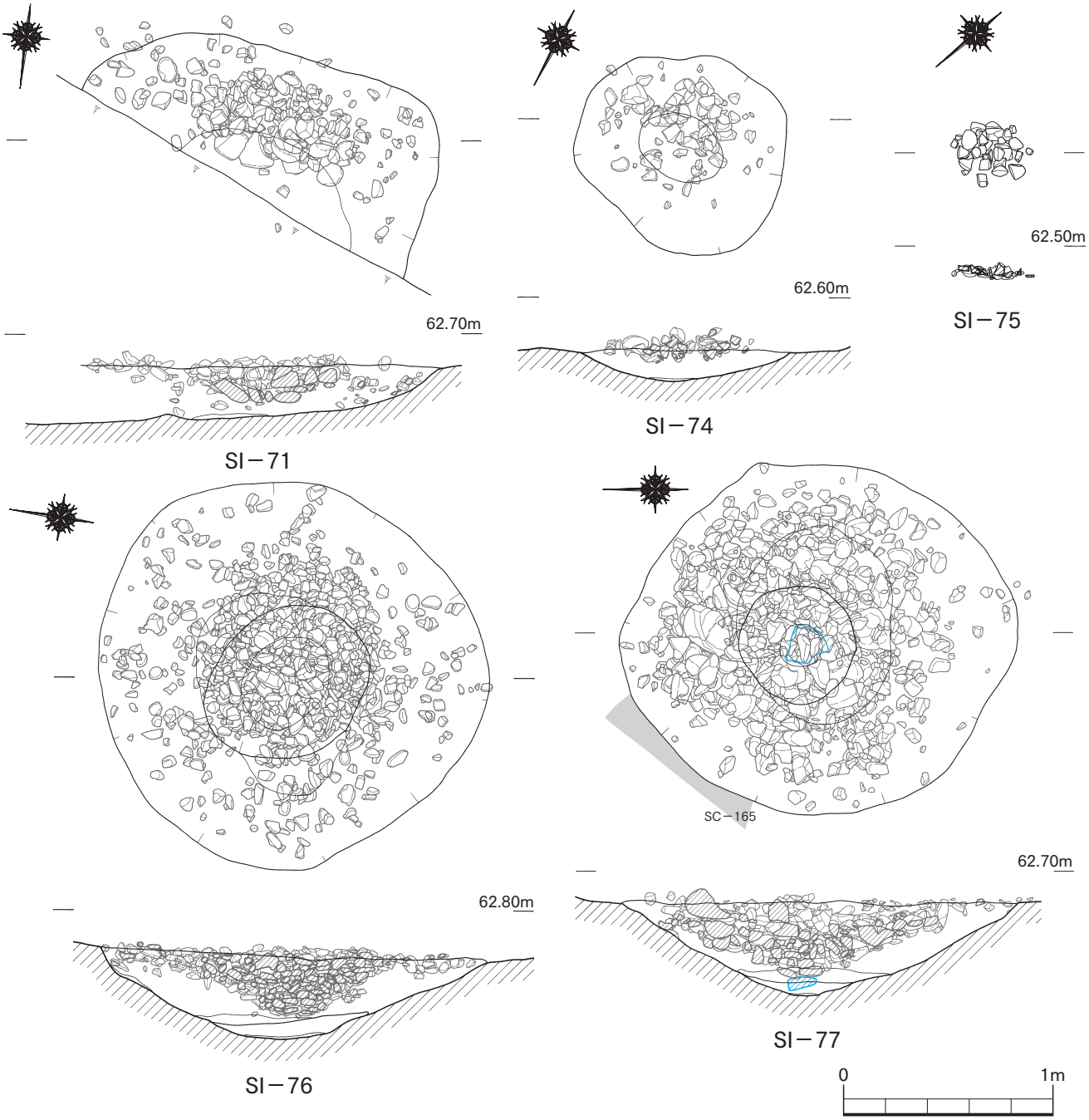
第128図　縄文早期集石遺構実測図⑧（S=1/30）

ら２基の集石遺構が切り合っている可能性が考えられる。炭化物は補正年代で8300±50BPであった。土器片８点（押型文１、隆帯文:2類1・4類１、不明５：隆帯文の無文部位を含むか）、頁岩製石鏃１点等が出土している。

SI－254・258・264・291は北西から南東にかけて並んで検出された。SI－254以外は切り合い関係にあって、3基の礫の充填状況をみるとSI－258が最も新しいと考えられる。なお、SI－258・264は掘り込みにテラスが見られるが、これらは別の集石遺構との切り合いであった可能性も考えられる。SI－254からは土器片27点(別府原式２、下剥峯式1：1050、桑ノ丸式1:1051、押型文4:1052・1053・1055、塞ノ神式2:1054、隆帯文:2類1、不明16：隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃1点、砂岩製敲石１点、砂岩製石皿２点等が出土している。SI－258からは土器片4点(桑ノ丸式1：1056、押型文1：1057、不明2：隆帯文の無文部位を含むか)、石鏃2点(チャート製1：1058、桑ノ木津留産黒曜石製1：1059)が出土している。

SI－264からは土器片19点(別府原式1、下剥峯式2:1066・1067押型文9：1068～1071、条痕文土器2類1:1072、不明6：隆帯文の無文部位を含むか)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃１点等が出土している。SI－291からは土器片６点(下剥峯式３、塞ノ神式1：1081、不明2：隆帯文の無文部位か)、砂岩製敲石１点等が出土している。

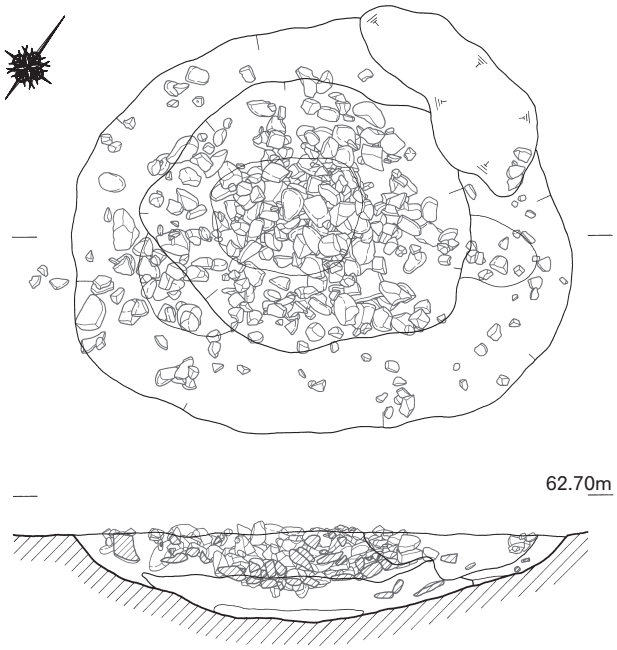
SI－277は草創期の10号・11号・13号住居跡、SC－342・350を切っており、平面の検出状況からSI－262・265に切られていたことがわかっている。直径4mを超える集石遺構であり、全国的にみても最大規模のものであろう。掘り込みは本遺構を覆っていた大量の焼礫を何度も除去しながら精査を繰り返して、ようやく検出に至



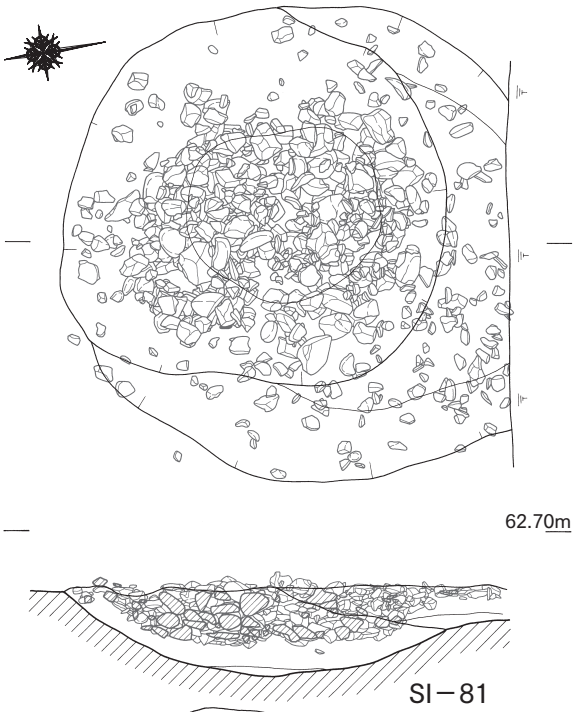
第129図　縄文早期集石遺構実測図⑨（S=1/30）

ったもので、本来の使用面より検出面は低く、使用礫も少ない記録状況となっている可能性がある。掘り込みの形状は2段掘りを呈しており、下部の掘り込みにも礫が密に充填されていたが、底石は見られなかった。なお、下部掘り込みでは西側の方にやや大きめの礫が集まっているようである。下部掘り込みから出土した炭化物は補正年代で8450±40BPであった。土器片117点(下剥峯式4：1075、桑ノ丸式2：1076、押型文3：1078～1080、撚糸文1：1077、隆帯文：2類5：1073・1074・4類9、不明：95隆帯文の無文部位を多く含むか)、石鏃2点(チャート1、桑ノ木津留産黒曜石1)等が出土している。草創期の遺構を多く切っているため、隆帯文土器が多く混入していた。1074は隆帯文土器2類にあたるが、草創期の遺物包含層・遺構内からは出土していないタイプのものである。口唇部に隆帯を巡らせてその上におそらく貝殻の押し引き文を施し、その下位にはつまみによる隆帯を巡らせる。また口縁部内面にも隆帯を持つ。反転復元による口縁部径は27.8cmを測る。

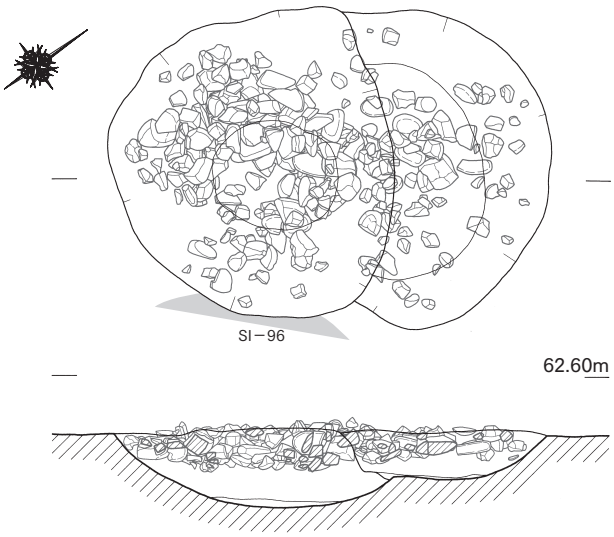
SI－315は床面に掘り込みがあり、ハイヒール状土坑の可能性も考えられるが、多量に礫が混入していたので集石遺構と分類した。土器片16点(押型文4：1082・1083、不明12)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃1点(1084)、砂岩製敲石1点等が出土している。



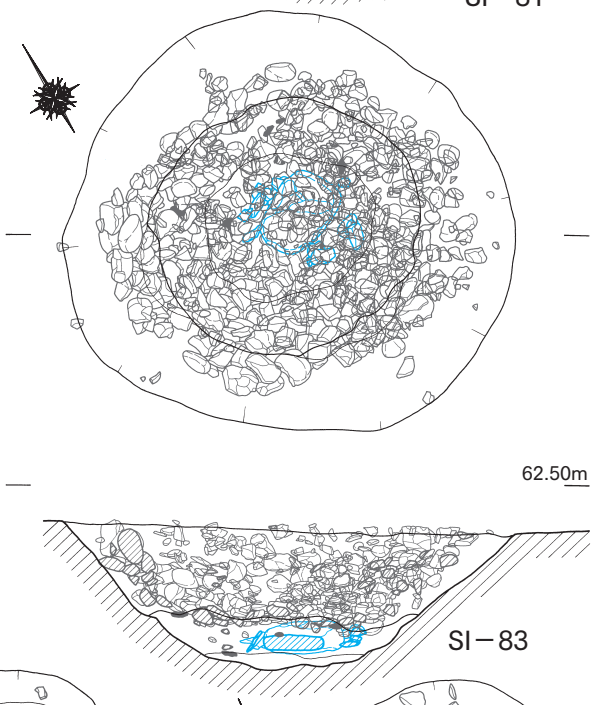
SI－78



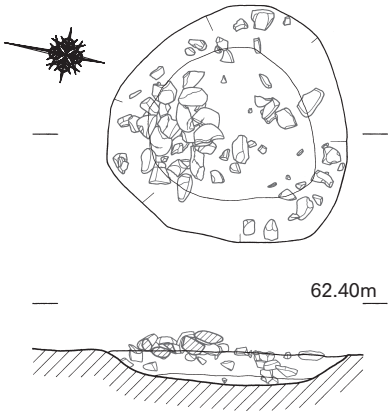
SI－81



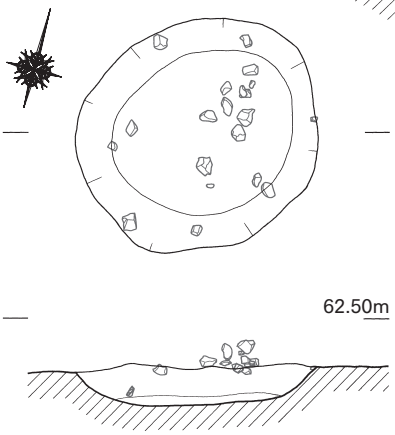
SI－82



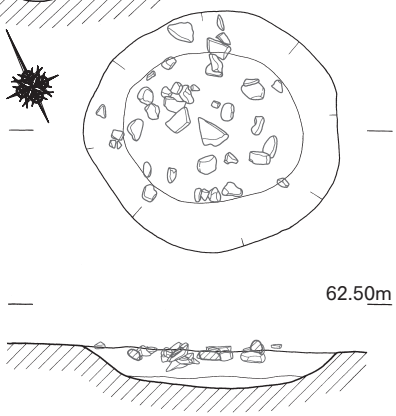
SI－83



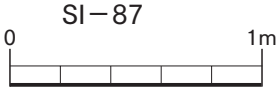
SI－84



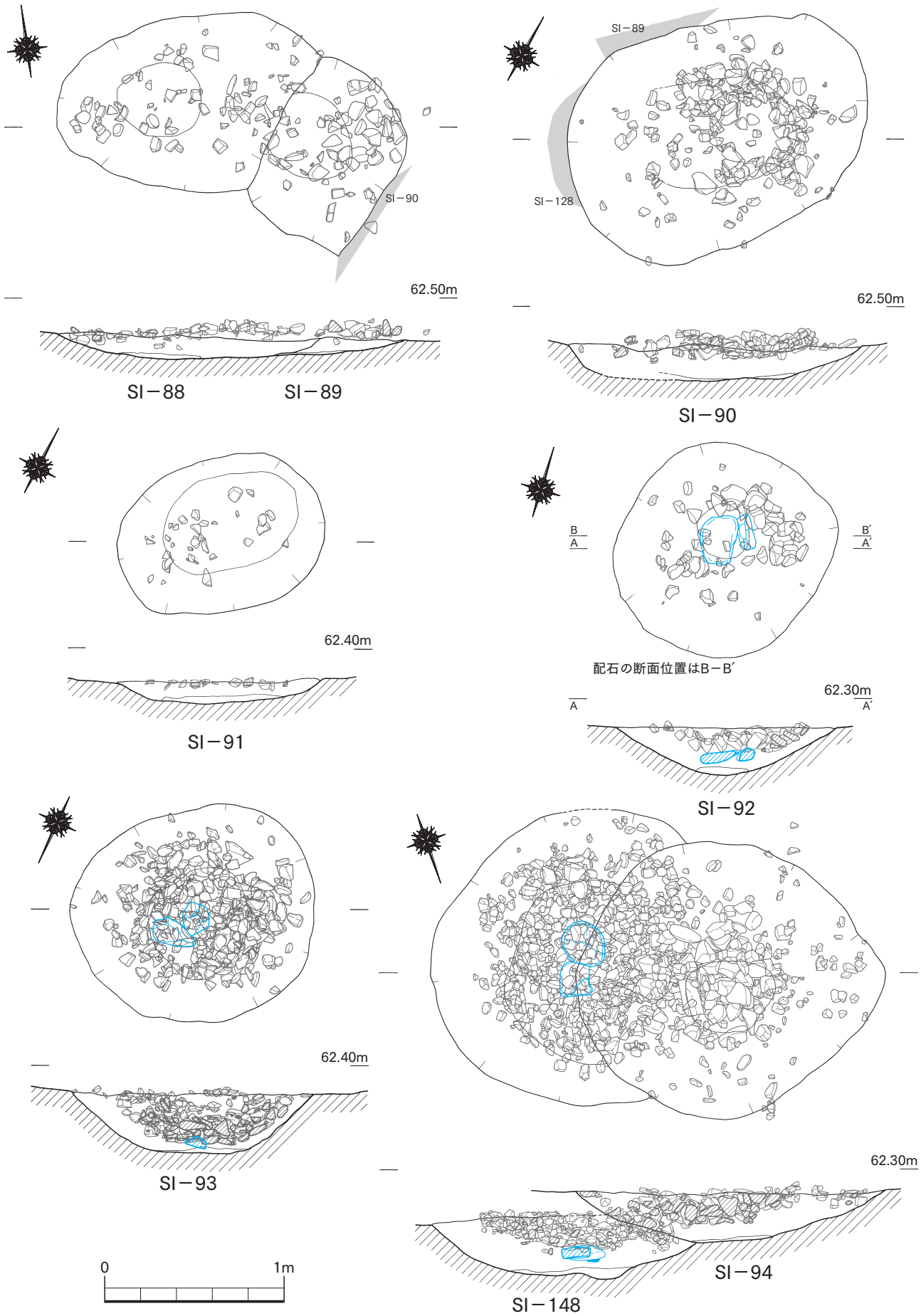
SI－86



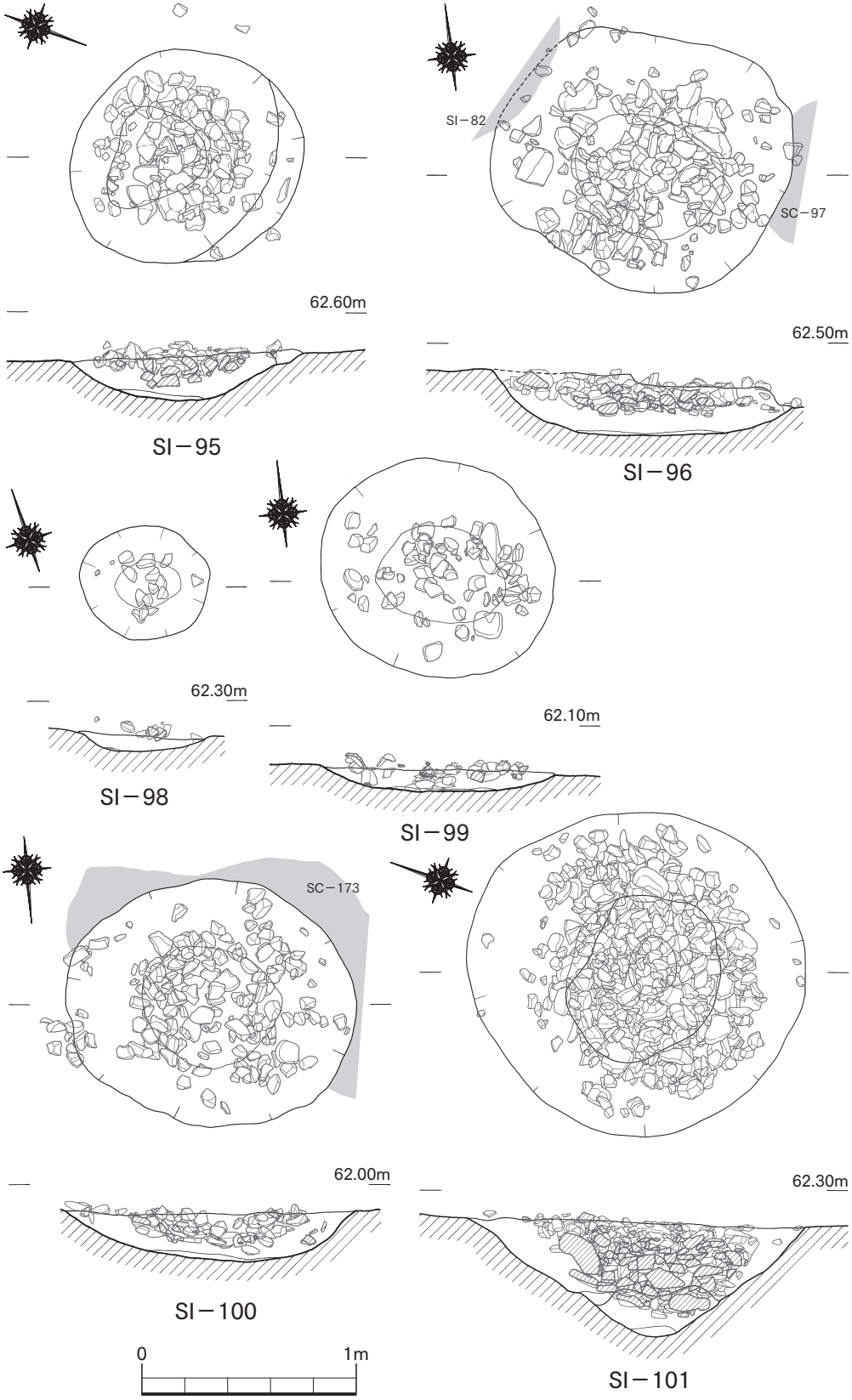
SI－87



第130図　縄文早期集石遺構実測図⑩（S=1/30）



第131図　縄文早期集石遺構実測図⑪（S=1/30）



第132図　縄文早期集石遺構実測図⑫（S=1/30）

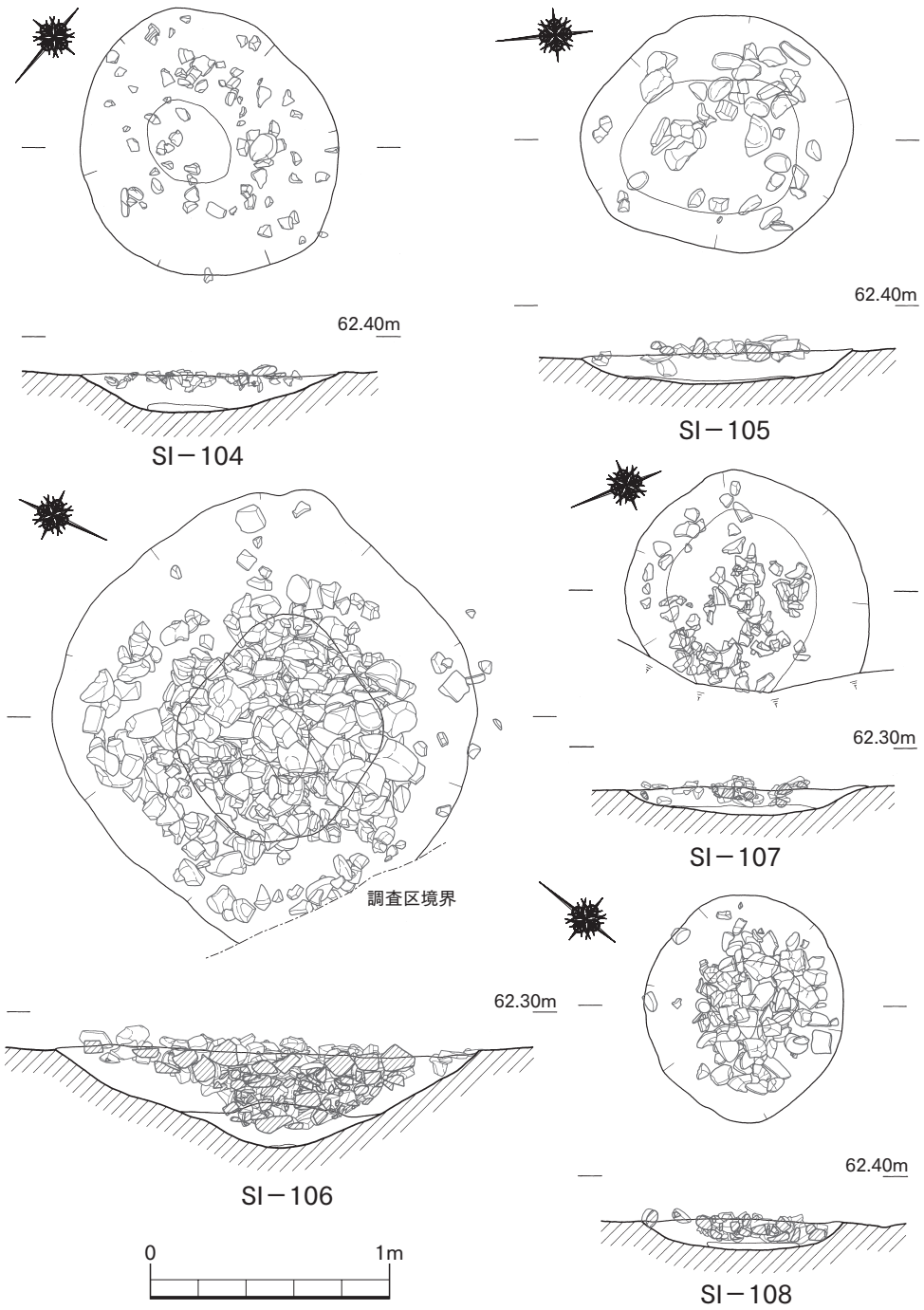
【出土遺物と炭化物の放射性炭素年代測定結果がある集石遺構】

SI－2は土器片6点(下剥峯式3：900～902、不明3)、頁岩製スクレイパー(903)等が出土している。SI－6は土器片4点(加栗山式2：904、別府原式1、押型文1：905)、チャート製石鏃1点(906)、砂岩製磨石1点等が出土しており、炭化物は補正年代で8790±40BPであった。SI－8は土器片11点(別府原式2：907、不明9：無文土器を含むか)等が出土しており、炭化物は補正年代で8790±50BPであった。

SI－10は土器片3点(条痕文土器2類1：911、不明2：無文土器を含むか)が出土しており、炭化物は補正年代で8800±40BPであった。SI－11は土器片2点(塞ノ神式1、不明1)、チャート製石鏃1点等が出土している。SI－12は土器片5点(塞ノ神式1、不明4)が出土している。また炭化物は補正年代で8550±40BPであった。SI－13はSI－15・58に切られており、炭化物は補正年代で8350±30BPであった。SI－18は不明土器片4点(隆帯文の無文部位か)が出土しており、炭化物は補正年代で9470±40BPであった。SI－19の炭化物は補正年代で8760±40BPであった。

SI－22は土器片4点(押型文3：926・927、条痕文土器2類1)が出土しており、炭化物は補正年代で8370±40BPであった。SI－25は下剥峯式土器片1点(929)等が出土している。

SI－34は土器片2点(押型文1：936、不明1：前平式か)等が出土しており、炭化物は補正年代で8100±50BPであった。SI－35は押型文土器片1点(937)等が出土しており、炭化物は補正年代で8170±50BPであった。



第133図　縄文早期集石遺構実測図⑬（S=1/30）

SI－38 は土器片 3 点(押型文 1：938 、条痕文土器 2 類 1：939 、不明 1)等が出土している。

SI－41 は土器片 2 点（桑ノ丸式 1：940 、不明 1) が出土している。SI－43 は桑ノ丸式土器片 1 点（941)が出土している。SI－45 の炭化物は補正年代で 8140±50BP であった。

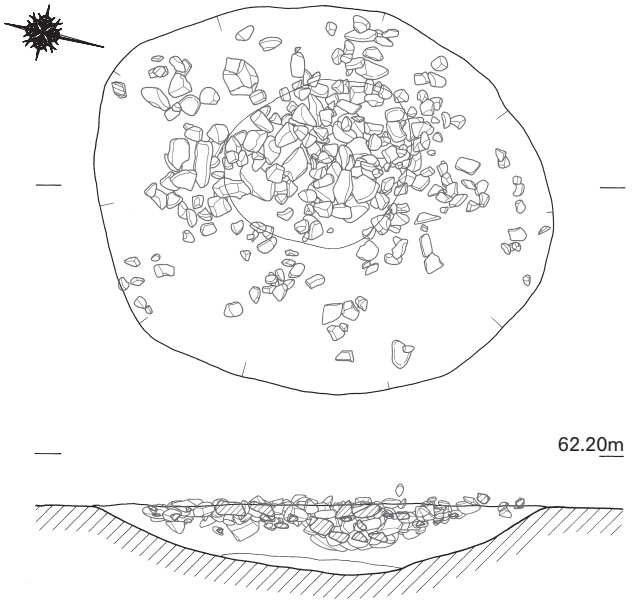
SI－53 は SI－25 に切られていた。土器片 2 点(押型文1:942、不明1)が出土しており、炭化物は補正年代で8300±50BPであった。

SI－71 は土器片 15 点(塞ノ神式 1：955・不明 13：無文土器を含むか)等が出土している。SI－74 は土器片 6 点(下剥峯式 1：956 、押型文 1：957 、不明 4)、尾鈴山酸性岩製磨石 1 点等が出土している。SI－75 は土器片 2 点(桑ノ丸式 1: 958 、不明 1)等が出土している。SI－76 は土器片 4 点(押型文 1：959 、不明 3：隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。SI－77 は土器片 9 点(別府原式 1：961 、条痕文土器 2 類 1：960 、不明 7：無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)、安山岩製石鏃 2 点(962・963)等が出土している。SI－78 は不明土器片 1 点(隆帯文の無文部位か)、石鏃 2 点(チャート製：964 、安山岩製：965)等が出土している。

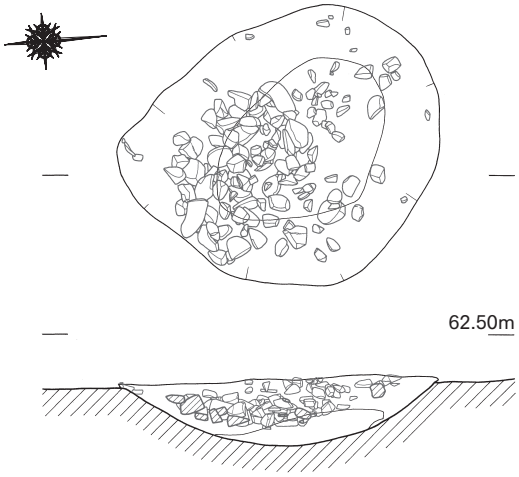
SI－81 は土器片 3 点(別府原式 1 、押型文 1 、塞ノ神式 1)が出土している。SI－83 は別府原式土器 2 点(966)、チャート製石鏃未製品(967)等が出土している。SI－84 は土器片 5 点(別府原式 2：968 、塞ノ神式 3)が出土している。

SI－92 は塞ノ神式土器片 1 点、チャート製石鏃(970)等が出土している。SI－98 は頁岩製石鏃 1 点が出土している。

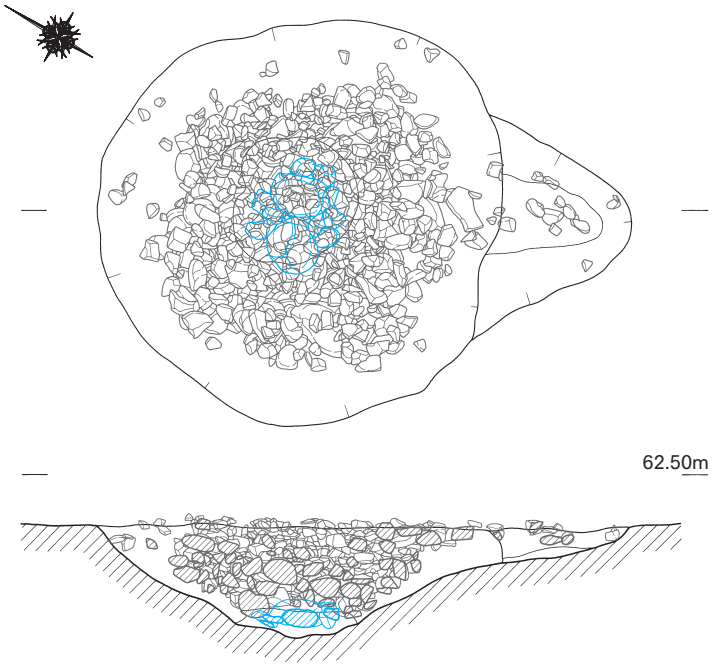
SI－100 は桑ノ木津留産黒曜石製石鏃(976)と頁岩製スクレイパー（977)が各 1 点出土している。SI－101 は無文土器 2 類片 1 点、チャート製石鏃 1 点等が出土している。SI－105 は砂岩製敲石と磨石が 5 点(978・979)出土している。SI－106 は別府原式土器片 1 点が出土しており、炭化物は補正年代で 8720±50BP であった。SI－109 は土器片 2 点(別府原式 1：981 、押型文 1：980)等が出土している。980 は押型文土器 4 類の口縁部片で反転復元による径は 37.2cm を測る。



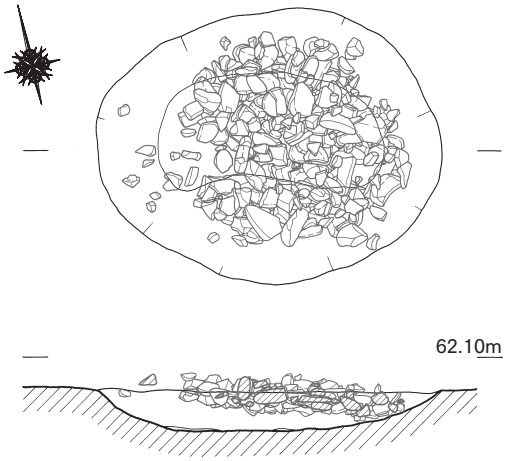
SI－109



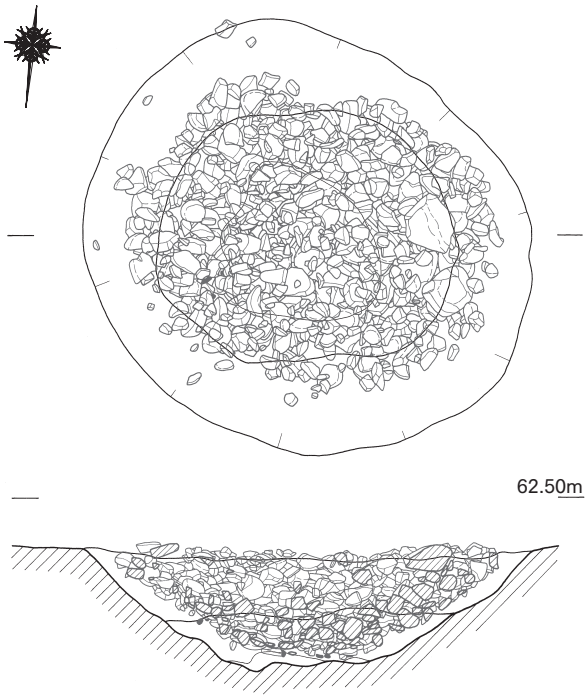
SI－112



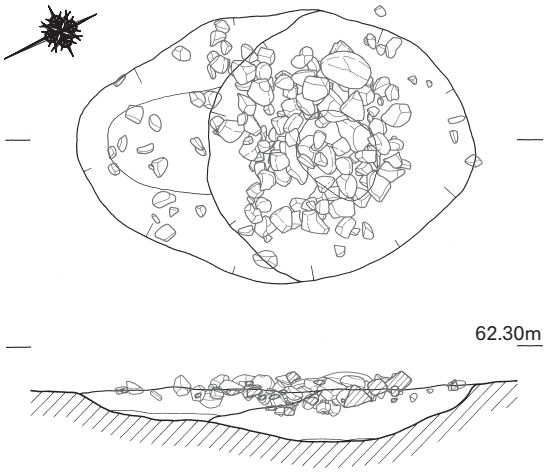
SI－114



SI－111

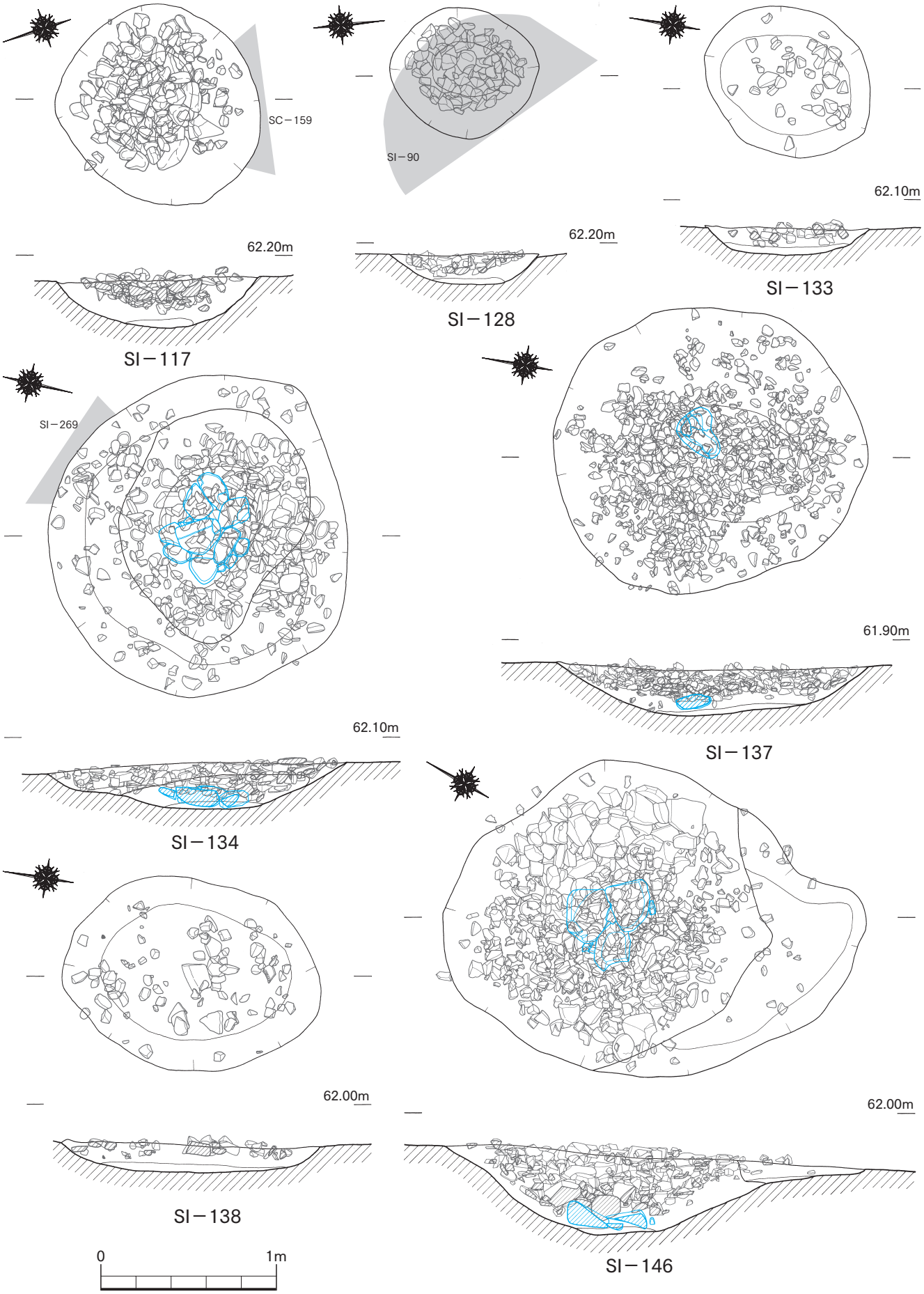


SI－113

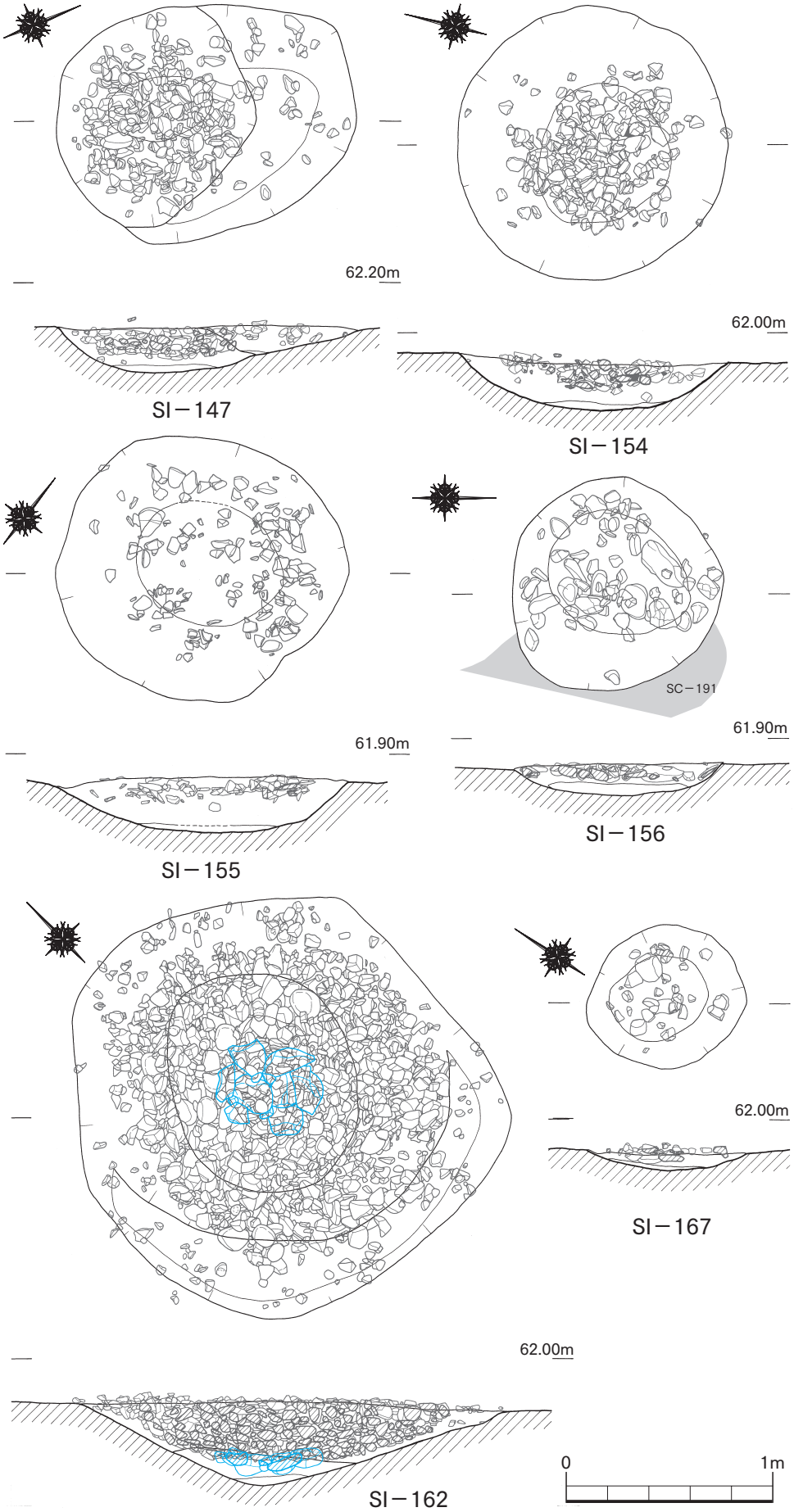


SI－115

第134図　縄文早期集石遺構実測図⑭（S=1/30）



第135図　縄文早期集石遺構実測図⑮（S=1/30）



第136図　縄文早期集石遺構実測図⑯（S=1/30）

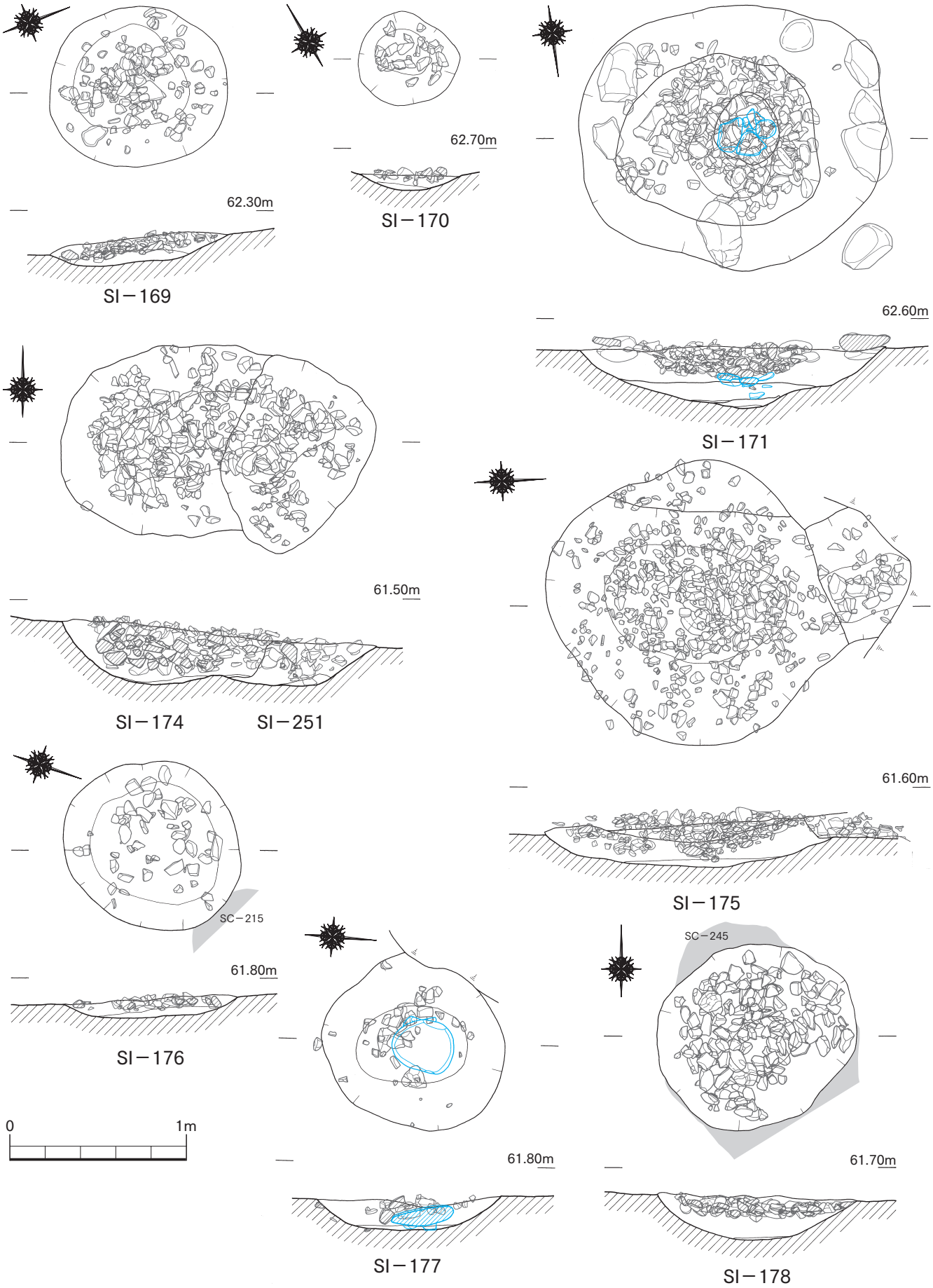
SI－111は押型文土器片1点(982)が出土している。SI－112は押型文土器片1点が出土している。SI－113は別府原式土器片1点が出土しており、炭化物は補正年代で8020±50BPであった。SI－115は土器片2点(押型文1：983、不明1)が出土している。SI－117は不明土器片1点が出土している。

SI－133は土器片2点(別府原式1：986、押型文1：985)が出土している。SI－134は押型文土器片1点(987)が出土している。SI－137は土器片2点(別府原式3：988、下剥峯式1：989、押型文6：990・991、隆帯文:2類2・4類1、爪形文1類1、不明16：隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃2点(992・993)等が出土している。SI－138は押型文土器片1点(994)、チャート製石鏃1点等が出土しており、炭化物は補正年代で8690±50BPであった。

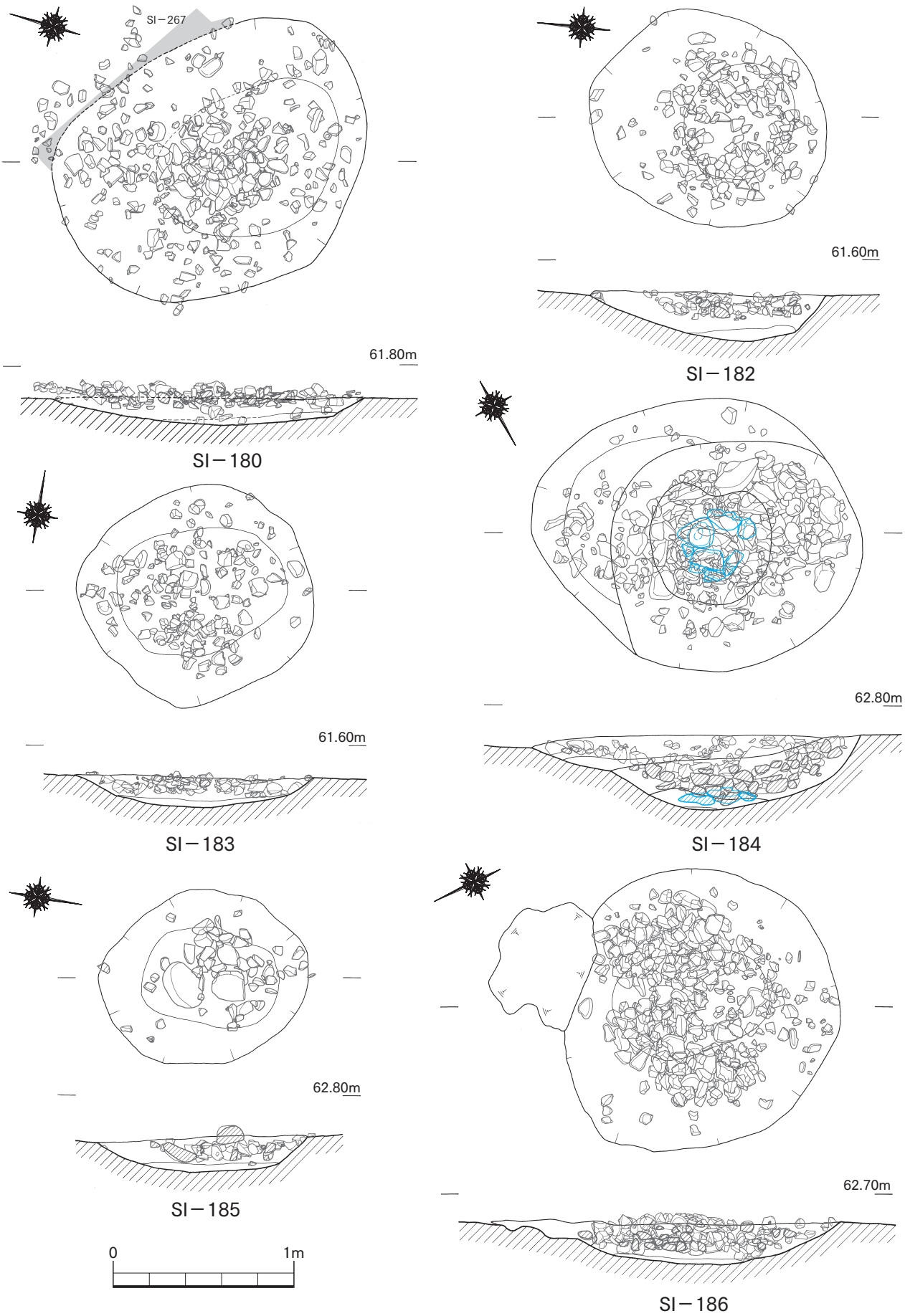
SI－146は土器片6点(押型文3：995～997、縄文施文1：998、無文土器1：内面丹塗りか、不明1：桑ノ丸式か)等が出土している。

SI－154は土器片3点(塞ノ神式1：1002、不明2)が出土している。SI－155は不明土器片1点(別府原式か)等が出土している。SI－156は不明土器片2点(無文土器か)が出土している。

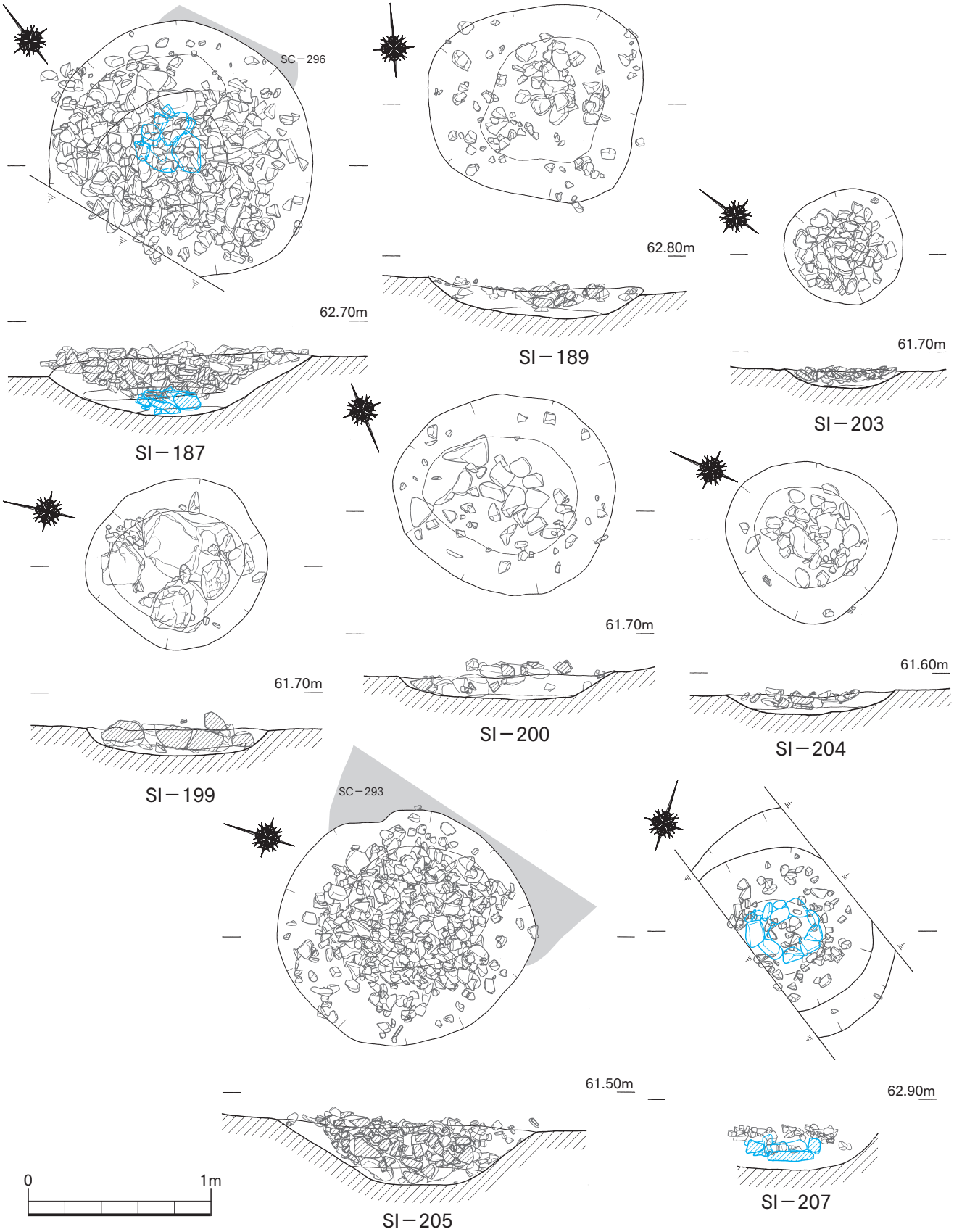
SI－162は土器片6点(押型文1：1003、不明4：桑ノ丸式や隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製両面調整石器1点(1004)、チャー



第137図　縄文早期集石遺構実測図⑰（S=1/30）



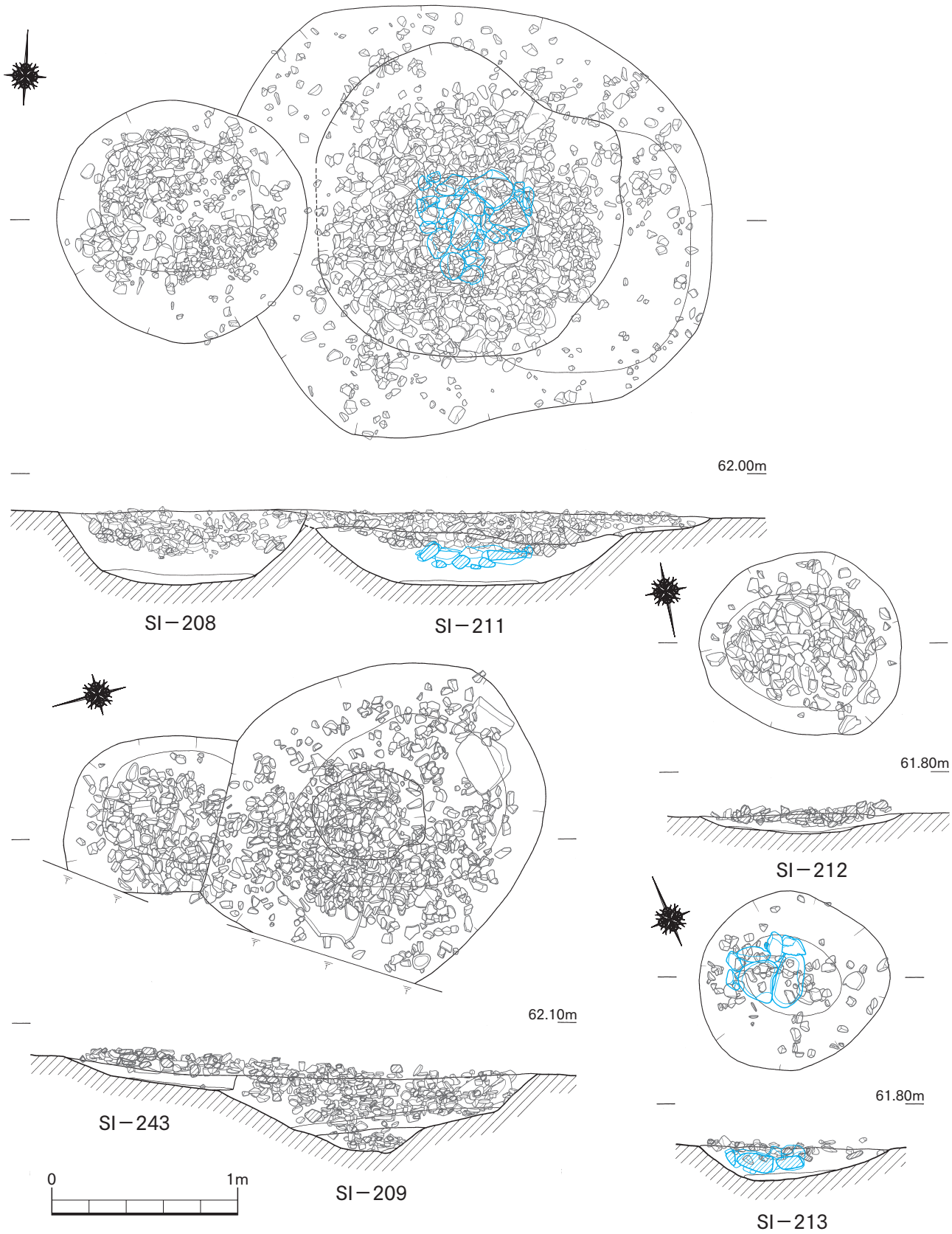
第138図　縄文早期集石遺構実測図⑱（S=1/30）



第139図　縄文早期集石遺構実測図⑲（S=1/30）

ト製石鏃１点等が出土している。SI－167 の炭化物は補正年代で 8190±50BP であった。SI－169 はチャート製石鏃１点等が出土している。

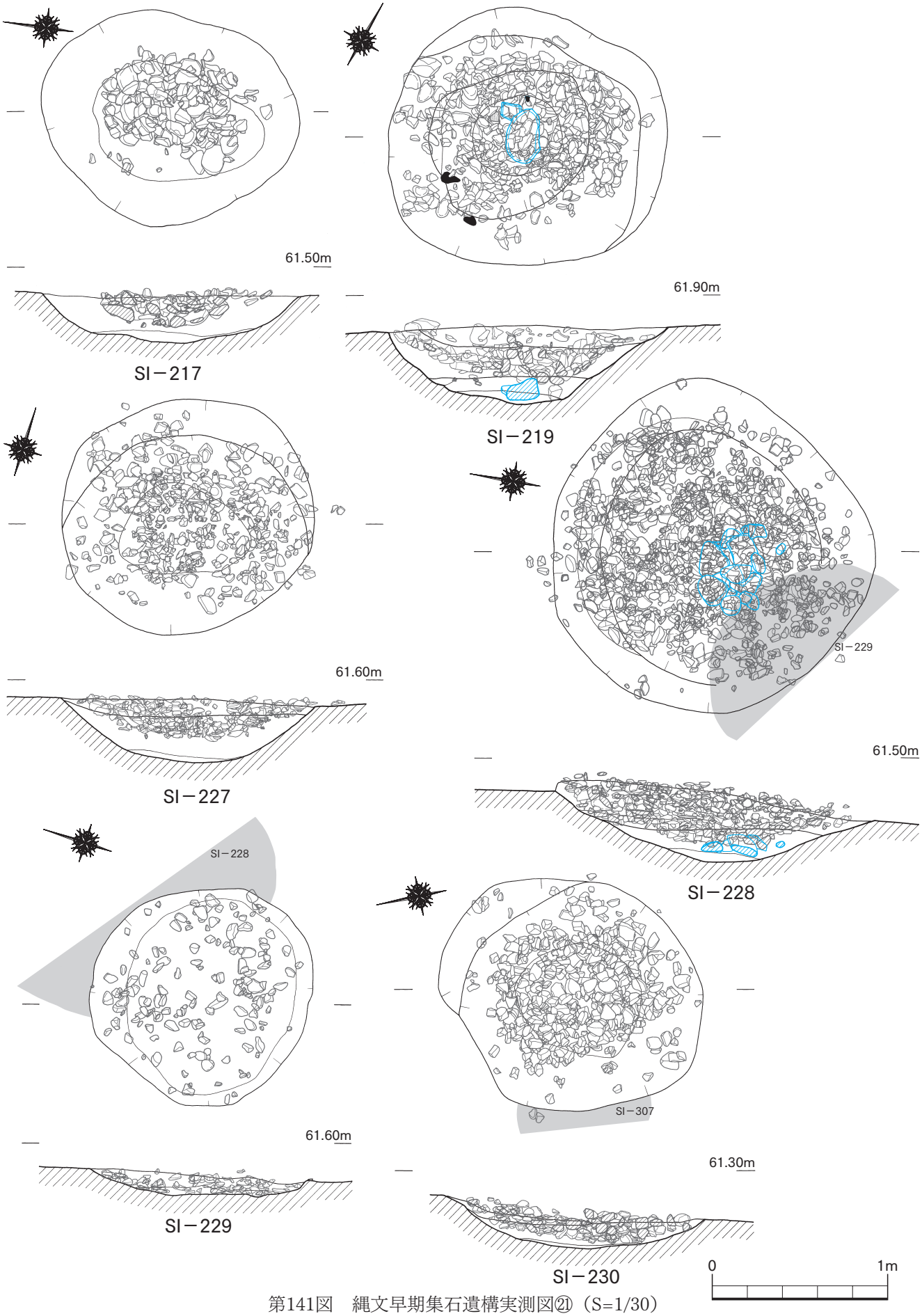
SI－176 は別府原式土器１点(1010)、砂岩製スクレイパー１点、砂岩製敲石１点(1011)等が出土している。SI



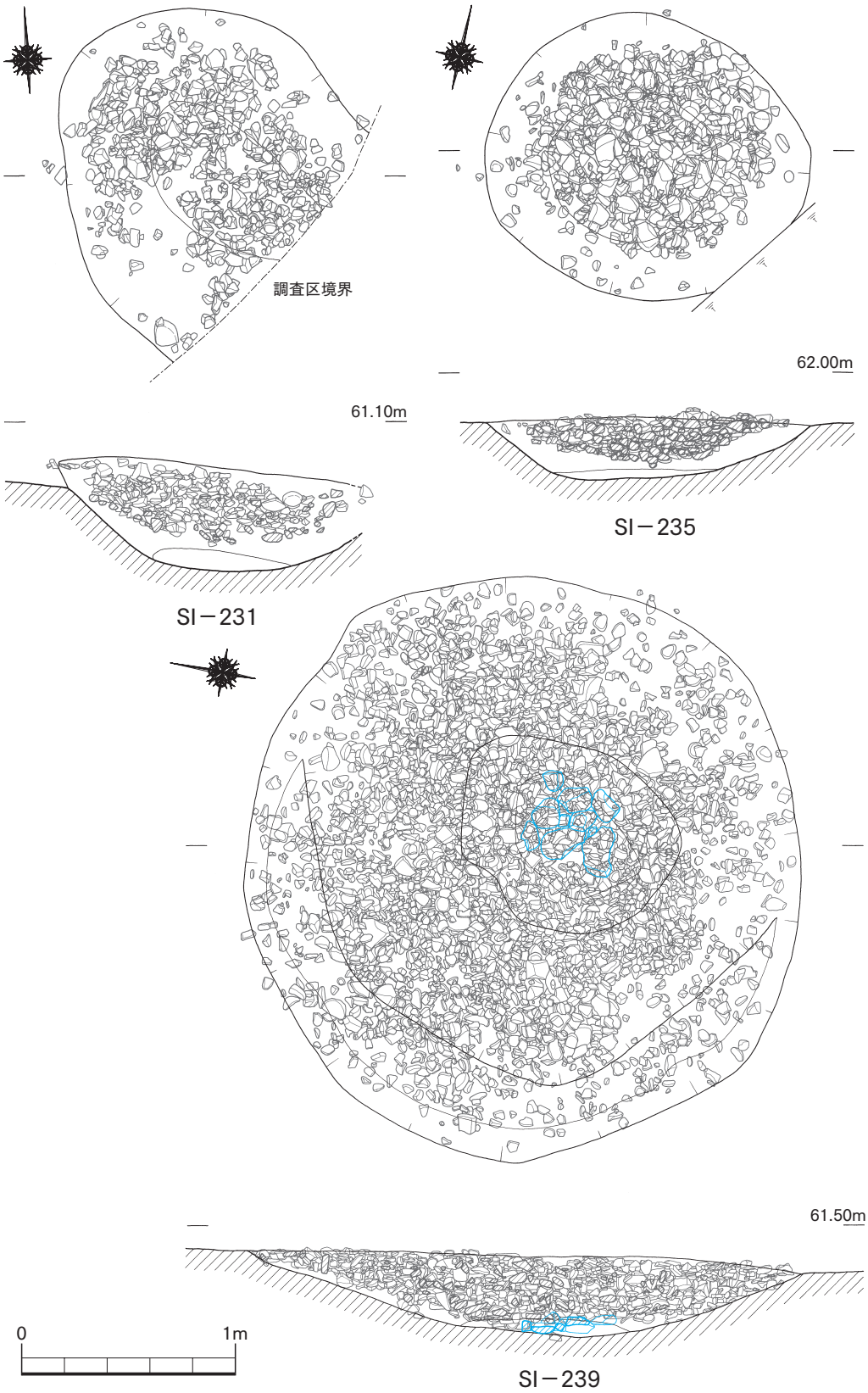
第140図　縄文早期集石遺構実測図⑳（S=1/30）

－178 は不明土器片 1 点(隆帯文土器の無文部位か)等が出土している。

SI－182 は不明土器片 4 点等が出土している。SI－183 は土器片 2 点(別府原式 1：1013 、不明 1)等が出土している。SI－184 は撚糸文土器片 1 点(1014)等が出土している。SI－185 は桑ノ丸式土器片 1 点(1015)が出土している。SI－186 は不明土器片 2 点(別府原式を含むか)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点等が出土している。SI



第141図　縄文早期集石遺構実測図㉑（S=1/30）



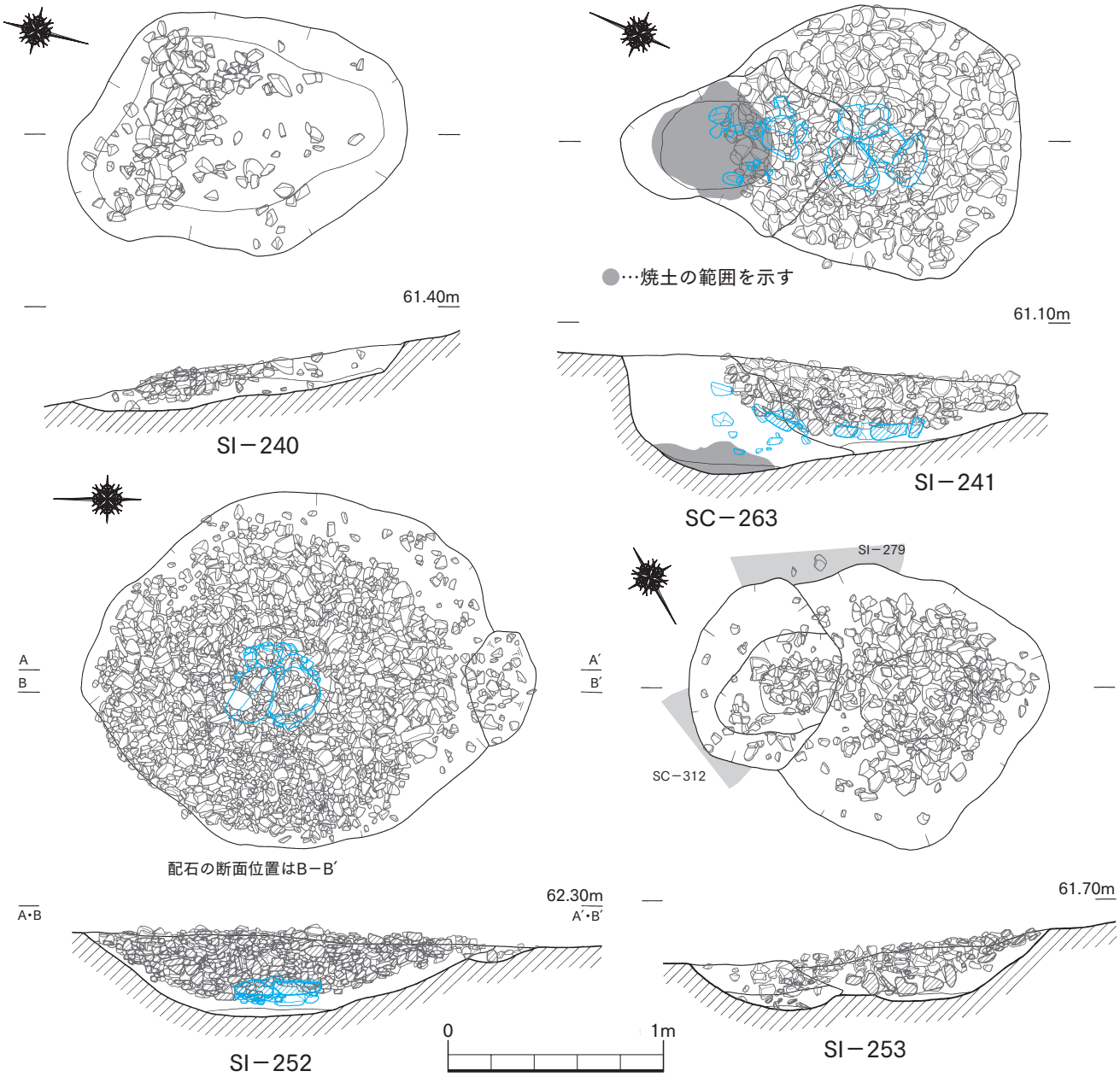
第142図　縄文早期集石遺構実測図㉒（S=1/30）

－187 は押型文土器片 1 点(1016)が出土している。SI－189 は塞ノ神式土器片 1 点が出土しており、炭化物は補正年代で 8600±50BP であった。

SI－200 は土器片 2 点(別府原式 1:1017、不明 1：隆帯文の無文部位か)が出土している。SI－204 は別府原式土器片 1 点(1018)等が出土している。SI－205 は土器片 5 点(桑ノ丸式 1：1019、押型文 1：1020 、不明 3：隆帯文の無文部位か)が出土している。SI－208 は押型文土器片 1 点(1021) が出土している。1021 の反転復元による口縁部径は 23.2cm を測る。SI－209 は SI－243 を切っており、土器片 4 点(条痕文土器 2 類 1:1023、無文土器 1：1022、隆帯文:4 類 1 、不明 1:隆帯文の無文部位か)等が出土している。炭化物は補正年代で 8500±50BPであった。SI－243 は西北九州産黒曜石製石鏃 1 点(1044)等が出土している。

SI－211 は押型文土器片 1 点(1024)、尾鈴山酸性岩製敲石 1 点(1025)が出土している。SI－212 は無文土器片 1 点(1026) 等が出土している。SI－213 は土器片 4 点(無文土器 2 、不明 2：隆帯文の無文部位か 1026)が出土している。SI－217 は土器片 3 点(押型文 1 、爪形文 1 類 1 、不明 1：隆帯文の無文部位か)が出土している。SI－219 は土器片 9 点(押型文 6：1027 ～ 1030 、不明 1 隆帯文の無文部位か)等が出土している。1027 の反転復元による口縁部径は 26.2cm を測る。

SI－227 は土器片 10 点(隆帯文 2 類 1 、不明 8：無文土器と隆帯文の無文部位を含むか)が出土している。SI



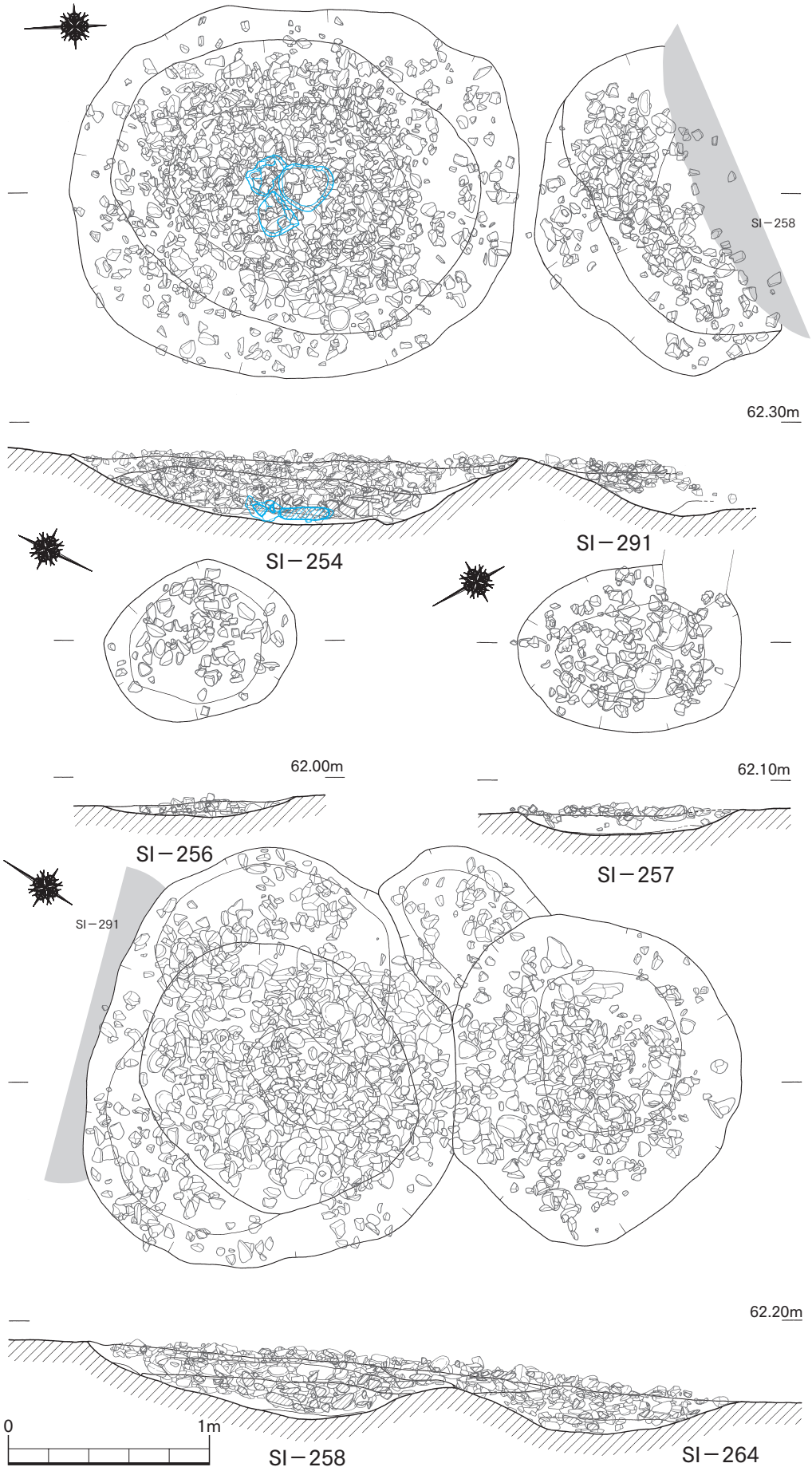
第143図　縄文早期集石遺構実測図㉓（S=1/30）

－228 は土器片 9 点(下剥峯式 1：1031 、撚糸文 1：1032 、不明 7：隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃 1 点(1033：尖端部磨滅)、頁岩製尖頭状石器(1034)等が出土している。SI－229 は SI－228 に切られており、土器片 6 点(桑ノ丸式 1：1035 、塞ノ神式 1：1036 、無文土器 1：1037 、不明 3：隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。

SI－239 は土器片 5 点(下剥峯式 2：1038・1039 、塞ノ神式 1：1040 、爪形文 1 類 1 、不明 1：隆帯文の無文部位か)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点(1041)、頁岩製スクレイパー 1 点(1042)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8610±40BP であった。

SI－252 は土器片 9 点(押型文 1：1048 、隆帯文 4 類 1 、不明 6：隆帯文の無文部位を含むか)、砂岩製スクレイパー 1 点(1049)等が出土している。SI－257 は土器片 6 点(桑ノ丸式 1 、爪形文 1 類 1 、不明 4：隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。SI－259 は土器片 4 点(不明 4：刺突文と隆帯文の無文部位を含むか)等が出土している。

SI－261 は土器片 35 点(別府原式 1 、桑ノ丸式 1：1061 、押型文 10：1062 ～ 1065 、撚糸文 1：1060 、隆帯文 2 類 1 、不明 11：隆帯文の無文部位を含むか)等が出土しており、炭化物は補正年代で 8260±50BP であった。SI－262 は不明土器片 2 点(条痕文 2 類と隆帯文の無文部位か)が出土している。SI－265 は土器片 14 点(隆



第144図　縄文早期集石遺構実測図㉔（S=1/30）

帯文２類１、不明12：隆帯文の無文部位を含むか）が出土している。SI－266は不明土器片３点（隆帯文の無文部位を含むか）等が出土している。

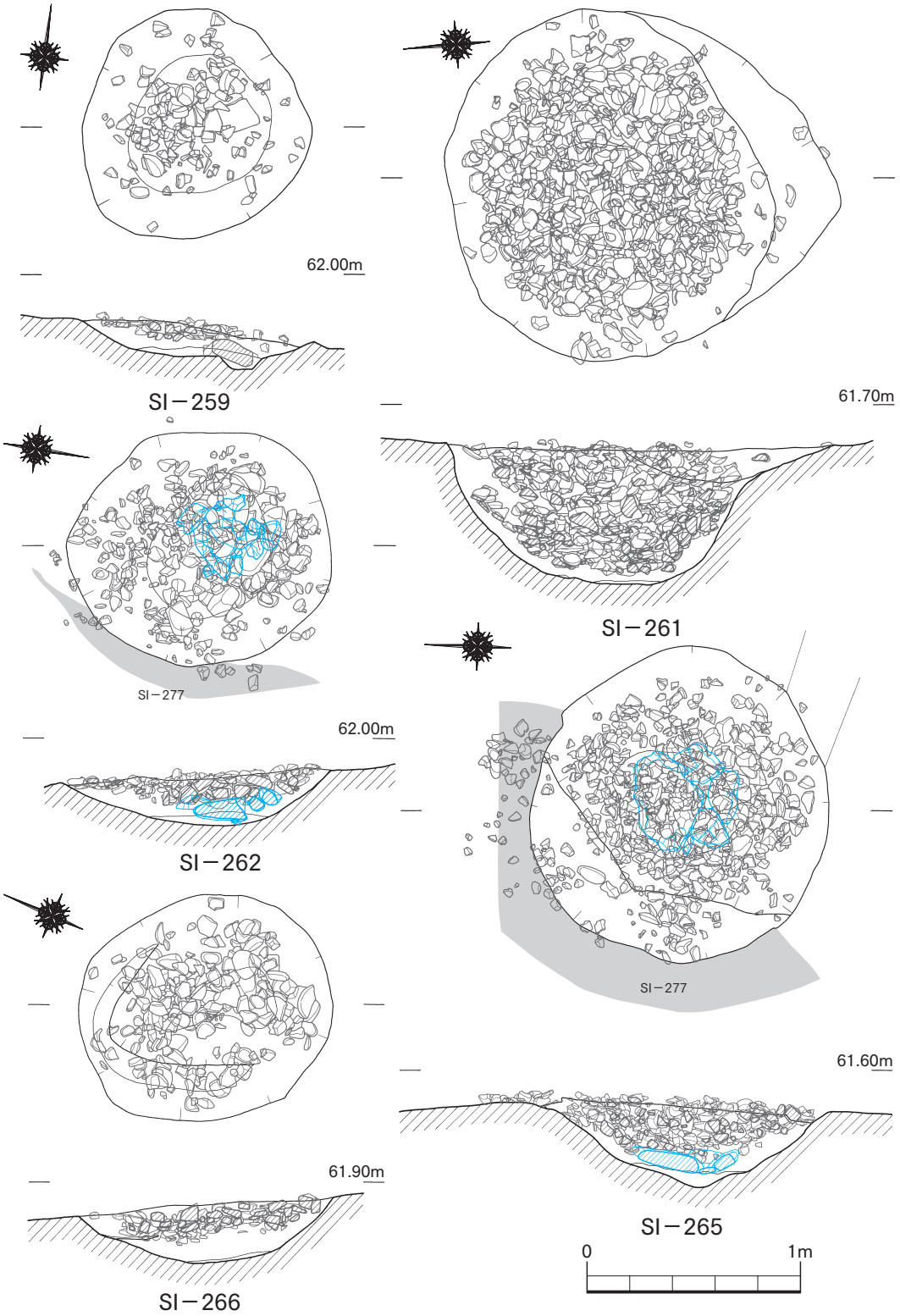
SI－270は土器片２点（押型文１、不明１）等が出土している。SI－272は土器片８点（桑ノ丸式１、押型文１、不明６：隆帯文の無文部位を含むか）が出土している。SI－274は土器片14点（塞ノ神式１、押型文２、不明12：無文土器と隆帯文の無文部位を含むか）等が出土している。

２．炉穴

（第157図～165図）

炉穴は基本土層Ⅵ層下部からⅧ層上部にかけて検出されている。平面プランは主に楕円形又は長楕円形を呈し、床面の一部に焼土が検出されるものである。遺構埋土に焼土や炭化物を多く含むことも特徴である。本調査区では本来存在したであろうブリッジが残存しているものは検出されなかった。以下に個別の所見について報告する。

SC－28は検出面での規模が2.17m×1.12mの不整楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは48cmを測る。遺構埋土からは土器片８点（下剥峯式1:1085、押型文5:1086～1088、不明2）、チャート製剥片２点が出土している。また炭化物は補正年代で8410±30BPであった。



第145図　縄文早期集石遺構実測図㉕（S=1/30）

SC－31は草創期の集石遺構SI－55を切っていた。検出面での規模は2.63m×1.56mの不整形な柄鏡状を呈し、燃焼部は西側で深さは76cmを測る。遺構埋土からは土器片3点（下剥峯式1：1089、押型文1：1090、不明1）、剥片3点（チャート2、桑ノ木津留産黒曜石1）が出土している。また炭化物は補正年代で8250±50BPであった。

SC－32は北側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は2.68m×1.6m以上の西側が二股に分かれる平面プランを呈する。燃焼部は西側に2箇所あって深さは北側が48cm、南側は61cmを測る。床面東側の足場には径22cmの柱穴状の掘り込みが確認された。遺構埋土からは土器片17点（桑ノ丸式1：1091、押型文7：1092～1094、不明8）、チャート製石鏃2点（1095・1096）、ホルンフェルス製尖頭状石器1点（1097）、頁岩製スクレイパー1点（1098）、剥片16点（頁岩2、チャート5、黒曜石5：桑ノ木津留産3・西北九州産2、ホルンフェルス2、砂岩2）が出土している。また炭化物は補正年代で8240±40BPであった。

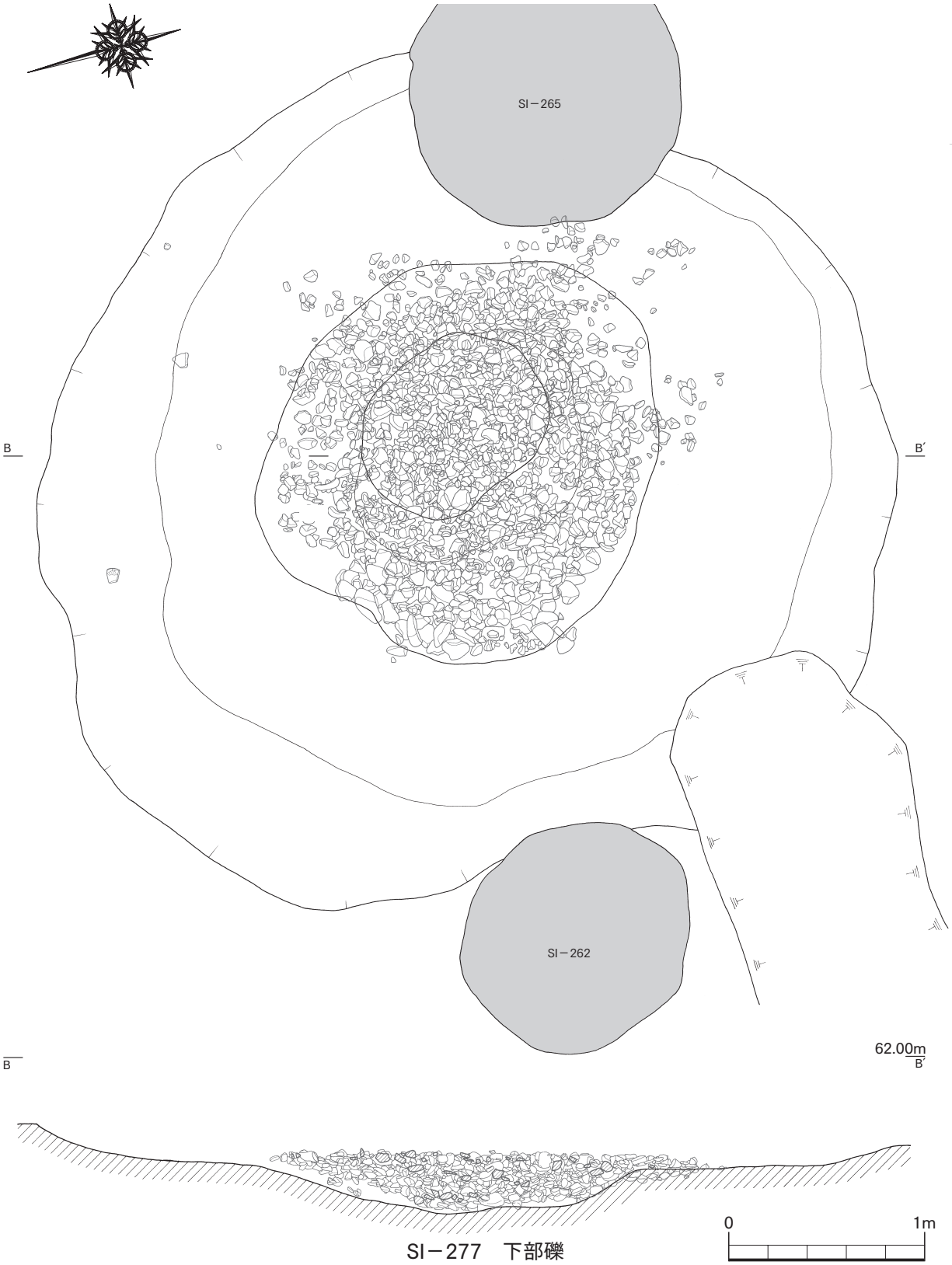
SC－40は検出面での規模が2.55m×1.09mの不整長楕円形プランを呈し、燃焼部は東側で深さは63cmを測る。遺構埋土からは土器片9点（別府原式1、下剥峯式1：1099、押型文4：1100・1101、不明3）、チャート製剥片1点が出土している。また炭化物は補正年代で8350±50BPであった。

SC－44は検出面での規模が2.17m×1.17mの不整楕円形プランを呈する。床面に明瞭な焼土は検出されなかったが、遺構埋土中には焼土と炭化物が多く混入していることから炉穴と断定した。床面北側の一段低いところ

第146図　縄文早期集石遺構実測図㉖（S=1/30）

が燃焼部と考えられ、その深さは58cmを測る。埋土からは土器片5点（押型文1、不明4）、剥片2点（チャート1、ホルンフェルス1）が出土している。

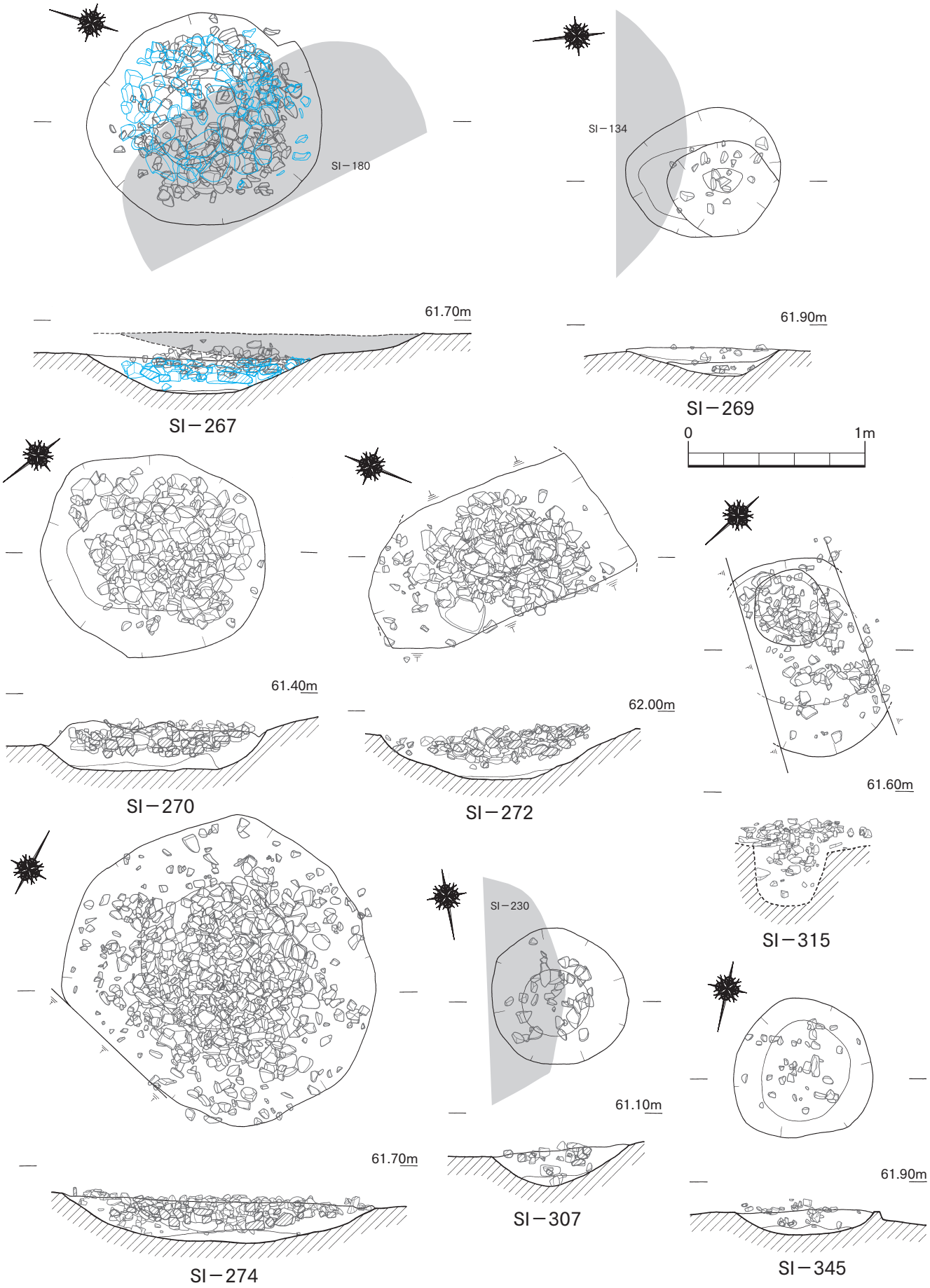
SC－49は中心に攪乱を受け不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.56m×0.45 mの不整長楕円形プランを呈する。床面に明瞭な焼土は検出されなかったが、遺構埋土中には焼土と炭化物が多く混入していることから炉穴



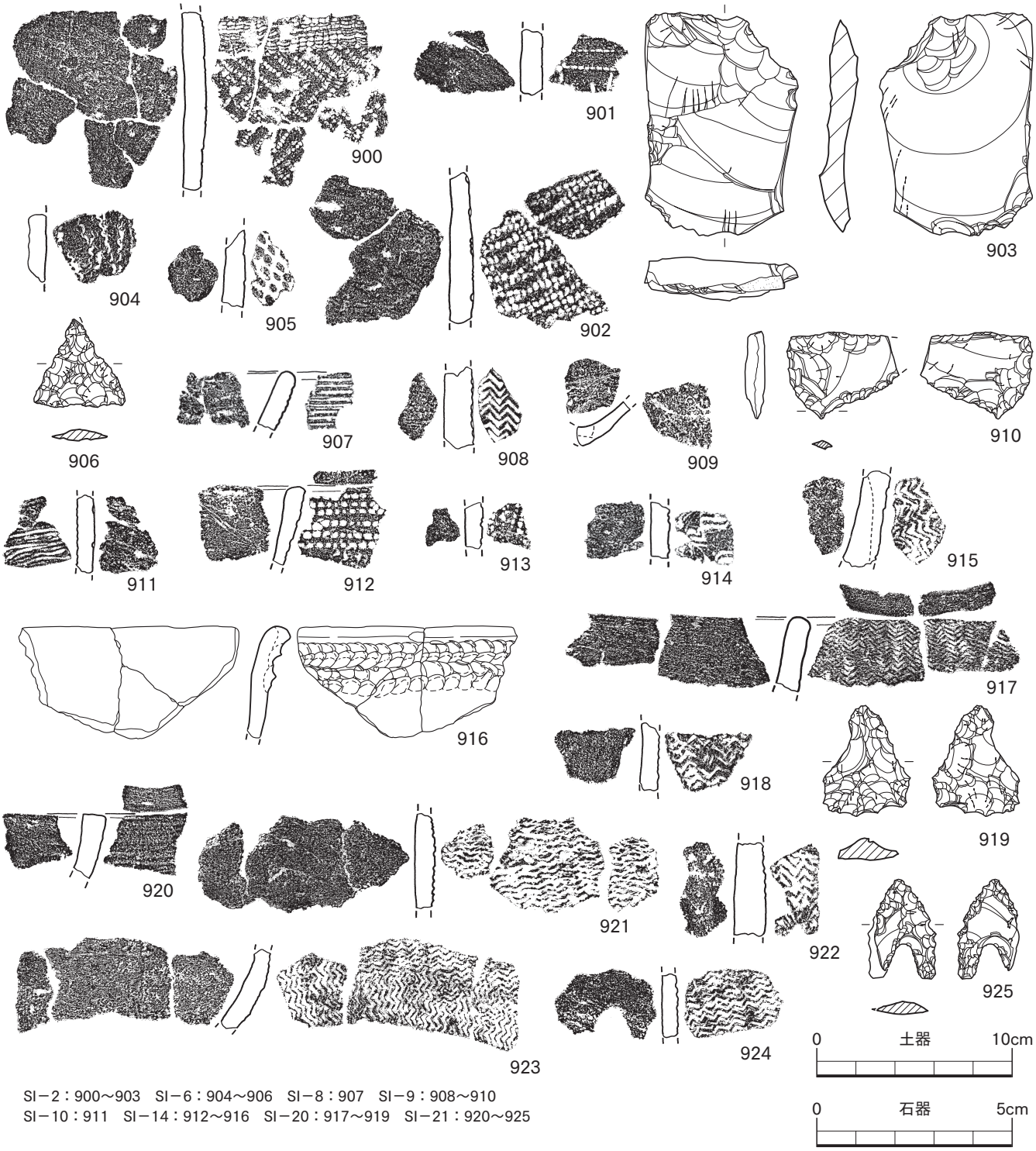
第147図　縄文早期集石遺構実測図㉗（S=1/30）

と断定した。床面北側の一段低いところが燃焼部と考えられ、その深さは35cmを測る。埋土からは別府原式土器片1点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片1点が出土している。また炭化物は補正年代で8820±50BPであった。

SC－57は検出面での規模が3.46m×3.35mの不整十字形プランを呈する。床面の北側と東側の一段低い部分には焼土が検出されたので少なくともこの2箇所が燃焼部と考えられ、その深さは北側が52cm、西側は40cm



第148図　縄文早期集石遺構実測図㉘（S=1/30）

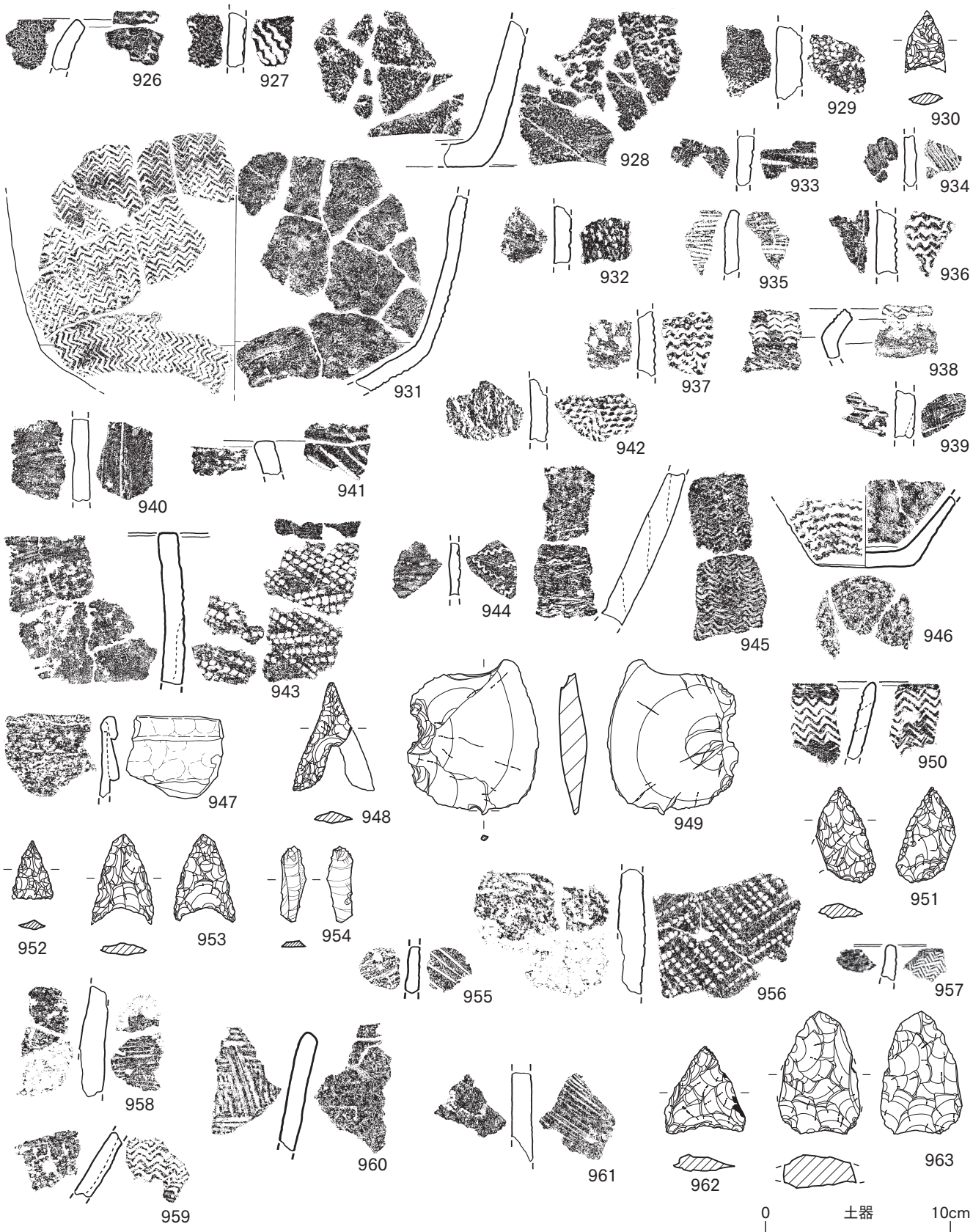


SI－2：900～903　SI－6：904～906　SI－8：907　SI－9：908～910
SI－10：911　SI－14：912～916　SI－20：917～919　SI－21：920～925

第149図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図①（S=1/3・2/3）

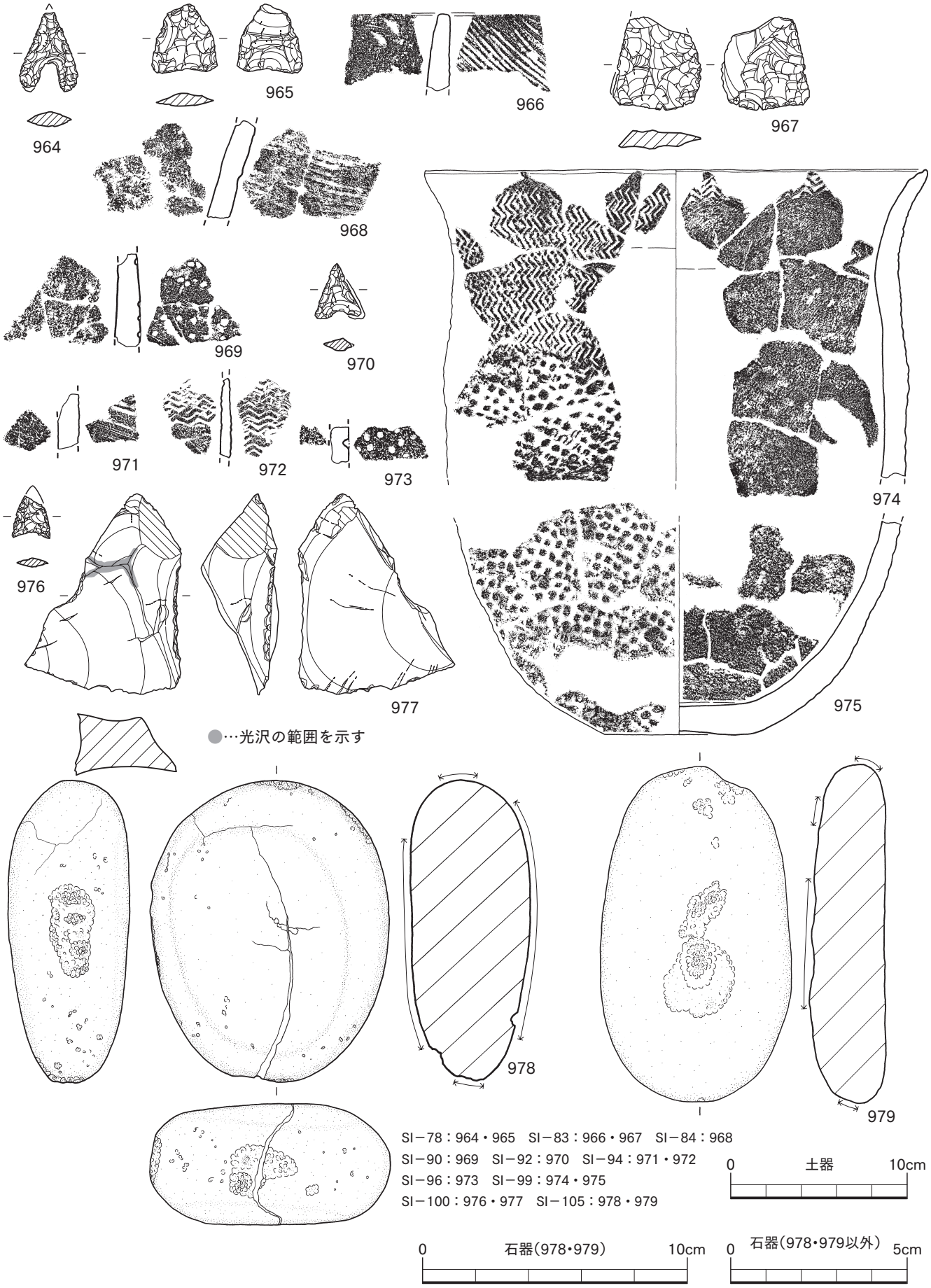
を測る。不整形な平面プランと床面に数箇所の柱穴状の掘り込みが見られることから、おそらく数基の炉穴とハイヒール状土坑との切り合い関係にあったものと想定されるが、調査中にその新旧関係を把握することができなかった。遺構埋土からは土器片 22 点(押型文 6:1103 ～ 1106 、不明 16:隆帯文の無文部位を含む)、剥片 11 点(チャート 9 、桑ノ木津留産黒曜石 2)が出土している。また炭化物は補正年代で 8340±40BP であった。

SC－62 は検出面での規模が 2.13m×1.24m の不整楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは 54cm を測る。燃焼部のさらに西側にはテラス状の平坦面があり、径 36cm 、深さ 15cm の柱穴状の掘り込みが見られる。これについてはハイヒール状土坑等との切り合い関係とも考えられるが、それを調査中に把握することはできなかった。遺構埋土からは押型文土器片 3 点(1107 ～ 1109)、剥片 5 点(頁岩 1 、チャート 1 、黒曜石 2：桑ノ木津留産 1・西北九州産 1 、ホルンフェルス 1)が出土している。また炭化物は補正年代で 8320±30BP であった。

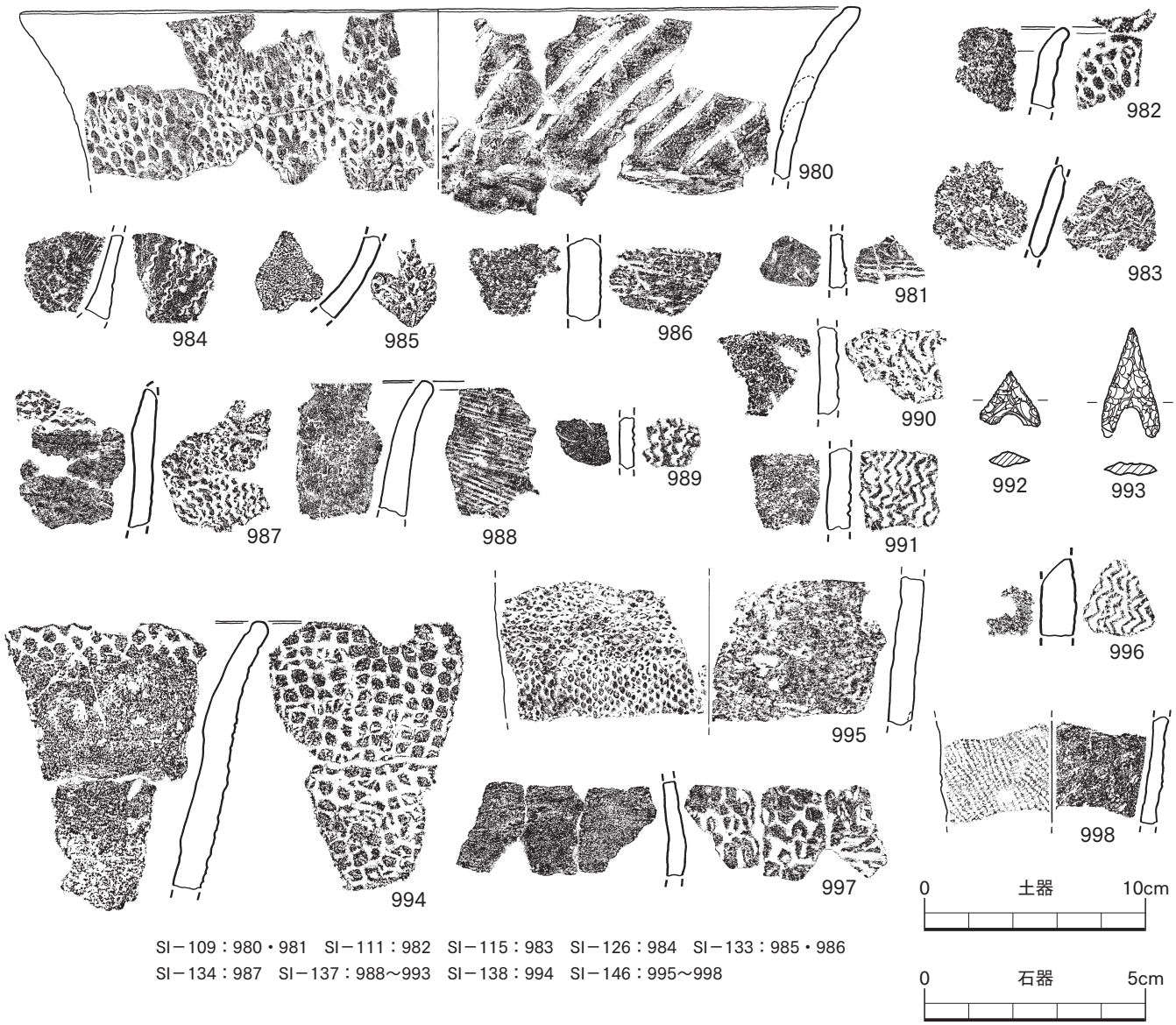


SI－22：926・927　SI－23：928　SI－25：929　SI－26：930　SI－26・28：931
SI－27：932　SI－33：933～935　SI－34：936　SI－35：937　SI－38：938・939
SI－41：940　SI－43：941　SI－53：942　SI－60：943～949　SI－70：950～954
SI－71：955　SI－74：956・957　SI－75：958　SI－76：959　SI－77：960～963

第150図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図②（S=1/3・2/3）



第151図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図③（S=1/3・2/3・1/2）



SI－109：980・981　SI－111：982　SI－115：983　SI－126：984　SI－133：985・986
SI－134：987　SI－137：988～993　SI－138：994　SI－146：995～998

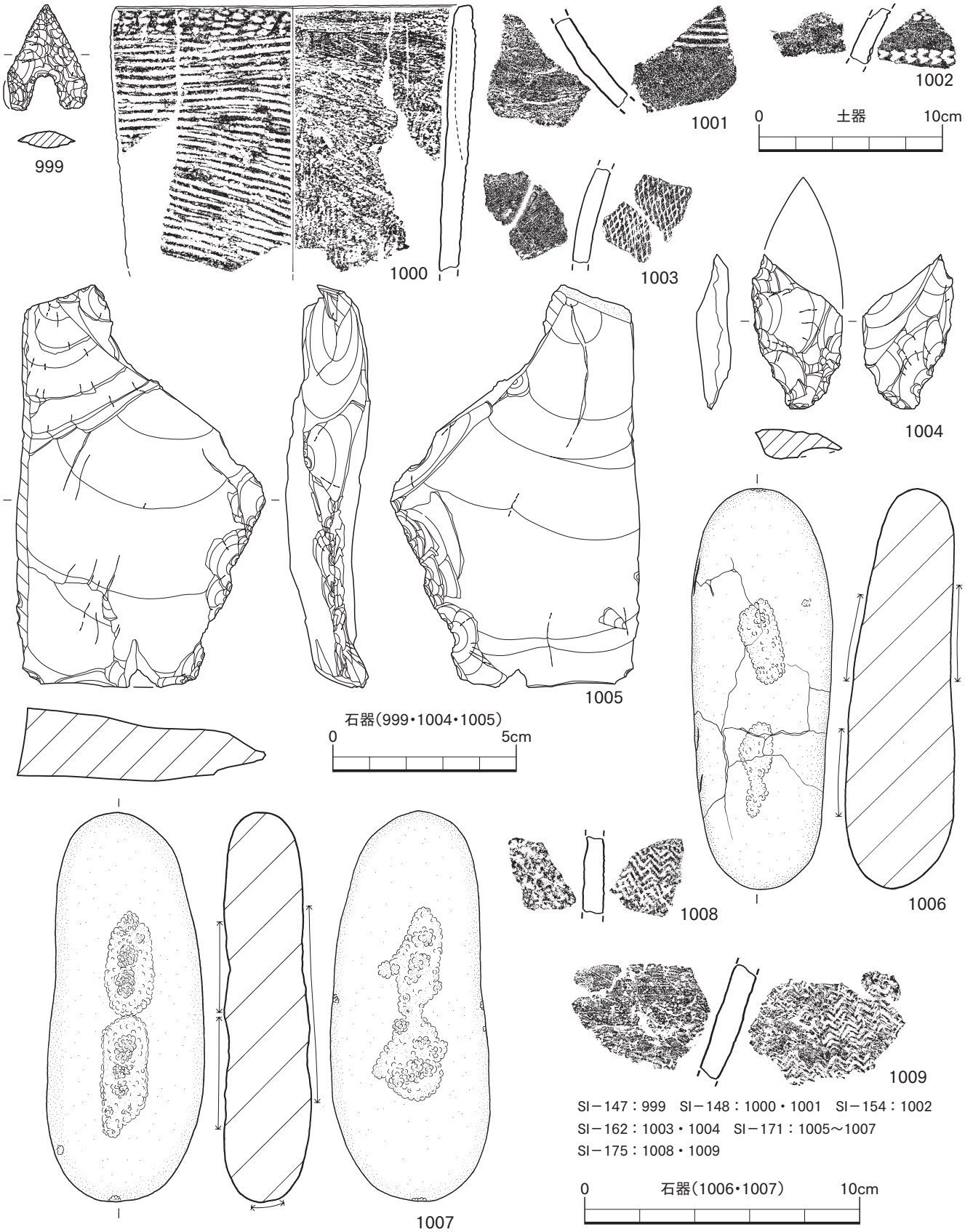
第152図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図④（S=1/3・2/3）

SC－72 は検出面での規模が 2.29m×1.65m の不整形な柄鏡状を呈し、燃焼部は西側で深さは 75cm を測る。遺構埋土からは土器片 5 点(桑ノ丸式 1：1110 、押型文 1 、縄文施文 1 、隆帯文の無文部位か 2)、剥片 13 点(頁岩 2 、チャート 9 、砂岩 2)が出土している。また炭化物は補正年代で 8470±40BP であった。

SC－97 西側を SI－96 に切られており、不明瞭だが現状の検出面での規模は 3.2m×2.56m の北西部が二股にわかれる平面プランを呈する。燃焼部は北側と西側に 1 箇所ずつ見られ、深さは北側が 84cm 、西側が 92cm を測る。遺構埋土からは土器片 30 点(前平式 1：1111 、別府原式 6 、桑ノ丸式 1 、押型文 14：1112～1117 、塞ノ神式 1：1118 、不明 7)、チャート製石鏃 1 点、剥片(頁岩 1 、チャート 10 、黒曜石 5：桑ノ木津留産 1・西北九州産 4、安山岩 2、砂岩 3、尾鈴山酸性岩 1)砂岩石核 1 点(1119)が出土している。また炭化物は補正年代で 8250±40BP であった。1113 の反転復元による口縁部径は 37.2cm を測る。1116 の反転復元による底部径は 6cm を測る。

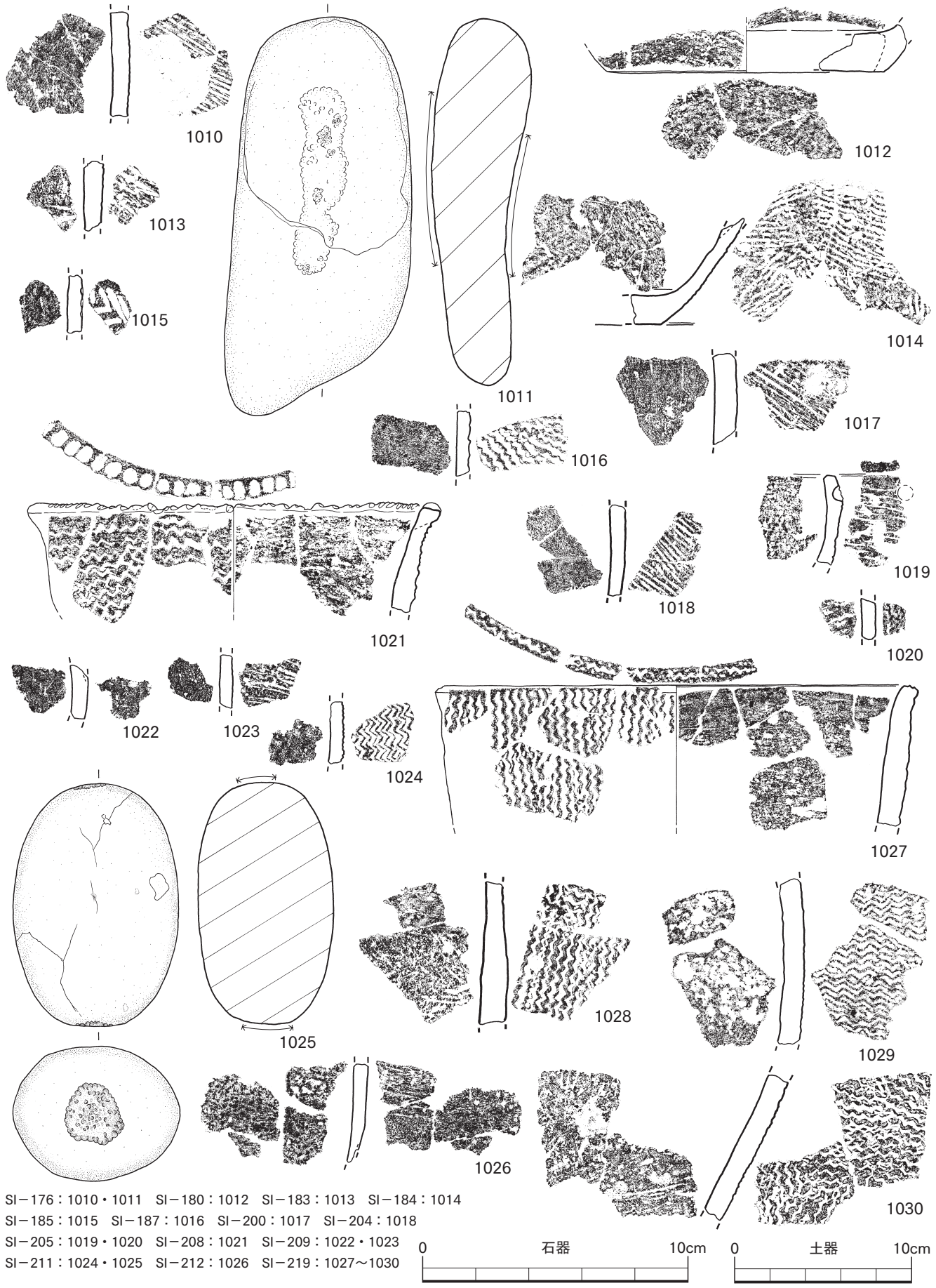
SC－119 は草創期のハイヒール状土坑である SC－123 を切っていた。検出面での規模は 2.08m×0.8m の不整楕円形プランを呈する。床面に明瞭な焼土は検出されなかったが、埋土中には焼土と炭化物が多く混入しており、本遺構も炉穴であると判断した。床面東側の最も低いところが燃焼部と考えられ、その深さは 40cm を測る。埋土からは不明 5 点(隆帯文土器の無文部位か)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点(1120)、剥片 2 点(頁岩 1 、桑ノ木津留産黒曜石 1)、砂岩製敲石 2 点が出土している。

SC－127 は南側にある土坑と切り合い関係にあったが新旧関係を把握することはできなかった。検出面での規模は 1.76m×0.83m の不整楕円形プランを呈し、燃焼部は北西側で 54cm を測る。遺構埋土からは別府原式土



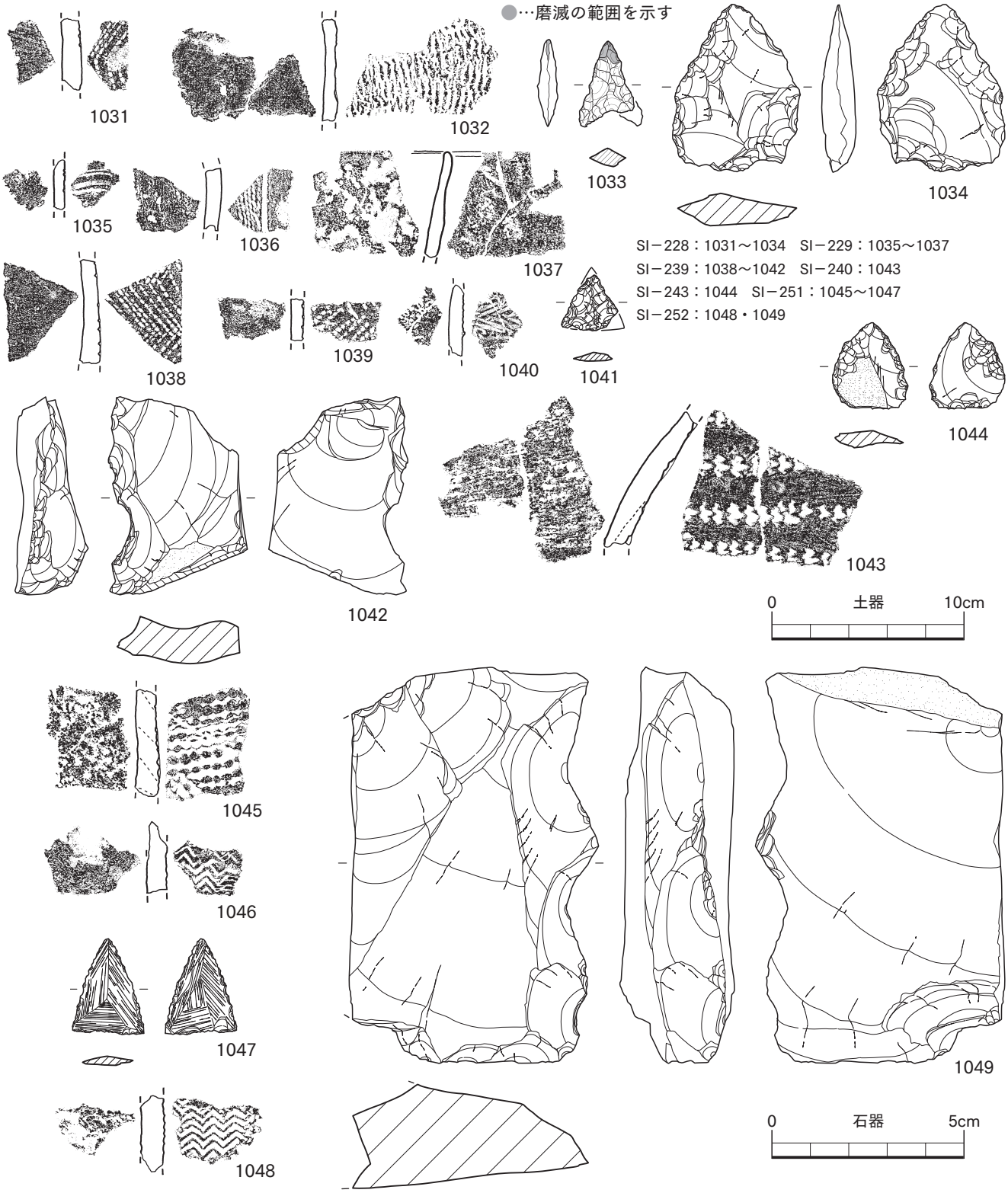
第153図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑤（S=1/3・2/3・1/2）

器片 2 点(1121)、砂岩製石鏃未製品 1 点(1122)、頁岩製スクレイパー（1123)、剥片 2 点(西北九州産 1 、砂岩 1)、頁岩製石核 1 点、砂岩製敲石 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8890±40BP であった。南側の土坑は現状の検出面での規模は 1.3m×1m で不整隅丸方形プランを呈し、検出面からの深さは 26cm を測る。



SI－176：1010・1011　SI－180：1012　SI－183：1013　SI－184：1014
SI－185：1015　SI－187：1016　SI－200：1017　SI－204：1018
SI－205：1019・1020　SI－208：1021　SI－209：1022・1023
SI－211：1024・1025　SI－212：1026　SI－219：1027～1030

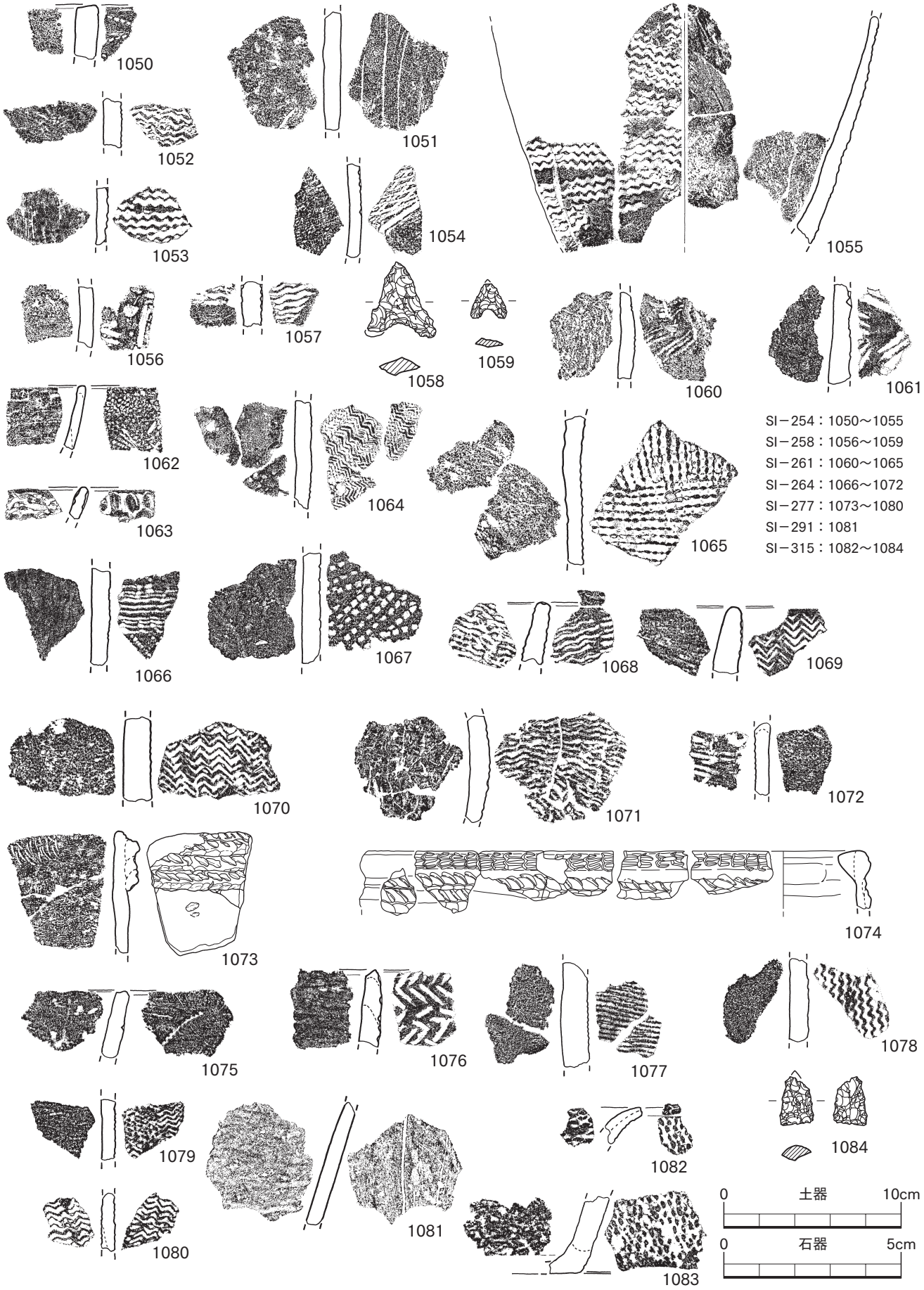
第154図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑥（S=1/3・1/2）



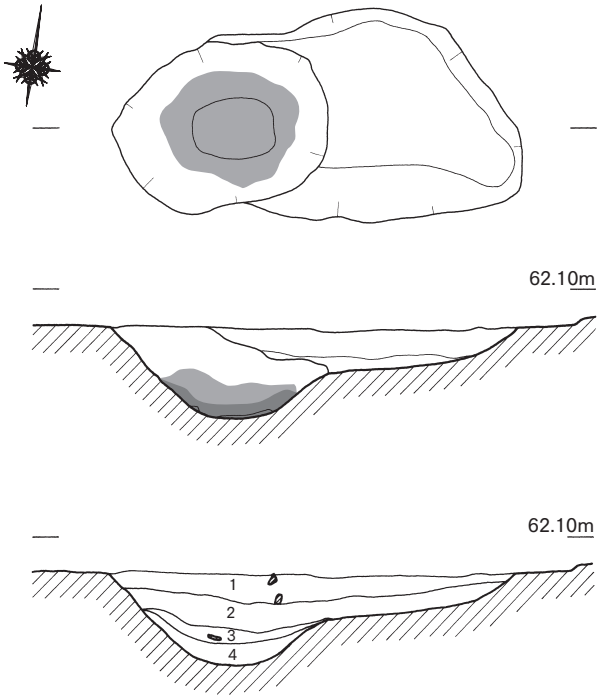
第155図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑦（S=1/3・2/3）

SC－143 は検出面での規模は 2.17m×1.16m の不整形な L 字形プランを呈し、燃焼部は西側で、その深さは 59cm を測る。遺構埋土からは土器片 4 点(別府原式 3：1124 、不明 1：隆帯文の無文部位か)が出土している。

SC－153 は検出時には一つの遺構と思われたが、遺構埋土の掘削中にハイヒール状土坑と炉穴がを切り合っていることがわかった。検出面での規模は 1.54m×1.14m の不整楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは 31cm を測る。また東側には径 55cm の掘り込みが見られた。埋土からは土器片 6 点(押型文 2：1125・1126 、

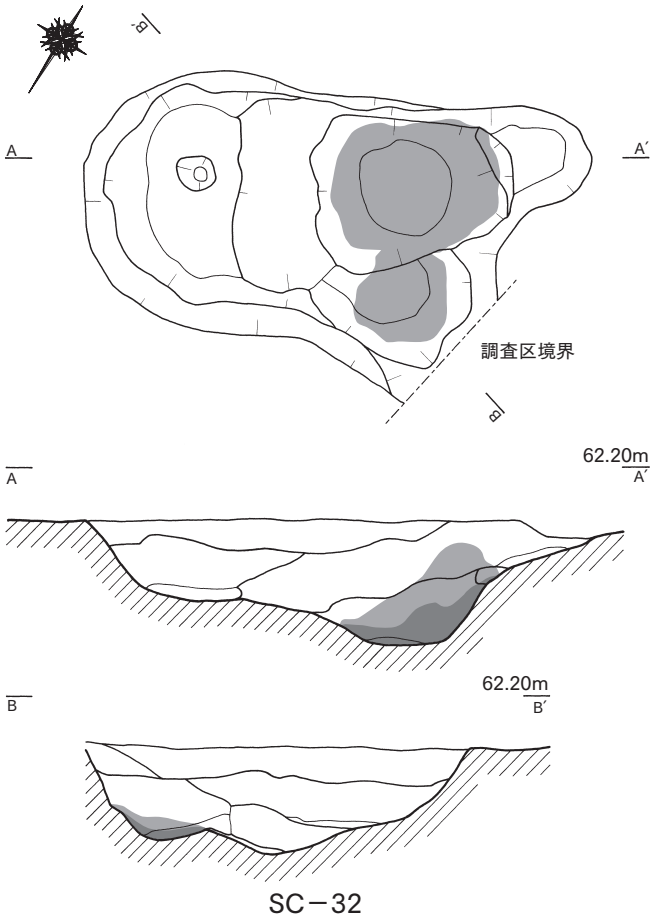


第156図　縄文早期集石遺構出土遺物実測図⑧（S=1/3・2/3）

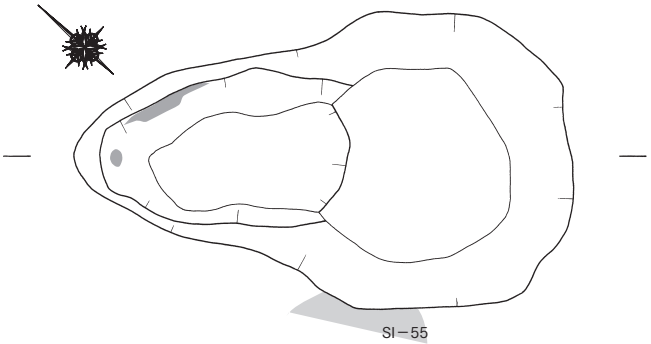


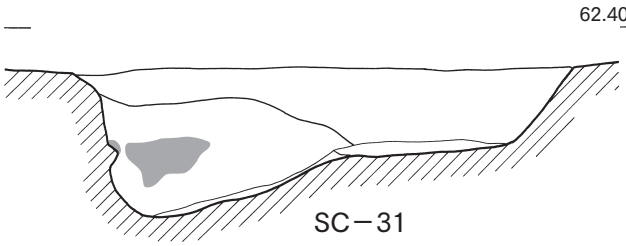
SC－28

1：黒褐色ローム層（Hue10YR2/3）礫を含む。 炭化物粒と焼土を少量含む。
2：黒褐色シルト質ローム層（Hue7.5YR3/2）礫を少量、炭化物を多く含む 。
焼土塊を含む。
3：暗赤褐色ローム層（Hue5YR3/6）礫を少量、炭化物と 焼土塊を多く含む。
4：赤褐色ローム層（Hue5YR4/6） 礫を少量、焼土塊と 炭化物を多く含む。
※1・3はやや硬質。 2・4は硬質。

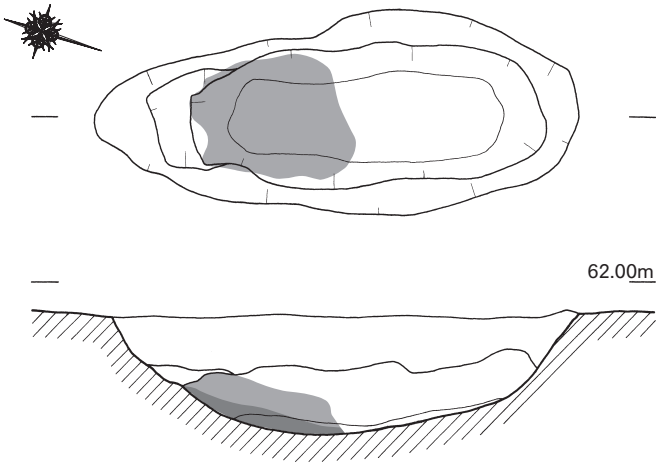


SC－32

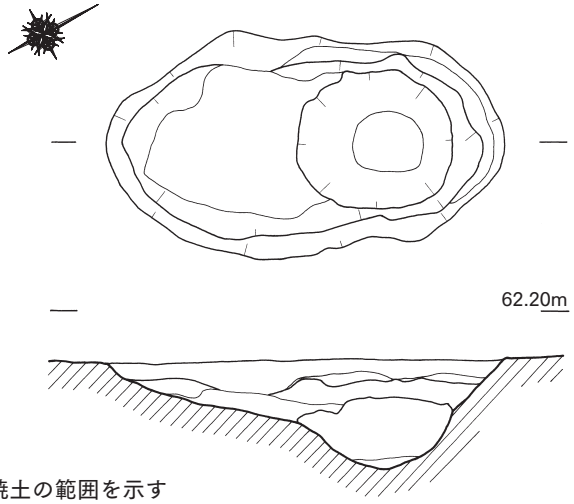




SC－31



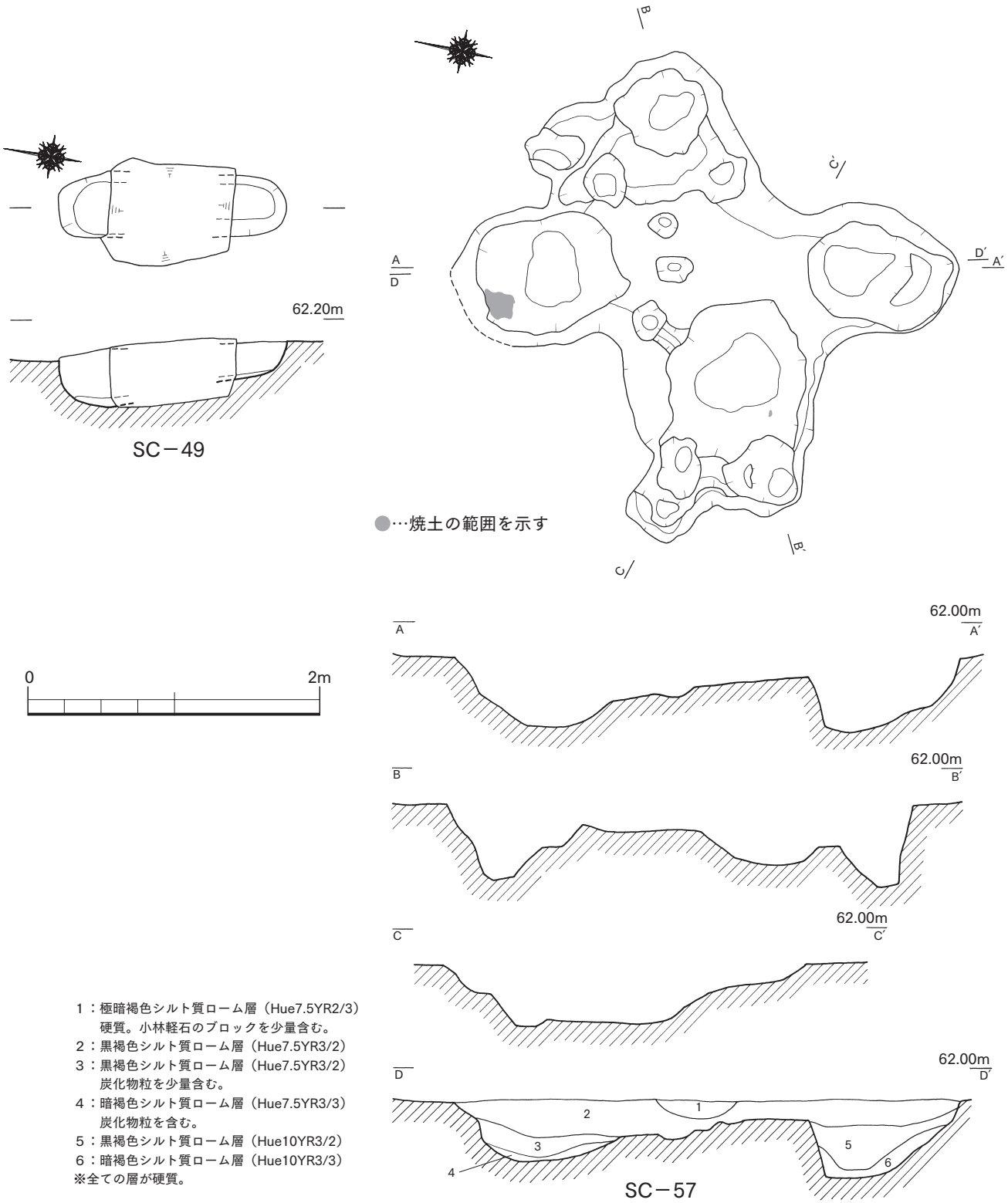
SC－40



●…焼土の範囲を示す

SC－44

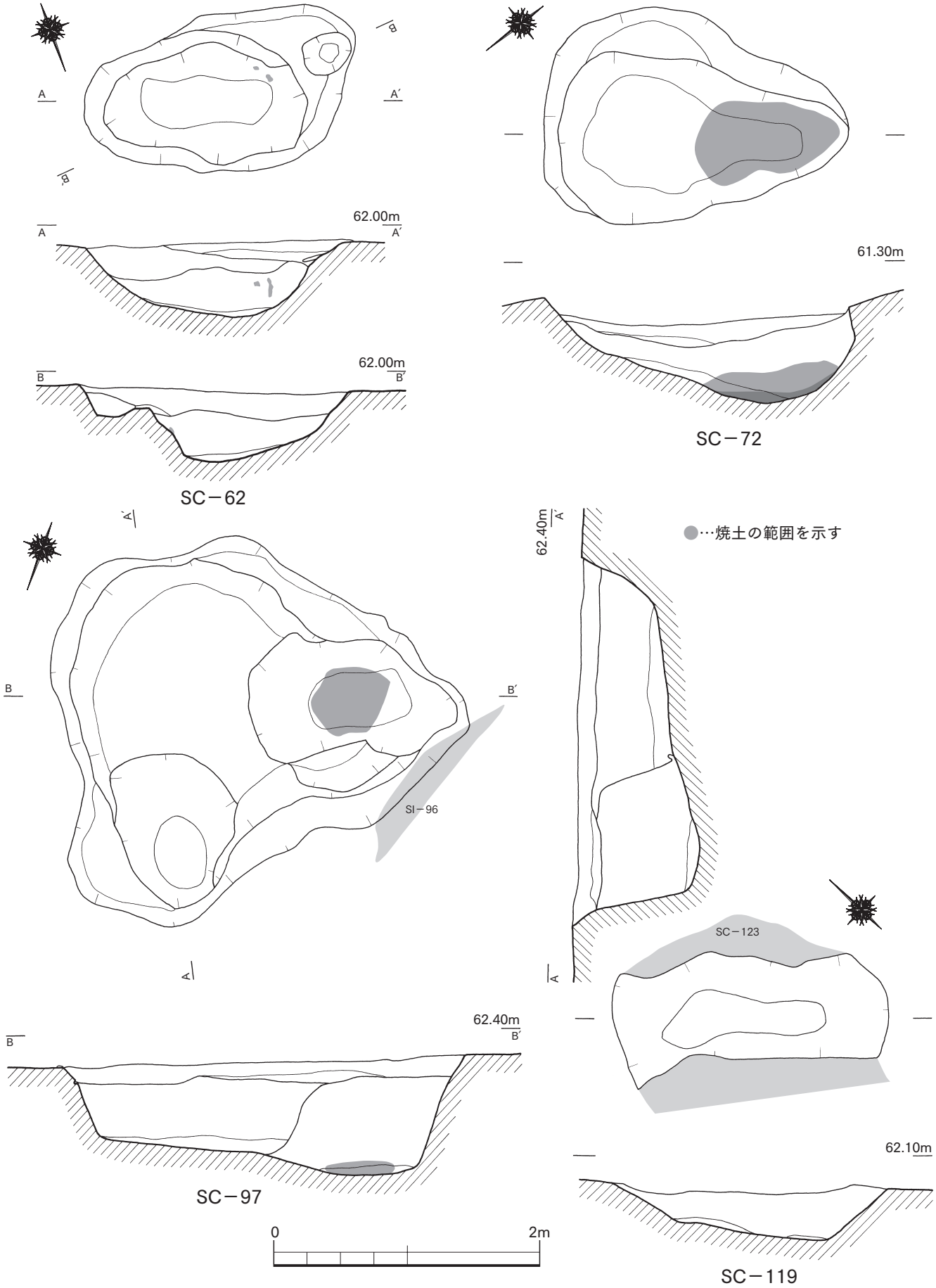
第157図　縄文早期炉穴実測図①（S=1/40）



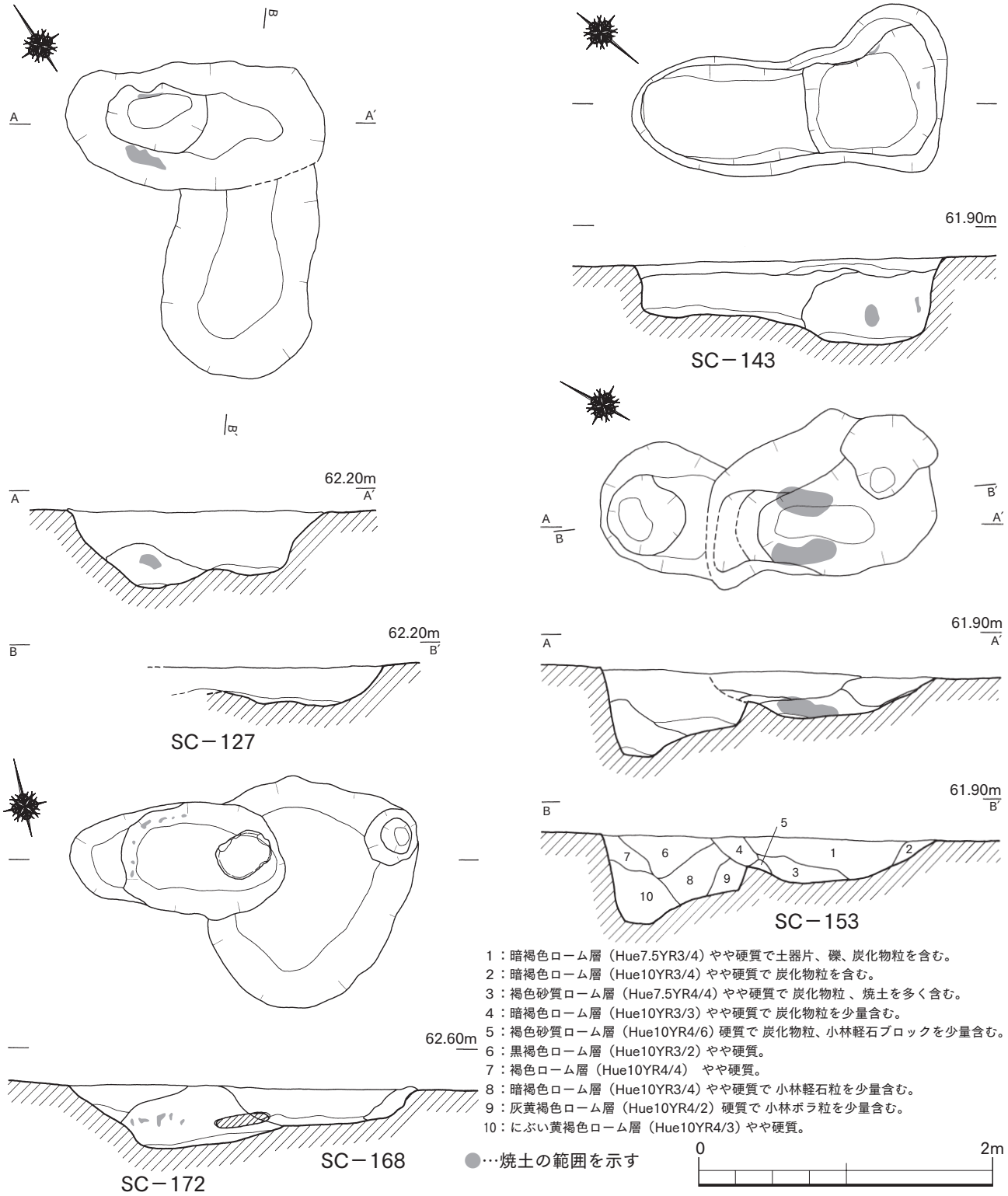
第158図　縄文早期炉穴実測図②（S=1/40）

隆帯文：2類1、不明：隆帯文の無文部位3)、石鏃2点(チャート1：1127、西北九州産1)、緑色堆積岩製石斧片1点(1128)、剥片10点(頁岩2、チャート5、桑ノ木津留産黒曜石1、砂岩1、ホルンフェルス1)、チャート製石核1点、砂岩製敲石1点が出土している。また炭化物は補正年代で8390±40BPであった。西側のハイヒール状土坑は現状で1.12m×0.7mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは12cmを測る。床面の北西側に1箇所掘り込みが見られる。

SC－172は東側のSC－168を切っていた。検出面での規模は1.46m×0.76mの不整楕円形プランを呈し、燃



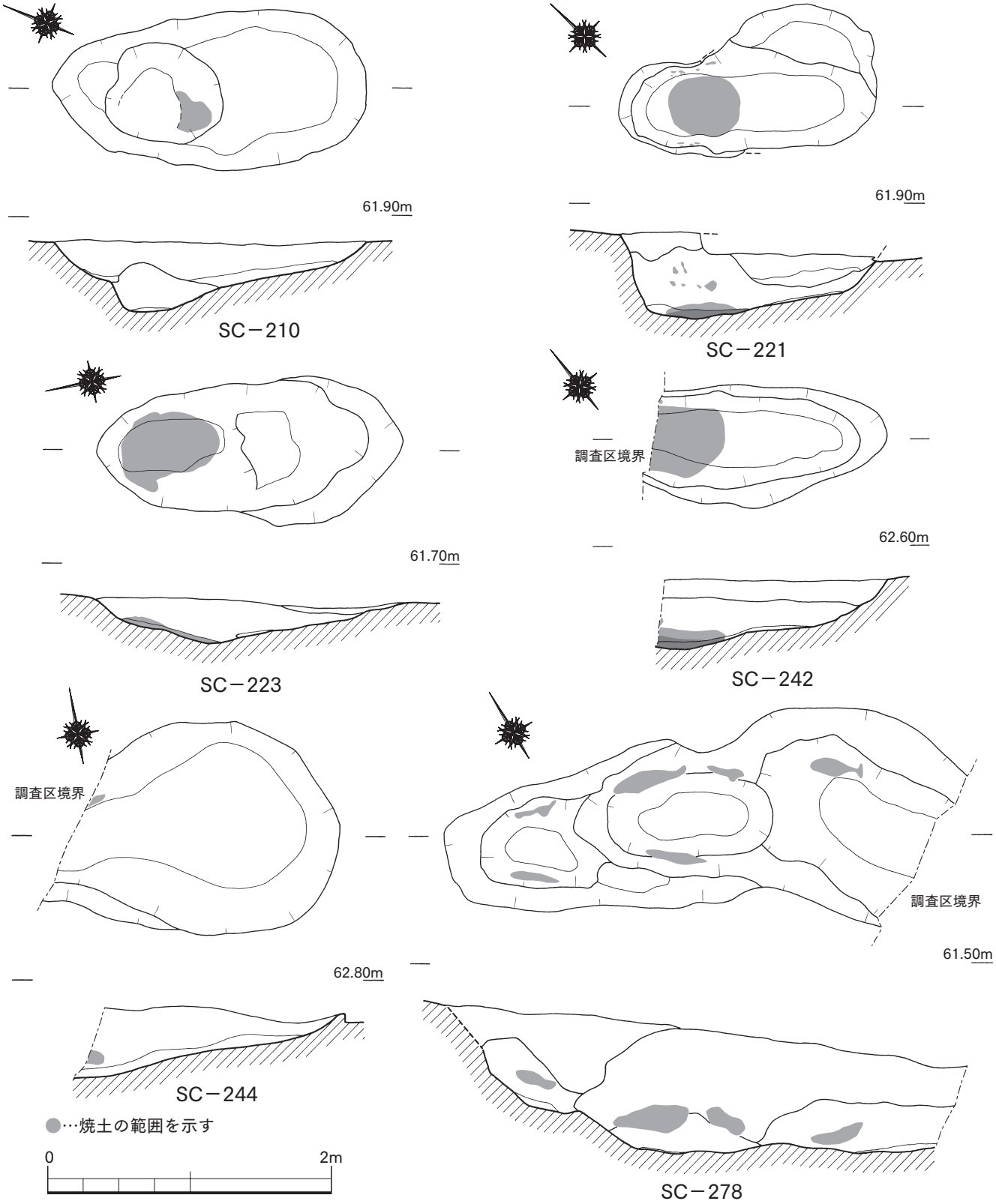
第159図　縄文早期炉穴実測図③（S=1/40）



第160図　縄文早期炉穴実測図④（S=1/40）

焼部は西側で深さは 42cm を測る。床面東側の足場には砂岩製の石皿が出土している。その他に遺構埋土からは土器片 2 点(内面にミガキ 1 、不明 1:隆帯文の無文部位か)、剥片 3 点(頁岩 1 、桑ノ木津留産黒曜石 1 、砂岩 1)が出土している。また炭化物は補正年代で 8370±30BP であった。

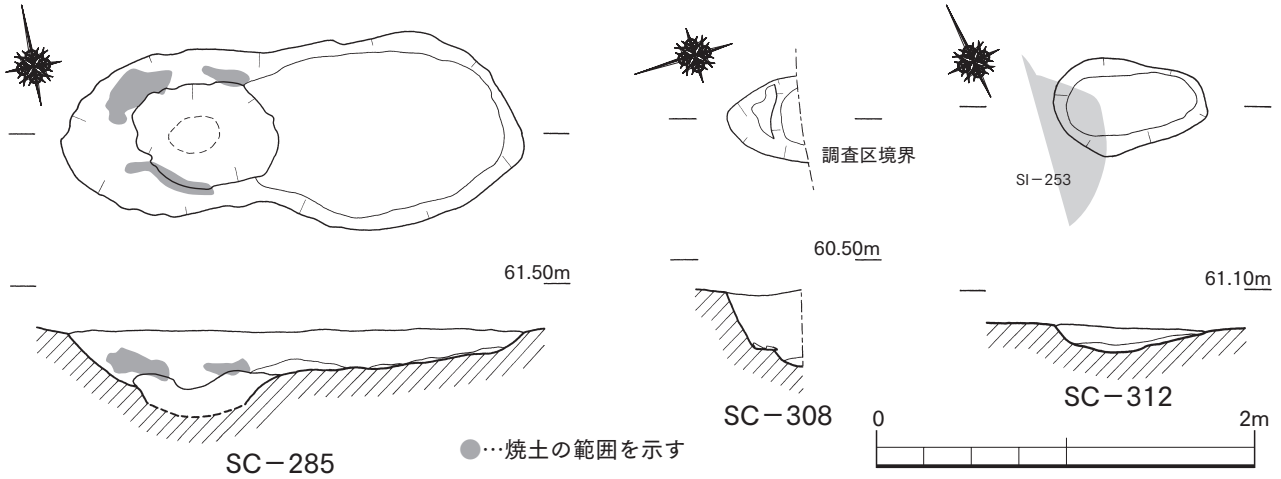
SC－210 は検出面での規模は 2.20m×1.12m の不整楕円形プランを呈し、燃焼部は北西側で深さは 49cm を測り、その北西側にテラスがある。遺構埋土からは土器片 6 点(前平式 1：1131 、押型文 2：1129・1130 、隆帯文 2 類 1 、不明 2)、砂岩製剥片 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8390±30BP であった。



第161図　縄文早期炉穴実測図⑤（S=1/40）

SC－221 は検出面での規模は 1.82m×1m の不整形な柄鏡形を呈し、燃焼部は南西側で深さは 55cm を測る。東側にテラスがある。遺構埋土からは土器片 3 点(押型文 2：1132・1133 、不明 1)、砂岩製剥片 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8290±50BP であった。

SC－223 は検出面での規模は 2.16m×1.04m の不整楕円形プランを呈し､燃焼部は北側で深さは 30cm を測る。遺構埋土からは桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点(1134)、剥片 5 点(頁岩 2 、チャート 2 、桑ノ木津留産黒曜石 1)



第162図　縄文早期炉穴実測図⑥（S=1/40）

が出土している。また炭化物は補正年代で 8330±40BP であった。

SC－242 西側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は 1.65m 以上 ×0.86m の不整長楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは 50cm を測る。遺構埋土からは土器片 7 点(別府原式 1 、無文土器 5 、不明 1)、チャート製石鏃 1 点(1135)が出土している。また炭化物は補正年代で 8930±30BP であった。

SC－244 は西側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は 1.85m 以上 ×1.49m の不整形な柄鏡形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは 48cm 以上を測る。遺構埋土からは土器片 28 点(下剥峯式 2：1136 、辻タイプ 2:1137•1138 、押型文 4:1139•1140 、縄文施文 2 、外面ミガキ 11 、内外面ミガキ 2 、不明 5)、チャート製石鏃 1 点(1141)、剥片 70 点(頁岩 2 、チャート 40 、西北九州産黒曜石 25 、安山岩 2 、砂岩 1)、砂岩製敲石 1 点(1142)が出土している。また炭化物は補正年代で 8410±30BP であった。

SC－278 は東側が調査区外に伸びており不明瞭だが、現状の検出面での規模は 3.42m 以上 ×1.52m の不整形なプランを呈する。本遺構は調査区東側の斜面を登るように燃焼部を西方向に 3 か所以上拡張するように設定しており、最深のもので 87cm を測る。遺構埋土からは土器片 34 点(別府原式 1 、桑ノ丸式 2：1143・1144 、押型文 3：1145 、隆帯文：2 類 1・無文部位 23 、不明 4)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 4（1147 ～ 1149)、剥片 31 点(頁岩 7 、チャート 20 、鹿児島県産黒曜石 1 、安山岩 1 、砂岩 2)、頁岩製石核 1 点、砂岩製敲石 1 点(1150)、砂岩製磨石 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8350±40BP であった。

SC－285 は検出面での規模は 2.44m×1.02m の不整長楕円形プランを呈し、燃焼部は西側で深さは 44cm を測る。遺構埋土からは土器片 4 点(押型文 2：1153 、縄文施文 1：1152 、内外面条痕文 1：1151)、頁岩製剥片 1 点が出土している。また炭化物は補正年代で 8410±40BP であった。

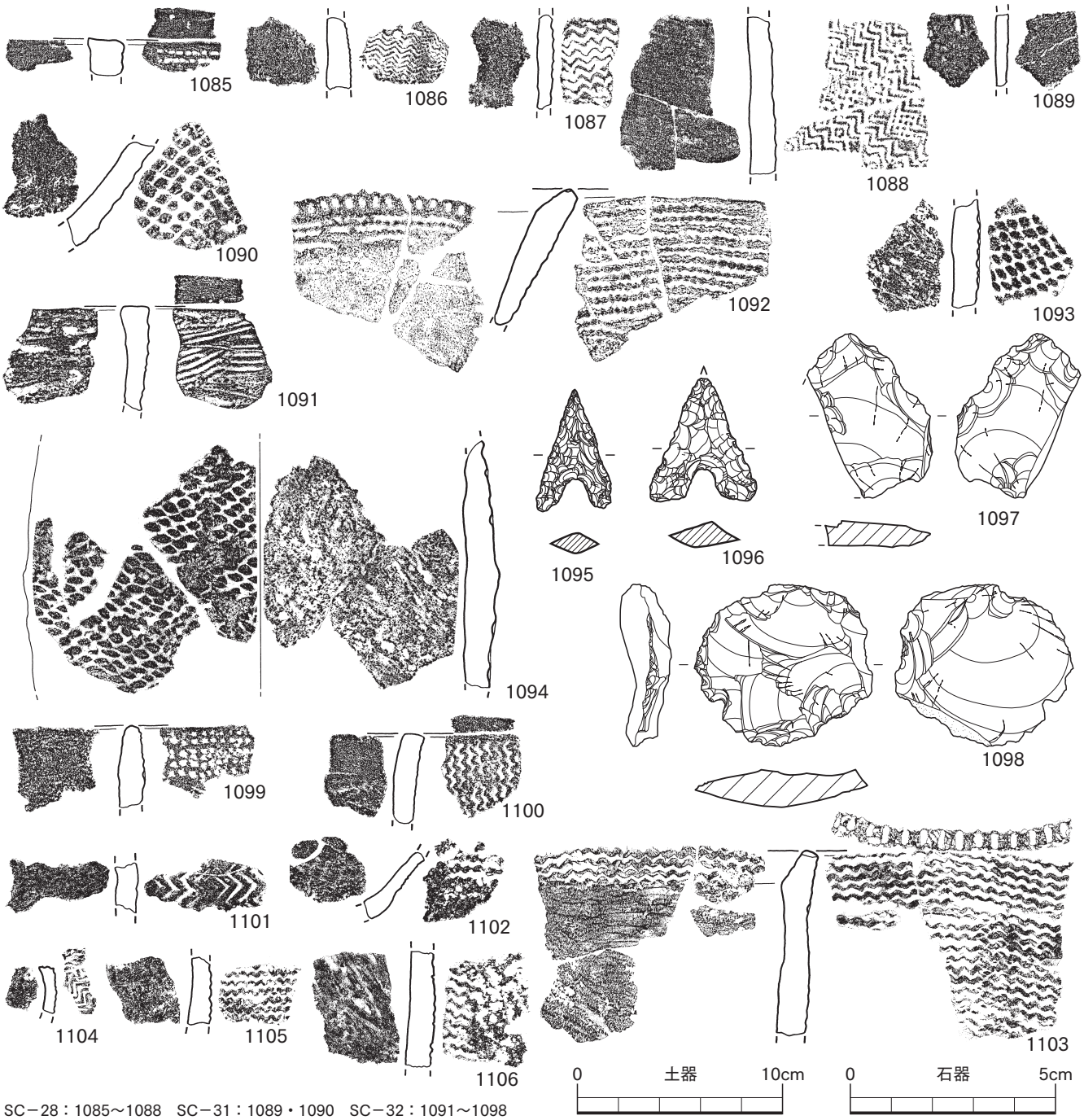
SC－308 は南側大半が調査区外に伸びており、全貌がほとんどわからない。炉穴の燃焼部の一部と考えられ、現状の検出面での規模は 0.39m 以上 ×0.46m 以上であり、深さは 40cm 以上を測る。遺構埋土からは不明土器片 1 点、チャート製剥片 5 点が出土している。

SC－312 は SI－253 に切られていた。SC－278 とは直接連なっておらず、床面に明瞭な焼土が見られなかったものの、その西側に隣接して遺構埋土中には焼土と炭化物が多く混入していたため、SC－278 の燃焼部の一部であった可能性が考えられる。現状の検出面での規模は 0.82m×0.52m の不整楕円プランを呈し、深さは 13cm を測る。埋土からは不明土器片 1 点が出土している。

３．陥し穴状遺構（第 166 図・167 図）

陥し穴状遺構は炉穴と同じように基本土層Ⅵ層下部からⅧ層上部にかけて 4 基検出されている。比較的大規模で平面プランは楕円形を呈し、床面に逆茂木痕と考えられる小穴が確認されるものである。これらの平面分布上の規則性などは見られなかった。以下に個別の所見について報告する。

SC－16 は検出面での規模が 2.58m×0.98m の不整長楕円形プランを呈し、深さは 96cm を測る。床面には逆茂木痕と考えられる小穴が 4 基検出されている。遺構埋土からは隆帯文土器を含む土器片 6 点が出土しており、草創期の遺構の可能性も考えられるが、検出層位がⅥ層下部であることからここで報告を行った。1154 は隆帯



SC－28：1085～1088　SC－31：1089・1090　SC－32：1091～1098
SC－40：1099～1101　SC－44：1102　SC－57：1103～1106

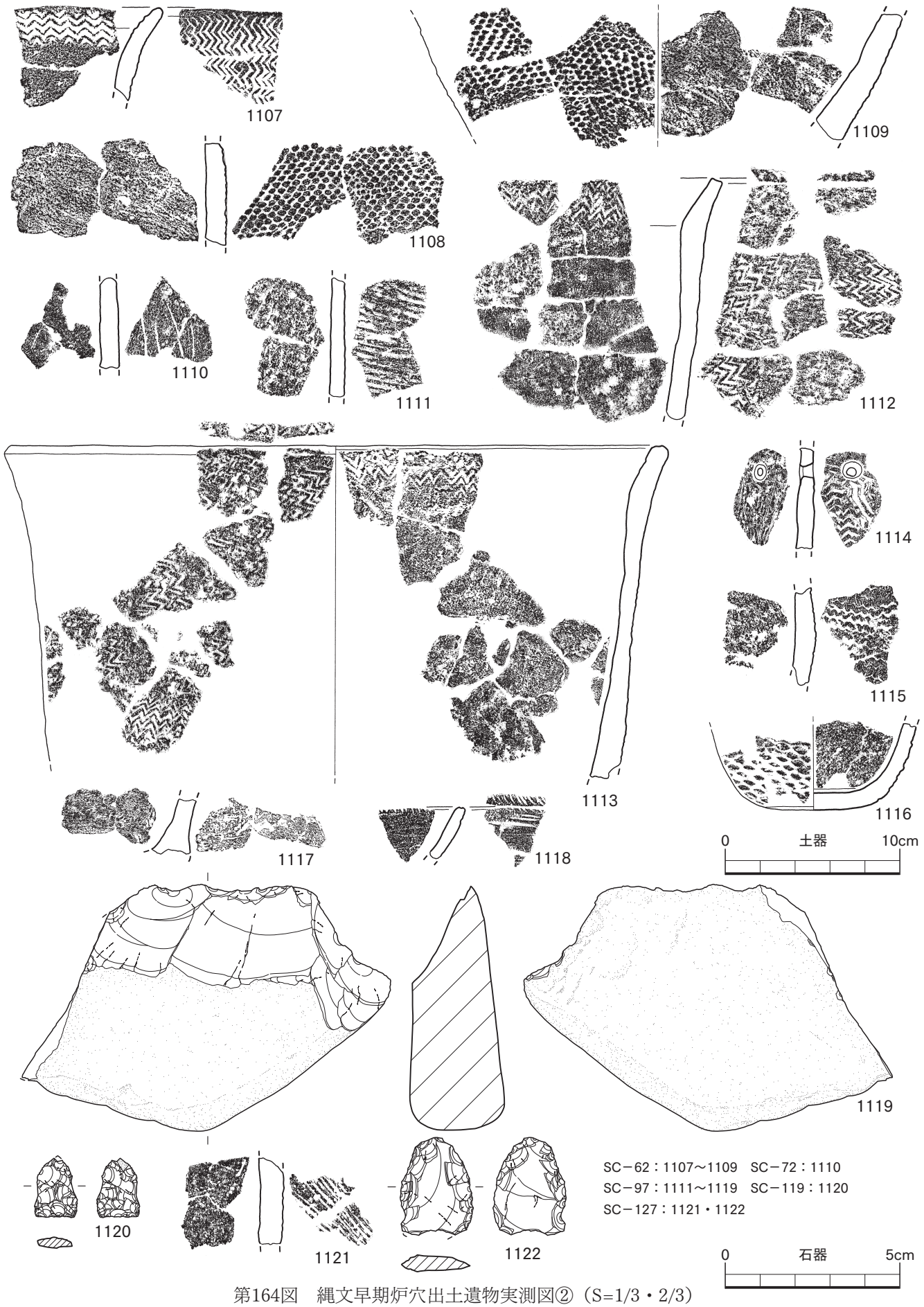
第163図　縄文早期炉穴出土遺物実測図①（S=1/3・2/3）

文土器 3 類の口縁部片で、隆帯上には文様を施していないものである。

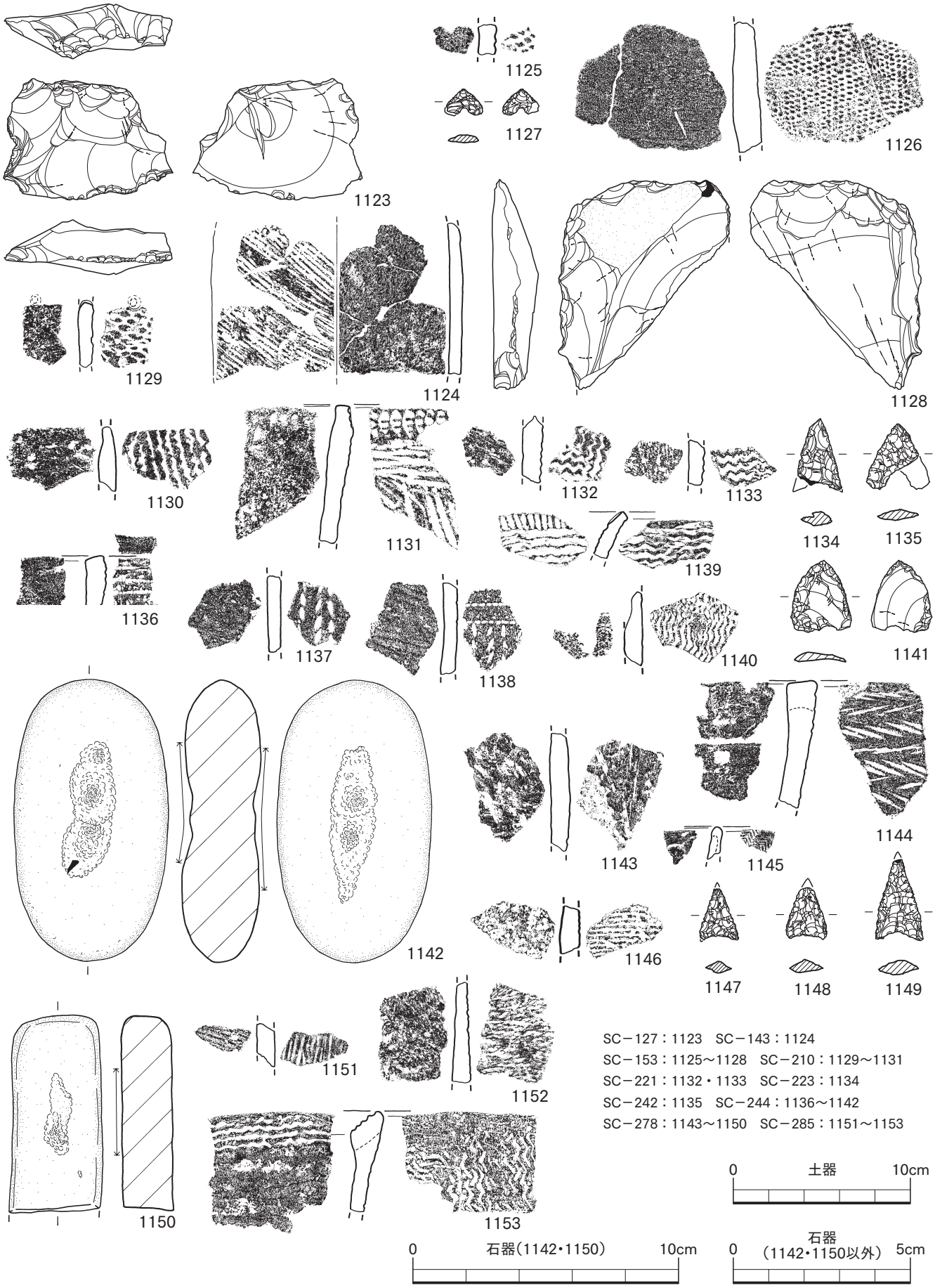
SC－159 は北側を SI－117 に切られており不明瞭だが、現状の検出面での規模は 1.77m 以上 ×1.15m の不整楕円形プランを呈し、深さは 95cm を測る。床面には逆茂木痕と考えられる小穴が 4 基検出されている。遺構埋土からは土器片 4 点(塞ノ神式 1 、底部片 1：1155 、不明 2)、砂岩製敲石 1 点、桑ノ木津留産黒曜石製剥片 1 点が出土している。1155 は円筒形土器の底部片で、おそらく前平式であろう。

SC－201 は検出面での規模が 2.33m×1.11m の不整長楕円形プランを呈し、深さは 87cm を測る。西側にテラス状に一段平坦な箇所があり、床面東側には逆茂木痕と考えられる小穴が 1 基検出されている。

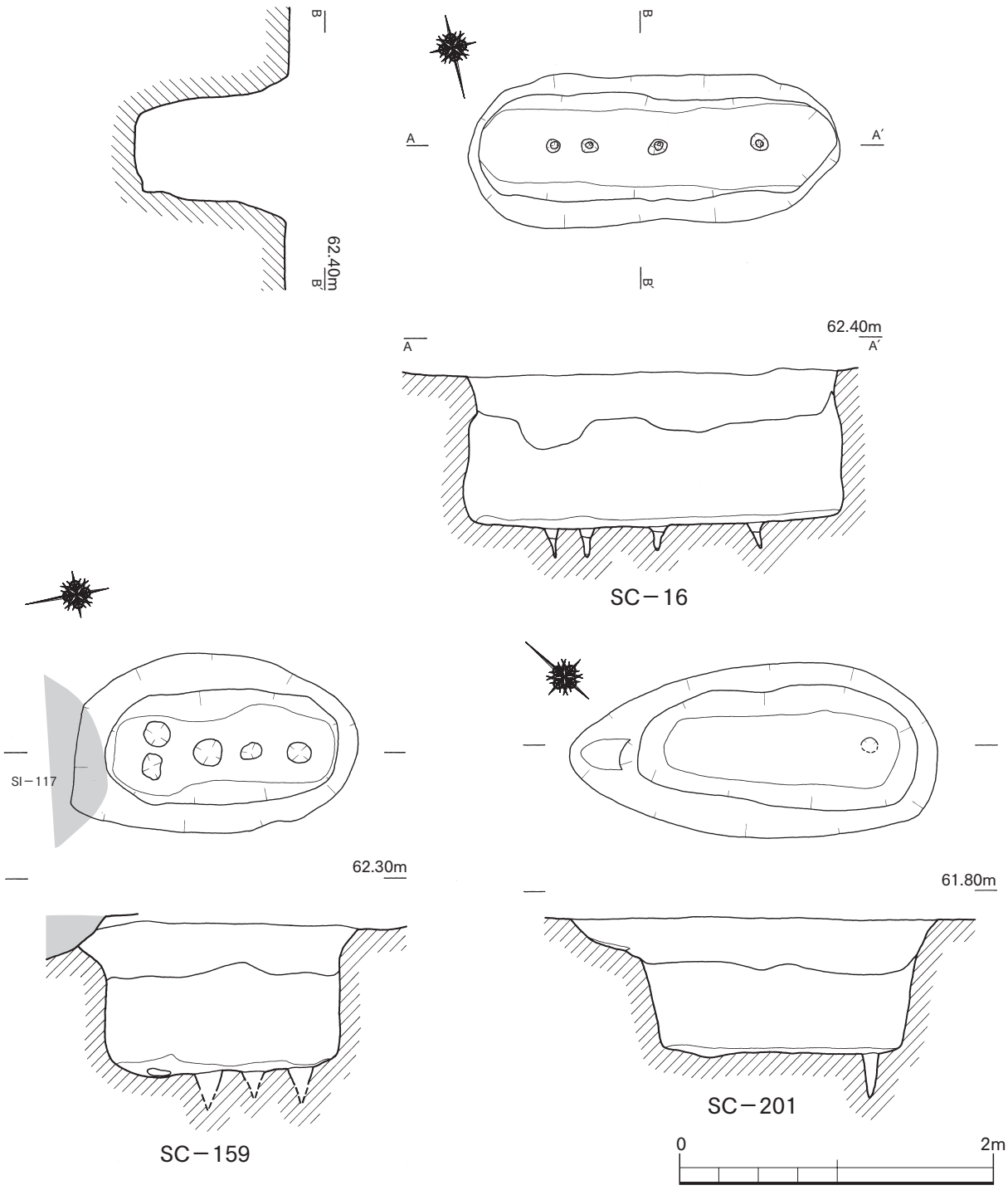
SC－216 は検出面での規模が 2.21m×1.45m の不整楕円形プランを呈し、深さは 137cm を測る。床面には逆茂木痕と考えられる小穴が 4 基検出されている。遺構埋土から土器片 6 点(岩本式 1：1156 、前平式 2：1157 、不明 3)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃 1 点(1158)、砂岩製敲石 1 点、剥片 10 点(頁岩 4 、黒曜石 5:桑ノ木津留産 4・



第164図　縄文早期炉穴出土遺物実測図②（S=1/3・2/3）



第165図　縄文早期炉穴出土遺物実測図③（S=1/3・2/3・1/2）



第166図　縄文早期陥し穴状遺構実測図①（S=1/40）

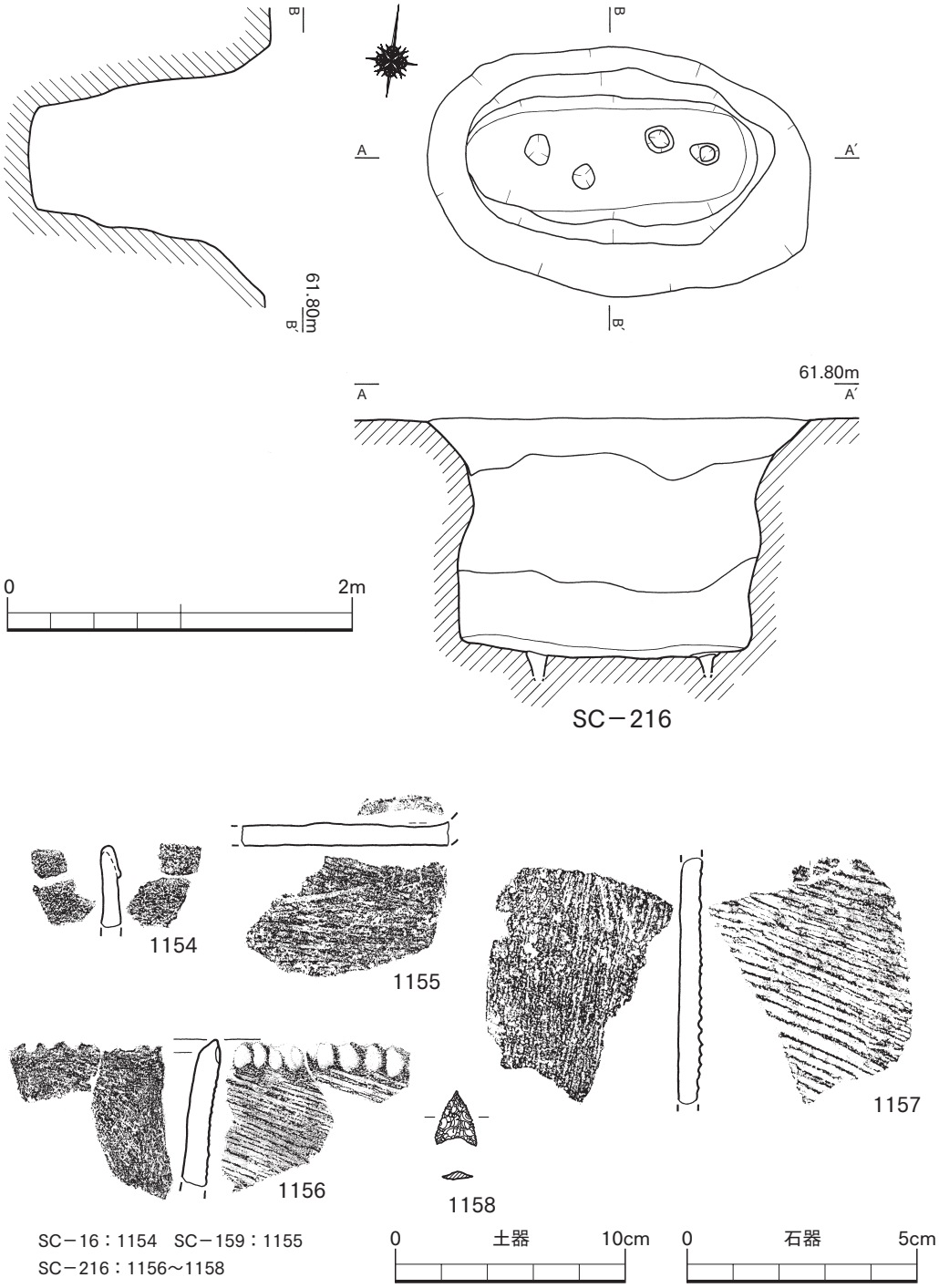
西北九州産１、砂岩 1)が出土している。

４．ハイヒール状土坑

ハイヒール状土坑は前章でも報告した通り、床面に柱穴状の掘り込みを１基から数基持つものである。基本土層Ⅷ層中にて検出されており、集石遺構や炉穴に切られているものもある。草創期に該当するものが多かったが、本項で報告するものは埋土から縄文早期の遺物が出土したものである。以下に個別の所見について報告する。

SC－139 は検出面での規模が 1.38m×1.12m の不整楕円形プランを呈し、床面の深さは 14cm を測る。床面の南側端部に１箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは条痕文土器２類片１点(1159)、桑ノ木津留産黒曜石製剥片１点が出土している。

SC－149 は検出面での規模が 1.12m×0.7m の不整楕円形プランを呈し、床面の深さは 20cm を測る。床面の



第167図　縄文早期陥し穴状遺構実測図②（S=1/40）及び出土遺物実測図（S=1/3・2/3）

南側端部に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片2点（押型文1：1160、不明1)が出土している。

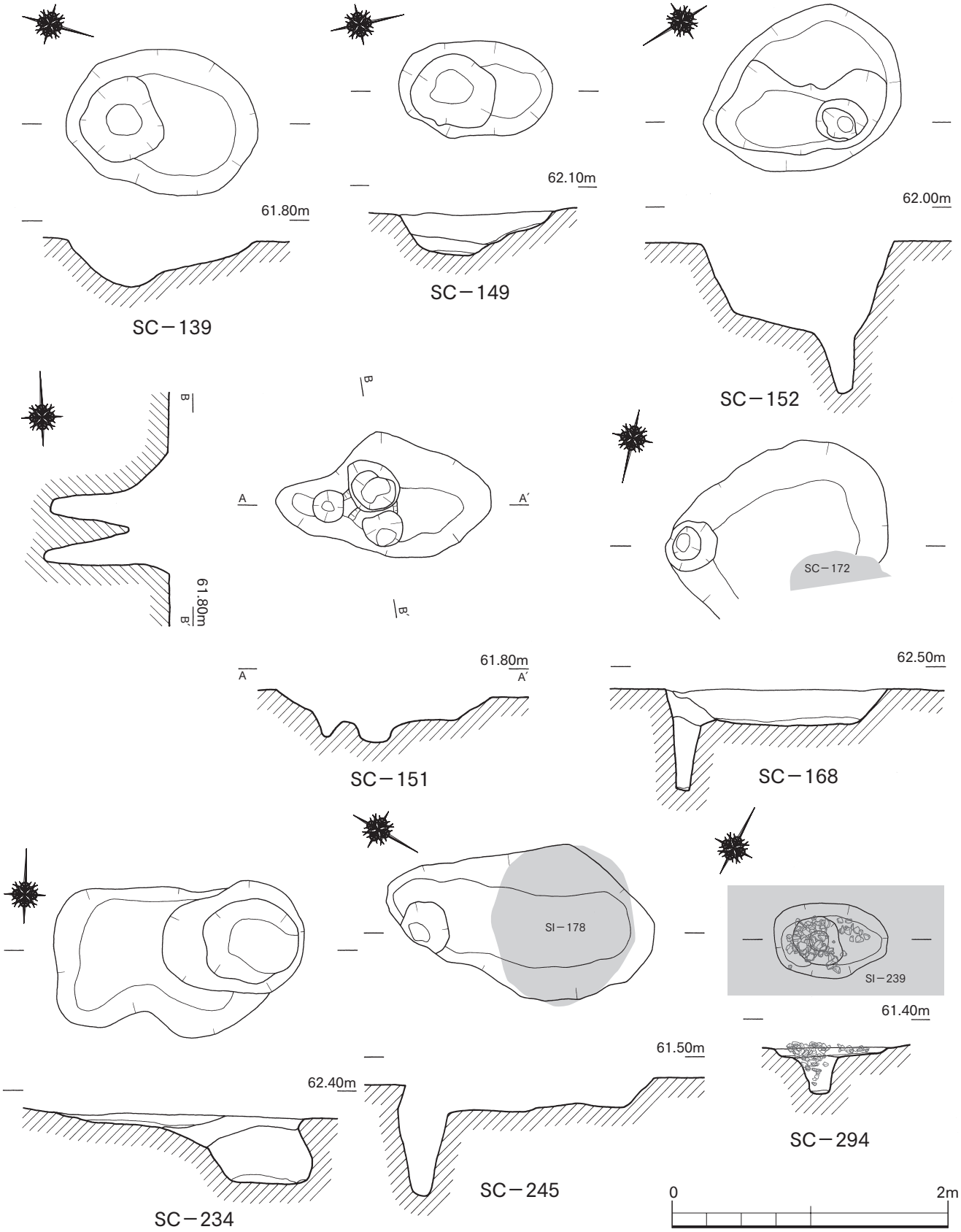
SC－151は検出面での規模が1.56m×0.9mの不整形な柄鏡形のプランを呈し、床面の深さは20cmを測る。床面の中央から東側に3箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは押型文土器片1点（1161)、姫島産黒曜石製剥片1点が出土している。1161の反転復元による口縁部径は22.8cmを測る。

SC－152は検出面での規模が1.5m×1.12mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは60cmを測る。床面の東側に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片56点(押型文2：1162・1163、撚糸文1：1164、爪形文1類2：1165、隆帯文4類3：1166、不明49：隆帯文の無文部位を含む)、桑ノ木津留産黒曜石製石鏃未製品1点（1167)、剥片7点(黒曜石4：桑ノ木津留産3・鹿児島県産1、砂岩2、ホルンフェルス1)、砂岩製磨石が出土している。1162と1163の反転復元による口縁部径は1162が30.2cm、1163が16cmを測る。

SC－168はSC－172に北側を切られており不明瞭だが、現状の検出面での規模は1.64m×1.5mの不整楕円形プランを呈し、床面の深さは26cmを測る。床面の東側端部に1箇所掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片3点(下剥峯式1、桑ノ丸式2、押型文1)、剥片12点(頁岩3、チャート5、黒曜石2：桑ノ木津留産1・西北九州産1、安山岩1、砂岩1)が出土している。

SC－234は検出面での規模が1.8m×1.1mの不整隅丸方形プランを呈し、床面の深さは9cmを測る。床面の東側に1箇所の掘り込みが見られる。遺構埋土からは土器片6点(押型文1：1169、無文土器1：1168、隆帯文の無文部位1：1170、不明：隆帯文の無文部位を含むか)、チャート製石鏃1点(1171)、剥片7点(チャート5、砂岩2)が出土している。

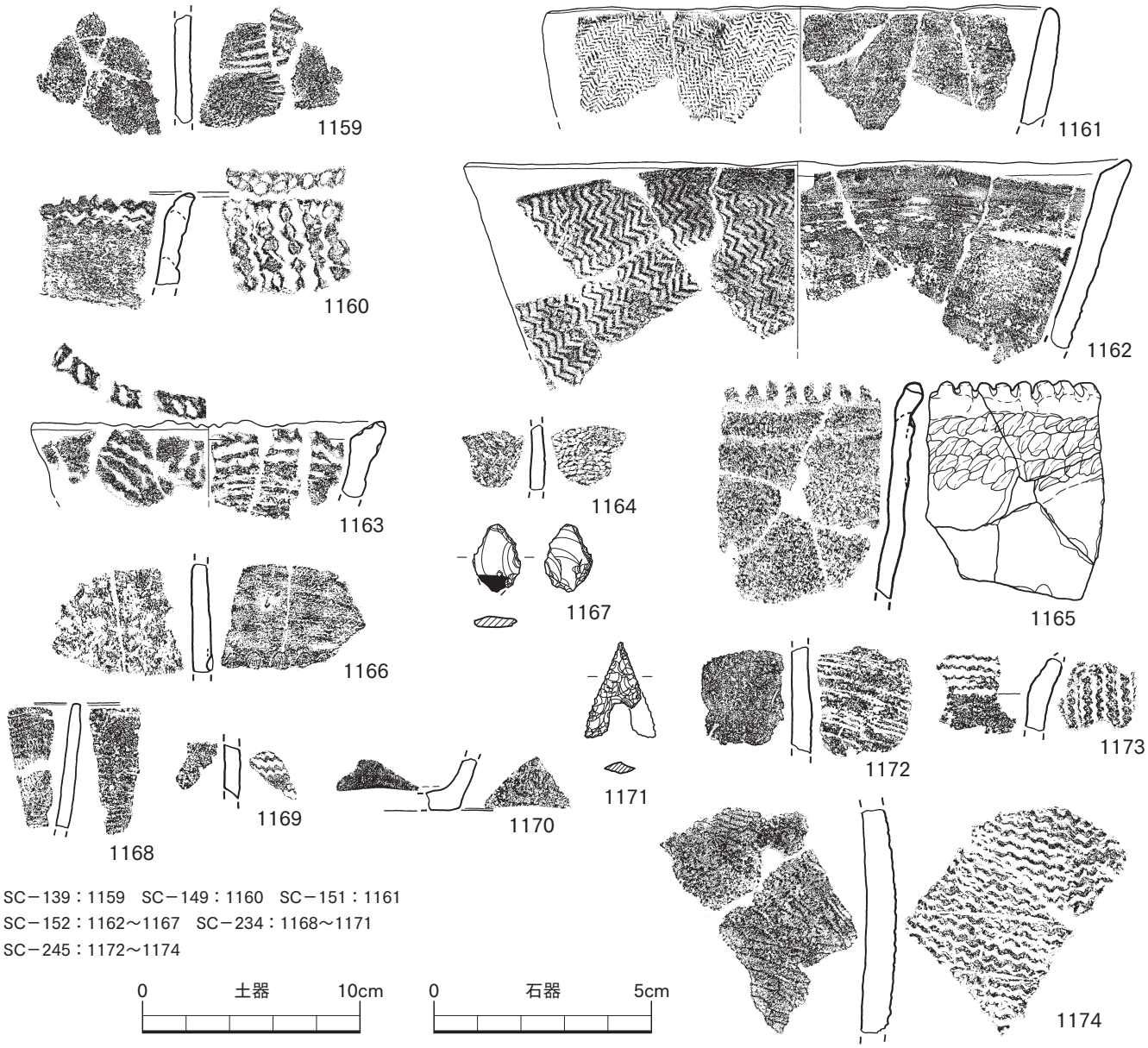
SC－245はSI－178に中央から北側切られており不明瞭だが、検出面での規模は1.96m×1.14mの不整長楕円



第168図　縄文早期ハイヒール状土坑実測図（S=1/40）

形プランを呈し、床面の深さは 20cm を測る。床面の南側端部に 1 箇所が見られる。遺構埋土からは土器片 3 点（別府原式 1：1172 、押型文 2：1173・1174）が出土している。

SC－294 は SI－239 の掘り込みの床面で検出された。検出面での規模は 0.82m×0.55m の不整楕円形プランを



第169図　縄文早期ハイヒール状土坑出土遺物実測図（S=1/3・2/3）

呈し、床面の深さは 6cm を測り、東側に 1 箇所掘り込みが見られる。礫を多く含んでおり、SI－239 の下部構造の可能性もある。遺構埋土からは押型文土器片 1 点、剥片 2 点(頁岩 1 、チャート 1)が出土している。

5．土坑

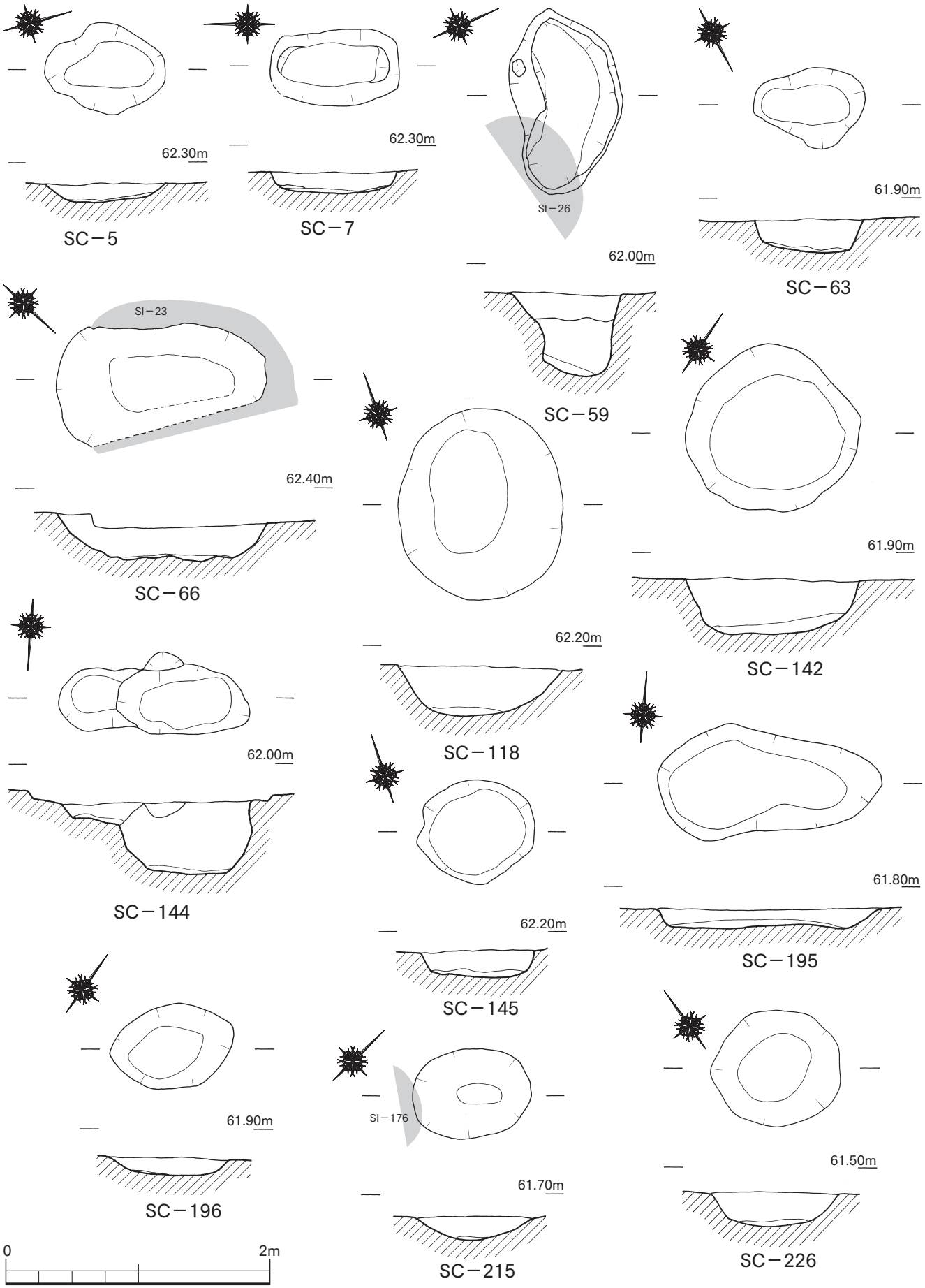
形態や規模に特定の特徴はなく、その性格が不明瞭なものをまとめた。土坑は全部で 22 基見つかっており、調査区中央付近により多く分布している。SC－7 は基本土層Ⅵ層上部で SC－290 はⅧ層下部で検出されており、その他は炉穴などと同じようにⅥ層下部からⅧ層上部で検出されている。以下に個別の所見について報告する。

SC－5 は検出面での規模が 0.91m×0.7m の不整楕円形プランを呈し、深さは 14cm を測る。遺構埋土からは別府原式土器片 2 点が出土している。

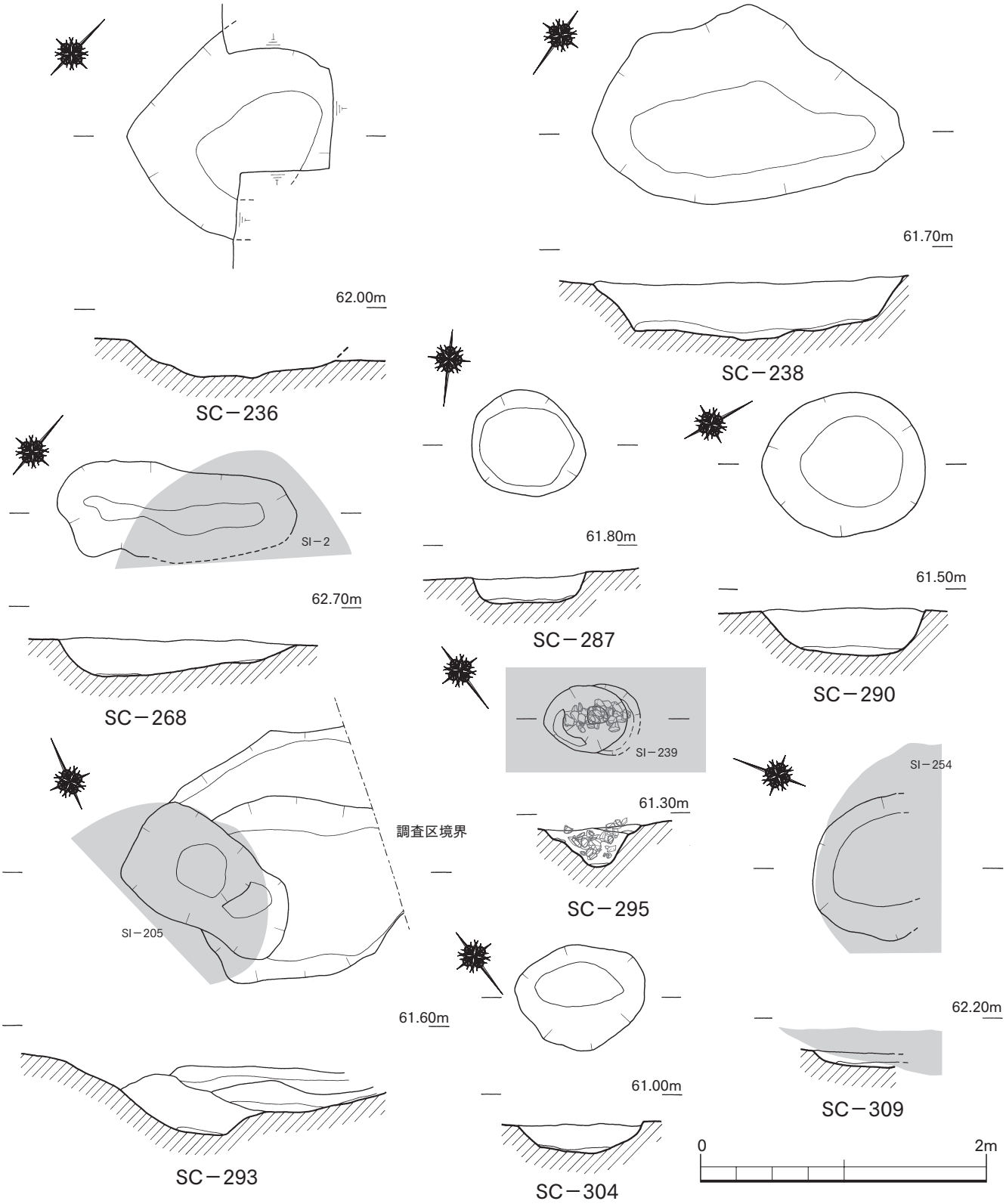
SC－7 は検出面での規模が 0.97m×0.58m の不整隅丸方形プランを呈し、深さは 16cm を測る。遺構埋土からはチャート製剥片 1 点、砂岩製敲石 1 点が出土している。

SC－59 は SI－26 に切られている。検出面での規模は 1.4m×0.82m の不整楕円形プランを呈し、深さは 62cm を測る。遺構埋土からは押型文土器片 1 点(1175)が出土している。

SC－63 は検出面での規模が 0.84m×0.62m の不整楕円形プランを呈し、深さは 25cm を測る。遺構埋土からは砂岩製剥片 1 点が出土している。



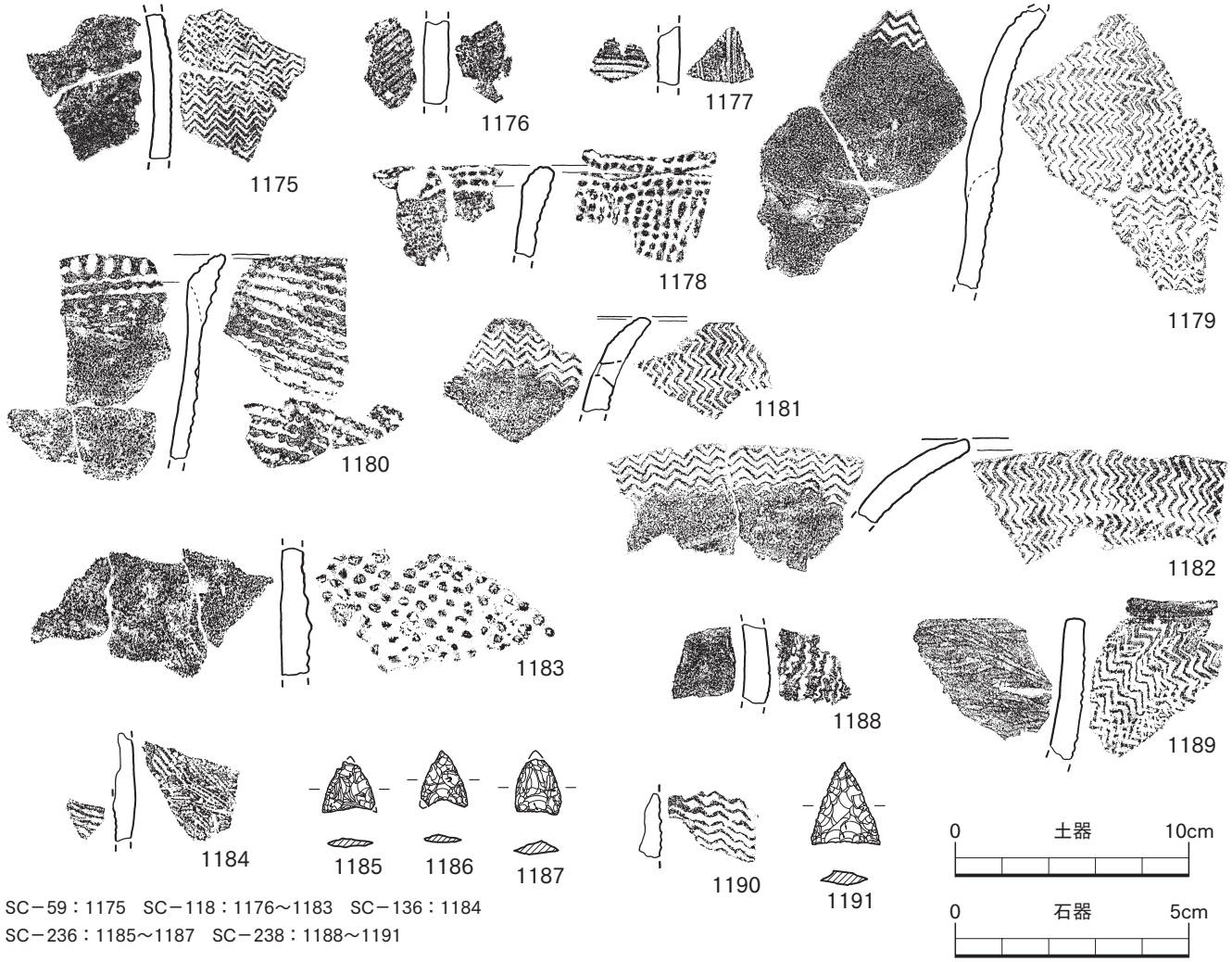
第170図　縄文早期土坑実測図①（S=1/40）



第171図　縄文早期土坑実測図②（S=1/40）

SC－66 は SI－23 の礫のつまり具合を見るとこれを切っていたようだが、SI－23 のほうを先に検出してしまっており、平面形はやや不明瞭である。現状の検出面での規模は 1.57m×0.75m 以上の不整楕円形プランを呈し、深さは 33cm を測る。

SC－118 は検出面での規模が 1.44m×1.25m の不整楕円形プランを呈し、深さは 37cm を測る。遺構埋土からは土器片 12 点(押型文 10:1178 ～ 1183 、条痕文土器 2 類 2:1176・1177)、チャート製剥片 1 点が出土している。



SC－59：1175　SC－118：1176～1183　SC－136：1184
SC－236：1185～1187　SC－238：1188～1191

第172図　縄文早期土坑出土遺物実測図①（S=1/3・2/3）

SC－142 は検出面での規模が 1.34m×1.28m の不整円形プランを呈し、深さは 41cm を測る。遺構埋土からは不明土器片 3 点(別府原式と塞ノ神式か)、西北九州産黒曜石製剥片 1 点が出土している。

SC－144 は検出面での規模が 1.44m×0.63m の不整長楕円形プランを呈し、深さは 56cm を測る。西側にテラス状の平坦面を持つ。

SC－145 は検出面での規模が 0.91m×0.79m の不整円形プランを呈し、深さは 19cm を測る。

SC－195 は検出面での規模が 1.7m×0.85m の不整長楕円形プランを呈し、深さは 16cm を測る。

SC－196 は検出面での規模が 0.95m×0.63m の不整楕円形プランを呈し、深さは 12cm を測る。

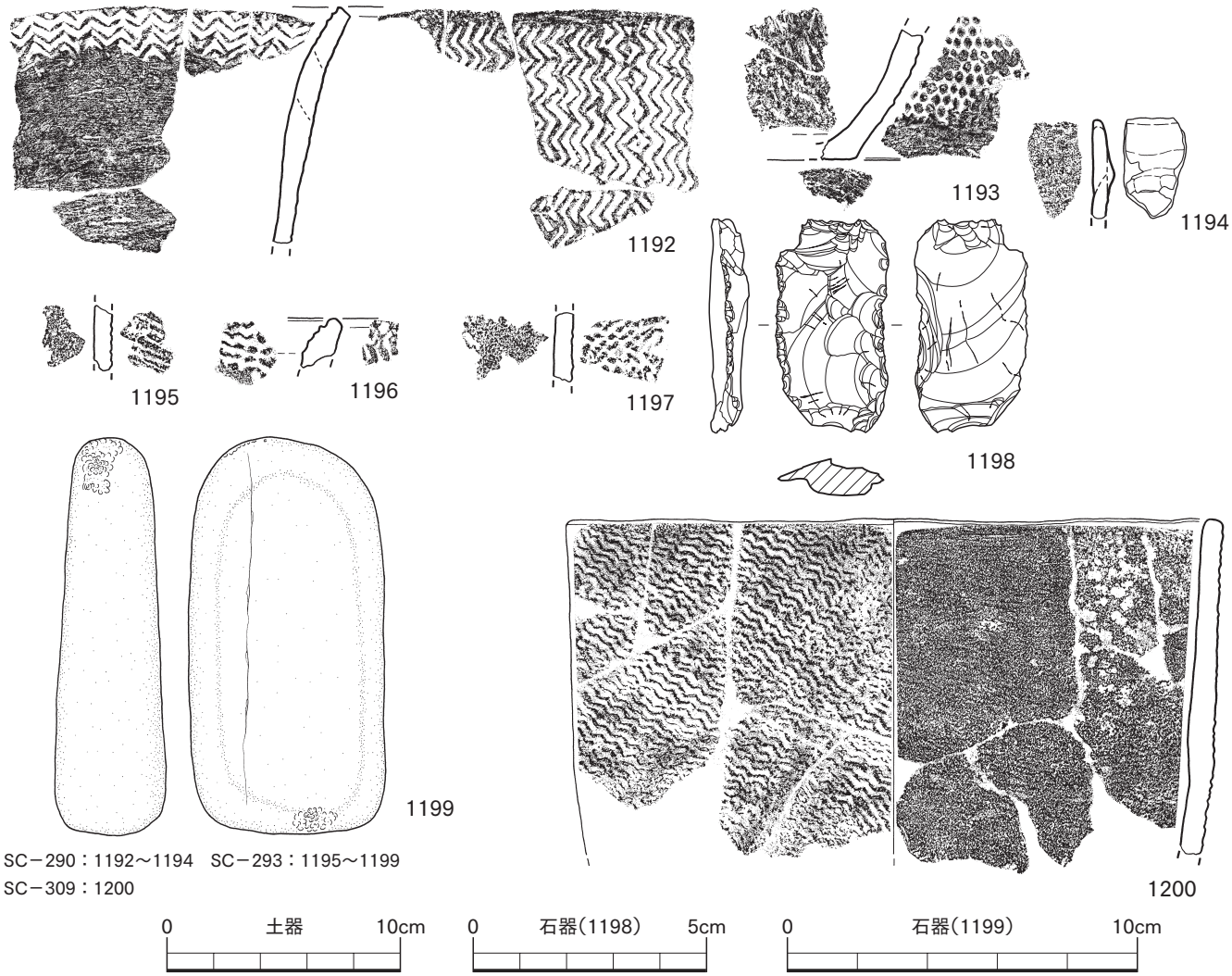
SC－215 は南側にある SI － 176 の調査後に検出された。検出面での規模は 0.89m×0.67m の長楕円形プランを呈し、深さは 0.87m を測る。

SC－226 は検出面での規模は 0.98m×0.89m の不整円形プランを呈し、深さは 25cm を測る。遺構埋土からは剥片 3 点(頁岩 1 、チャート 1 、桑ノ木津留産黒曜石 1)が出土している。

SC－236 は調査区全体の土層確認用のあぜの位置にあり、その掘削作業中に検出されたため、一部を検出前に壊してしまい不明瞭となってしまった。現状の検出面での規模が 1.44m 以上 ×1.45m の不整円形プランを呈し、深さは 25cm を測る。遺構埋土からは不明土器片 1 点、桑ノ木津留産黒曜石 3 点(1185 ～ 1187)、剥片 34 点(頁岩 2 、チャート 2 、桑ノ木津留産黒曜石 28 、砂岩 2)、水晶片 2 点が出土している。

SC－238 は検出面での規模は 2.17m×1.35m の不整楕円形プランを呈し、深さは 42cm を測る。遺構埋土からは土器片 15 点(下剥峯式 4：1188 、押型文 2：1189 、不明土器 1：塞ノ神式か、隆帯文の無文部位 8)、チャート製石鏃 1 点(1191)、剥片 7 点(チャート 2 、桑ノ木津留産黒曜石 4 、砂岩 1)が出土している。

SC－268 は SI－2 に切られており不明瞭だが、現状の検出面での規模は 1.68m×0.67m の不整長楕円形プランを呈する。床面は北から南へ緩やかに傾斜しており、最深部は 25cm を測る。



第173図　縄文早期土坑出土遺物実測図②（S=1/3・2/3・1/2）

SC－287 は検出面での規模は 0.79m×0.77 の不整円形プランを呈し、深さは 19cm を測る。遺構埋土からは土器片 2 点(下剥峯土器 1 、不明 1)、チャート製剥片 1 点が出土している。

SC－290 は検出面での規模は 1.14m×1m の不正円形プランを呈し、深さは 30cm を測る。遺構埋土から土器片 11 点(押型文 2：1192・1193 、隆帯文：4 類 1・無文部位 8)、剥片 5 点(頁岩 2 、チャート 2 、砂岩 1)、砂岩製敲石 1 点が出土している。本遺構は当初検出層がⅧ層下部付近であったことから草創期のものと認識していたが、整理作業によって大振りの押型文土器片が伴っていたことが判明したため、早期のものと判断した。

SC－293 は東側を SI－205 に切られ、西側は調査区外に伸びているため不明瞭だが、現状の検出面での規模は 1.82m 以上 ×1.75m の不整楕円形プランを呈し、深さは 50cm を測る。北側にテラスが見られる。遺構埋土からは土器片 16 点(別府原式 1：1195 、押型文 6：1196・1197 、不明 9：隆帯文の無文部位を含むか)、頁岩製スクレイパー 1 点(1198)、剥片 10 点(頁岩 4 、チャート 3 、砂岩 2 、緑色堆積岩 1)、砂岩製敲石 1 点(1199)が出土している。

SC－295 は SI－239 の掘り込みの完掘後にその床面で検出された。検出面での規模は 0.67m×0.47m の長楕円形プランを呈し、深さは 28cm を測る。床面西側にテラスが見られる。礫を多く含んでおり、SC－294 と同じように SI－239 の下部構造である可能性も考えられる。遺構埋土からは礫以外の出土遺物はない。

SC－304 は検出面での規模は 0.91m×0.74m の不整楕円形プランを呈し、深さは 21cm を測る。

SC－309 は SI－254 に南側を大きく切られており一部しか残っていなかった。現状の検出面での規模は 1.14m 以上 ×1.02m の不整円形プランを呈し、深さは 12cm を測る。遺構埋土からは土器片 3 点(押型文 1:1200 、不明 2:隆帯文の無文部位か)、砂岩製剥片 1 点が出土している。1200 の反転復元による口縁部径は 27.1cm を測る。